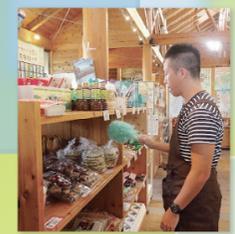


平成28年度「道の駅」と大学の連携・交流に関する取り組みのご紹介



平成28年度  
「道の駅」と大学の連携・交流に関する  
取り組みのご紹介

平成29年3月 国土交通省 全国「道の駅」連絡会

全国「道の駅」連絡会事務局  
〒135-0042 東京都江東区木場2-15-12 MAビル3階  
TEL 03-5621-3188 / FAX 03-5621-3177  
E-mail info@michi-no-eki.jp



— 目 次 —

【はじめに】

1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取組について ……	1
2. 平成 28 年度夏期 就労体験型実習実施状況（マッチング結果）	
（1）就労体験型 基本協定締結大学 ……	2
（2）就労体験型 受入「道の駅」 ……	3
（3）マッチング結果 ……	5
（4）平成 28 年度夏期 就労体験型実習結果 ……	7
（5）基本協定（ひな形）、各様式等 ……	45
3. 平成 28 年度 連携企画型実習結果	
（1）連携企画型実習状況 ……	52
（2）平成 28 年度 連携企画型実習結果概要 ……	53

【はじめに】

「道の駅」には地域の観光資源や魅力を語る人材が集まっており、地域の課題を解決する拠点となっています。また、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するためには、現場での就労体験を通して、実際的な知識や技術を学ぶことが重要です。

このため、国土交通省では「道の駅」を、観光振興や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップの場として本格活用することとしました。

これまで、「道の駅」において、地元大学等と個別に連携を行う事例はありましたが、全国の「道の駅」を対象に実施することにより、都市部の学生が地方部の「道の駅」で交流するなど、新たな価値の創造が期待されます。

本書は、この「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組に関して、今夏に実施された「就労体験型実習（インターンシップ）」の実績を紹介するものです。

## 1. 「就労体験型実習（インターンシップ）」に関する取組について

「道の駅」と大学の連携・交流に関する一環として、平成27年度より、観光や地域づくりを学ぶ学生が、夏期休暇等を利用し、「道の駅」で就労体験型実習（インターンシップ）を実施する取組が始まっております。

本取組は、地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図ります。



具体的な取組としては、「就労体験型」と「連携企画型」の2種類があります。過去の実施例としては、以下のとおりです。

### <就労体験型>

**「霧の森」(愛媛県四国中央市)**

- ・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。
- ・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加

**・H15からこれまで約110名が実施**  
**・そのうち2名が「道の駅」へ就職**

大学生が企画したイベント  
地元名産品「霧の森大福」

### <連携企画型>

**京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅**

- ・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン

道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発

包装デザイン打合せ  
道の駅弁当「かなん冬の集み」

本取組によって期待される効果としては、次のようなものがあります。

〈大学のメリット〉

- 地域の資源が集中し、地方が直面する課題が明確である「道の駅」をフィールドとして、机上では得ることが難しい学習が可能
- 地域の活性化の現場における将来の人材育成

〈「道の駅」のメリット〉

- 若者の視点を活かした地域づくり、若者の元気による実行力のある企画の実施
- HP作成やSNS等の若者のITスキル、情報ネットワークを活用した情報発信

## 2. 平成28年度夏期 就労体験型実習実施状況（マッチング結果）

### (1) 就労体験型 基本協定締結大学

就労体験型実習に関して、全国「道の駅」連絡会と基本協定を締結している大学は、平成28年12月現在、一つのコンソーシアムを含む63大学（大学数としては67大学）となっています。

表-1 就労体験型 基本協定締結大学一覧

平成28年12月時点					
No.	都道府県	大学名	No.	都道府県	大学名
1	北海道	北海道大学	33	岐阜県	中部学院大学
2	北海道	稚内北星学園大学	34	岐阜県	中部学院大学短期大学部
3	北海道	北星学園大学	35	静岡県	常葉大学
4	北海道	旭川大学	36	愛知県	名古屋外国語大学
5	北海道	北海道科学大学	37	愛知県	名城大学
6	北海道	釧路公立大学	38	三重県	鈴鹿大学
7	北海道	釧路短期大学	39	京都府	福知山公立大学
8	北海道	北見工業大学	40	京都府	平安女学院大学
9	青森県	青森大学	41	京都府	立命館大学
10	青森県	青森中央学院大学	42	大阪府	大阪観光大学
11	岩手県	岩手県立大学	43	大阪府	近畿大学
12	岩手県	岩手大学	44	大阪府	阪南大学
13	山形県	東北芸術工科大学	45	大阪府	桃山学院大学
14	山形県	東北公益文科大学	46	兵庫県	神戸海星女子学院大学
15	福島県	福島大学	47	兵庫県	神戸芸術工科大学
16	茨城県	茨城キリスト教大学	48	兵庫県	流通科学大学
17	茨城県	茨城県立農業大学校	49	兵庫県	神戸学院大学
18	茨城県	筑波大学	50	奈良県	帝塚山大学
19	栃木県	宇都宮大学	51	和歌山県	和歌山大学
20	栃木県	佐野短期大学	52	鳥取県	鳥取大学
21	栃木県	文星芸術大学	53	岡山県	倉敷芸術科学大学
22	埼玉県	淑徳大学	54	岡山県	岡山理科大学
23	埼玉県	立教大学	55	徳島県	徳島大学
24	東京都	跡見学園女子大学	56	香川県	香川大学
25	埼玉県	城西大学	57	愛媛県	大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会(5大学)
26	埼玉県	平成国際大学			
27	千葉県	江戸川大学	58	福岡県	九州産業大学
28	千葉県	城西国際大学	59	長崎県	長崎県立大学
29	東京都	帝京大学	60	長崎県	長崎国際大学
30	山梨県	山梨学院大学	61	長崎県	長崎総合科学大学
31	長野県	長野大学	62	大分県	日本文理大学
32	長野県	松本大学	63	宮崎県	宮崎大学

※「57 大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」は、愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学より構成されており、大学数としては67大学となる。

※都道府県は、協定締結先(学長・学部長等)により整理。

(2) 就労体験型 受入「道の駅」

就労体験型実習に対して受入を表明している「道の駅」は、平成28年12月現在、177駅となっています。

表-2 就労体験型 受入「道の駅」一覧

平成28年12月時点				
No	都道府県	市町村	道の駅名	備考
1	北海道	旭川市	あさひかわ	
2	北海道	室蘭市	みたら室蘭	
3	北海道	名寄市	もち来の里なよろ	
4	北海道	ニセコ町	ニセコビュープラザ	H26重点
5	北海道	猿払村	さるぶつ公園	
6	北海道	更別村	さらべつ	
7	北海道	幕別町	赤穂	
8	北海道	羅臼町	知床・らうす	
9	北海道	東川町	ひがしかわ「道草館」	
10	北海道	厚岸町	厚岸グルメパーク	
11	青森県	浪岡市	なみおか	
12	青森県	東津軽郡今別町	いまべつ	
13	青森県	七戸市	しちのへ	
14	青森県	弘前市	ひろさき	
15	青森県	十和田市	奥入瀬	
16	青森県	十和田市	とわだ	
17	岩手県	花巻市	石巻谷	
18	岩手県	遠野市	遠野風の丘	モデル
19	岩手県	野田村	のだ	
20	岩手県	雫石町	雫石あねっこ	
21	岩手県	釜石市	釜石仙人峠	
22	宮城県	登米市	湊山	
23	宮城県	大崎市	あー伊達な道の駅	H26重点
24	秋田県	横手市	きんない	
25	秋田県	横手市	十文字	
26	秋田県	北秋田市	あに	
27	秋田県	北秋田市	たかのす	
28	秋田県	にかほ市	象潟	H26重点
29	秋田県	潟上市	てんのう	
30	秋田県	潟上市	しょうわ	
31	秋田県	湯沢市	おがち	
32	秋田県	秋田市	あきた港	
33	秋田県	鹿角市	かつの	
34	秋田県	美郷町	霧の里せんなん	
35	山形県	村山市	むらやま	
36	山形県	高島町	たかはた	
37	山形県	遊佐町	島海	
38	山形県	米沢市	たざわ	
39	福島県	天栄村	羽鳥湖高原	
40	福島県	磐梯町	ばんだい	
41	福島県	会津町	会津柳津	
42	福島県	昭和村	からむし織の里しょうわ	
43	福島県	湯川村・会津坂下町	あいづ 湯川・会津坂下	
44	茨城県	常陸太田市	きとみ	
45	茨城県	常陸太田市	ひたちおた	H26重点
46	茨城県	東茨城郡城里町	かつら	
47	栃木県	宇都宮市	うつのみややまんちゅく村	
48	栃木県	栃木市	みかも	
49	栃木県	佐野市	どまんなかたぬま	
50	栃木県	茂木町	もてぎ	モデル
51	栃木県	那須町	奥山遼伊王野	
52	栃木県	那須町	那須高原友愛の森	H26重点
53	栃木県	那須川町	ぼとう	
54	群馬県	下仁田町	しもにた	H27重点
55	群馬県	高山村	中山盆地	
56	群馬県	藤岡市	ららん藤岡	
57	群馬県	甘楽町	甘楽	
58	埼玉県	吉見町	いちごの里よしみ	
59	千葉県	八千代市	やちよ	
60	千葉県	鴨川市	鴨川オーシャンパーク	
61	千葉県	山武郡芝山町	風和里しばやま	
62	千葉県	館南町	倭田小学校	
63	千葉県	旭市	季楽里(きりり) あさひ	H27重点
64	山梨県	山梨市	花かげの郷まきおか	
65	山梨県	山梨市	みとみ	
66	山梨県	北杜市	こぶさかわ	
67	山梨県	北杜市	はくしゅう	
68	山梨県	北杜市	南きよさと	
69	山梨県	中央市	とよとみ	
70	山梨県	小菅村	こすげ	
71	長野県	上田市	上田道と川の駅	
72	長野県	中野市	ふるさと豊田	
73	長野県	飯山市	花の駅千曲川	
74	長野県	東御市	雷電くまの里	H26重点
75	長野県	小県郡青木村	あおき	
76	長野県	伊那市	南アルプスむら長谷	
77	長野県	阿南町	信州新野千石平	H27重点
78	長野県	長野市	大岡特産センター	
79	新潟県	村上市	朝日	
80	新潟県	胎内市	胎内	
81	新潟県	阿賀町	阿賀の里	
82	新潟県	十日町市	瀬越えの郷せんだ	H26重点
83	石川県	珠洲市	すずなり	
84	石川県	中能登町	織姫の里なかのと	
85	石川県	高山市	ななもり清見	
86	岐阜県	高山市	バスカル清見	
87	岐阜県	関市	平成	
88	岐阜県	関市	むげ川	
89	岐阜県	中津川市	饅母	
153	愛媛県	八幡浜市	八幡浜みなと	
154	愛媛県	西国中央市	霧の森	
155	愛媛県	松野町	虹の森公園まつつ	
156	愛媛県	鬼北町	日吉夢遊地	
157	愛媛県	宇和島市	みま	
158	愛媛県	宇和島市	うわしまきさいや広場	
159	高知県	四万十町	あぐり窪川	
160	高知県	四万十町	四万十とおわ	
161	福岡県	うきは市	うきは	H26重点
162	福岡県	大牟田市	「おむた」花ぶらさ館	
163	長崎県	西海市	さいかい	
164	熊本県	菊池市	旭志	
165	熊本県	大津町	大津	
166	熊本県	阿蘇市	阿蘇	H27重点
167	熊本県	南阿蘇村	あそ望の郷きぎの	
168	大分県	豊後大野市	原尻の滝	
169	大分県	佐伯市	やよい	
170	大分県	佐伯市	かまえ	
171	宮崎県	都城	都城	
172	宮崎県	延岡市	北川は炒ま	H27重点
173	宮崎県	日南市	酒谷	H28特定テーマ型
174	宮崎県	都農町	つの	
175	宮崎県	小林市	ゆ〜ぼるのじり	
176	鹿児島県	阿久根市	阿久根	
177	鹿児島県	薩摩川内市	薩摩	

64	山梨県	山梨市	花かげの郷まきおか	
65	山梨県	山梨市	みとみ	
66	山梨県	北杜市	こぶさかわ	
67	山梨県	北杜市	はくしゅう	
68	山梨県	北杜市	南きよさと	
69	山梨県	中央市	とよとみ	
70	山梨県	小菅村	こすげ	
71	長野県	上田市	上田道と川の駅	
72	長野県	中野市	ふるさと豊田	
73	長野県	飯山市	花の駅千曲川	
74	長野県	東御市	雷電くまの里	H26重点
75	長野県	小県郡青木村	あおき	
76	長野県	伊那市	南アルプスむら長谷	
77	長野県	阿南町	信州新野千石平	H27重点
78	長野県	長野市	大岡特産センター	
79	新潟県	村上市	朝日	
80	新潟県	胎内市	胎内	
81	新潟県	阿賀町	阿賀の里	
82	新潟県	十日町市	瀬越えの郷せんだ	H26重点
83	石川県	珠洲市	すずなり	
84	石川県	中能登町	織姫の里なかのと	
85	石川県	高山市	ななもり清見	
86	岐阜県	高山市	バスカル清見	
87	岐阜県	関市	平成	
88	岐阜県	関市	むげ川	
89	岐阜県	中津川市	饅母	
153	愛媛県	八幡浜市	八幡浜みなと	
154	愛媛県	西国中央市	霧の森	
155	愛媛県	松野町	虹の森公園まつつ	
156	愛媛県	鬼北町	日吉夢遊地	
157	愛媛県	宇和島市	みま	
158	愛媛県	宇和島市	うわしまきさいや広場	
159	高知県	四万十町	あぐり窪川	
160	高知県	四万十町	四万十とおわ	
161	福岡県	うきは市	うきは	H26重点
162	福岡県	大牟田市	「おむた」花ぶらさ館	
163	長崎県	西海市	さいかい	
164	熊本県	菊池市	旭志	
165	熊本県	大津町	大津	
166	熊本県	阿蘇市	阿蘇	H27重点
167	熊本県	南阿蘇村	あそ望の郷きぎの	
168	大分県	豊後大野市	原尻の滝	
169	大分県	佐伯市	やよい	
170	大分県	佐伯市	かまえ	
171	宮崎県	都城	都城	
172	宮崎県	延岡市	北川は炒ま	H27重点
173	宮崎県	日南市	酒谷	H28特定テーマ型
174	宮崎県	都農町	つの	
175	宮崎県	小林市	ゆ〜ぼるのじり	
176	鹿児島県	阿久根市	阿久根	
177	鹿児島県	薩摩川内市	薩摩	

(3) マッチング結果

平成 28 年度夏期に実施された就労体験型実習において、大学（学生）の希望する「道の駅」とマッチングを行った結果、協定を締結している 22 大学計 48 名が全国の 28 箇所の「道の駅」で実習を行うこととなりました。

表-3 平成 28 年度夏期 就労体験型実習参加大学一覧

道の駅名	都道府県	大学名	道の駅名	都道府県	大学名
さるふつ公園	北海道	稚内北星学園大学	3名	すずなり	石川県 岡山理科大学 1名
なみおか	青森県	青森大学	1名	ななもり清見	岐阜県 中部学院大学 2名
のだ	岩手県	岩手県立大学	2名	奥伊勢おおだい	三重県 名古屋外国語大学 1名
雫石あねっこ		岩手県立大学	1名	かなん	大阪府 和歌山大学 1名
遠野風の丘		帝京大学	1名	紀ノ川万葉の里	和歌山県 大阪観光大学 1名
ばんだい	福島県	立教大学	1名	風の家	岡山県 岡山理科大学 1名
さとみ	茨城県	茨城キリスト教大学	3名	笠岡ベイファーム	岡山県 倉敷芸術科学大学 1名
かつら		茨城県立農業大学校	2名		岡山理科大学 2名
もてぎ	栃木県	跡見学園女子大学	5名	来夢とごうち	広島県 岡山理科大学 1名
中山盆地	群馬県	淑徳大学	2名	願成就温泉	山口県 青森中央学院大学 3名
		帝京大学	1名	公方の郷なががわ	徳島県 岡山理科大学 1名
とよとみ	山梨県	江戸川大学	1名	「おおむた」花ぶらす館	福岡県 岡山理科大学 1名
こすげ		帝京大学	1名		九州産業大学 1名
上田道と川の駅	長野県	帝京大学	1名	大津	熊本県 九州産業大学 1名
		鈴鹿大学	1名	原尻の滝	大分県 日本理科大学 1名
雷電くるみの里		帝京大学	1名	都城	宮崎県 長崎県立大学 1名
		長野大学	1名		

表-4 平成 28 年度夏期 就労体験型実習受入「道の駅」一覧

No	都道府県	市町村	道の駅名	備考
5	北海道	猿払村	さるふつ公園	
11	青森県	青森市	なみおか	
18	岩手県	遠野市	遠野風の丘	全国モデル
19	岩手県	野田村	のだ	
20	岩手県	雫石町	雫石あねっこ	
40	福島県	磐梯町	ばんだい	
44	茨城県	常陸太田市	さとみ	
46	茨城県	城里町	かつら	
50	栃木県	茂木町	もてぎ	全国モデル
55	群馬県	高山村	中山盆地	
69	山梨県	中央市	とよとみ	
70	山梨県	小菅村	こすげ	
71	長野県	上田市	上田道と川の駅	
74	長野県	東御市	雷電くるみの里	
83	石川県	珠洲市	すずなり	
85	岐阜県	高山市	ななもり清見	
105	三重県	大台町	奥伊勢おおだい	H27重点
112	大阪府	河南町	かなん	H27重点
117	和歌山県	かつらぎ町	紀の川万葉の里	
126	岡山県	笠岡市	笠岡ベイファーム	
129	岡山県	真庭市	風の家	
132	広島県	安芸太田町	来夢とごうち	
138	山口県	山口市	願成就温泉	
142	徳島県	阿南市	公方の郷なががわ	
162	福岡県	大牟田市	「おおむた」花ぶらす館	
165	熊本県	大津町	大津	
168	大分県	豊後大野市	原尻の滝	
171	宮崎県	都城市	都城	

(4) 平成28年度夏期 就労体験型実習結果

平成28年度夏期における就労体験型実習結果について、①に実習結果概要一覧、②に「道の駅」別の実習結果概要を示します。

① 実習結果概要一覧

No.1

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
5	北海道	猿払村	さるふつ公園	稚内北星学園大学	○実習期間:平成28年7月16日(土)~7月17日(日)【2日間】 ○実習生:稚内北星学園大学学生 3名 ○実習内容:①さるふつ観光祭イベント会場の設営・運営・撤収 ②「さるふつまるごと館」でのエンガク肉ジビエ料理の試食支援
11	青森県	青森市	なみおか	青森大学	○実習期間:平成28年8月6日(土)~8月12日(金) 平成28年8月17日(水)~8月23日(火)【14日間】 ○実習生:青森大学学生 1名 ○実習内容:①道の駅「なみおか」利用者を対象としたアンケート調査 ②駐車場の利用状況の調査 ③道の駅利用者を対象に、道の駅についての意識調査
18	岩手県	遠野市	遠野風の丘	帝京大学	○実習期間:平成28年8月10日(水)~8月24日(水)【12日間】 ○実習生:帝京大学学生 1名 ○実習内容:①道の駅「遠野風の丘」の経営・取り組みの把握 ②販売業務を行い、地元の商品をたくさん買ってもらうための工夫を知る ③インフォメーション業務から、観光案内方法を学び岩手県遠野市の魅力を発見する ④自分で課題を考え、提案・計画・作成
19	岩手県	野田村	のだ	岩手県立大学	○実習期間:平成28年8月25日(木)~8月30日(金)【6日間】 ○実習生:岩手県立大学学生 2名 ○実習内容:①ソフトクリーム販売所補佐 ②売場での接客・商品陳列・ラベル貼り ③フィールドワーク ④POP作成
20	岩手県	栗石町	栗石あねっこ	岩手県立大学	○実習期間:平成28年8月16日(火)~8月21日(日)【6日間】 ○実習生:岩手県立大学学生 1名 ○実習内容:①栗石町見学 ②道の駅オリジナル商品製造見学 ③産直野菜の農業体験 ④アンケート調査
40	福島県	磐梯町	ぼんだい	立教大学	○実習期間:平成28年8月1日(月)~8月15日(月)【15日間】 ○実習生:立教大学学生 1名 ○実習内容:①道の駅「ぼんだい」利用者調査アンケート作成・実施 ②イベントで配布されるお米のラベルのデザイン作成 ③周辺観光地・周辺道の駅調査 ④道の駅就労体験(商品の袋詰め・商品陳列作業・県道清掃等)
44	茨城県	常陸太田市	さとみ	茨城キリスト教大学	○実習期間:平成28年8月8日(月)~8月21日(日) 平成28年8月15日(月)~8月28日(日)【14日間】 ○実習生:茨城キリスト教大学学生 3名 ○実習内容:①道の駅の販売に関する業務(準備・片づけ、店舗・レストランでの接客他) ②一番人気のソフトクリームの販売と販売促進活動 ③新メニューの開発および新メニューの販売 ④道の駅看板の作成(「営業中」「新開発メニューの看板」)

- 7 -

No.2

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
46	茨城県	城里町	かつら	茨城県立農業大学校	○実習期間:平成28年8月8日(月)~8月12日(金)【5日間】 ○実習生:茨城県立農業大学校学生 2名 ○実習内容:①「道の駅かつら」における実習(施設内の清掃、商品の搬入や陳列、棚卸し、接客等) ②ホームステイ先農家における農業実習(梨園の管理、直売の準備等)
50	栃木県	茂木町	もてぎ	跡見学園女子大学	○実習期間:平成28年9月5日(月)~9月9日(金)【5日間】 ○実習生:跡見学園女子大学学生 5名 ○実習内容: <主旨> 今回の駅もてぎのインターンシップを通じて、茂木町の抱える課題解決のお手伝いをさせていただき、さらに女子大生目線、外モノ目線から茂木町の少しでもお役に立てるように茂木町の魅力の再発見、改善点の発見などを行う。 <目標> 五つの目標を立て、これらの視点から茂木町の活性化に対する提案を行う。 ①地方創生 地方都市における地方創生のあり方を茂木町の6次産業化をベースに日本の農業と観光のあり方を学ぶ。 ②定住促進 現在の茂木町の「定住」への受け入れ体制の取り組みについて学び、観光を通じて地元住民とコミュニケーションをとる機会の創出、茂木町に住む良さを知り、定住への入り口づくりを学ぶ。 ③広域観光 ツインリンクもてぎに一種集中している観光客をどのように町へを行い、観光客に人気の出そうな新たな観光資源の発掘を行う。 ④訪日外国人観光客 継続的に訪日外国人観光客に人気な場所の先進的な事例を生かして茂木町と跡見女子大学で訪日外国人観光客に対する新たな取り組みについて研究する。 ⑤ビジネスモデル 全国モデルの道の駅である「道の駅もてぎ」の人気の秘訣、秘密を探る。成功の裏にはどのような背景があるのかについて調査し学ぶ。
55	群馬県	高山村	中山盆地	淑徳大学 帝京大学	○実習期間:平成28年8月26日(金)~9月5日(月)【11日間】 ○実習生:淑徳大学学生 2名 ○実習内容:①農産物直売所、レストラン、温泉施設の運営 ②SNSによる情報発信 ③隣接するコテージの利用調査、改善案提案 ④特産品を使用したメニュー開発 ○実習期間:平成28年8月26日(金)~9月2日(金)【8日間】 ○実習生:帝京大学学生 1名 ○実習内容:①直売所での接客、パンフレット整理 ②農家での収穫体験 ③コテージの利用状況調査 ④調査結果を反映した報告会
69	山梨県	中央市	とよとみ	江戸川大学	○実習期間:平成28年8月1日(月)~8月5日(金)【5日間】 ○実習生:江戸川大学学生 1名 ○実習内容:①「道の駅」職場体験(農産物直売所のレジ体験、ハム・加工体験) ②「道の駅」農産物のポップ広告の作成 ③観光資源の視察・把握(市内観光施設 など)
70	山梨県	小菅村	こすげ	帝京大学	○実習期間:平成28年8月5日(金)~8月14日(日)【8日間】 ○実習生:帝京大学学生 1名 ○実習内容:①物産館での接客・レジ業務 ②三ヶ村祭り業務補助 ③ワークショップ業務補助 ④新製品開発会議参加

- 8 -

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
71	長野県	上田市	上田道と川の駅	鈴鹿大学	○実習期間:平成28年8月10日(水)～8月23日(火)【14日間】 ○実習生:鈴鹿大学学生 1名(ロシア人、男性) ○実習内容:①道の駅館内での接客補助 ②道の駅主催のイベント運営補助 ③農家(野菜、果樹園等)、加工場の視察、意見交換 ④顧客を対象にしたアンケート調査、分析
				帝京大学	○実習期間:平成28年8月10日(水)～8月18日(木)【9日間】 ○実習生:帝京大学学生 1名 ○実習内容:①厨房補助、レジ、イベントでのブース展開における緑日コーナーお客様対応、部会長会議傍聴 ②アンケート調査、集計、考察 ③竹内農産・マルメロの駅ながと・直売所の見学 ④交流(BBQ、外食、会員宅への宿泊等)
74	長野県	東御市	雷電くるみの里	帝京大学	○実習期間:平成28年8月16日(火)～8月23日(火)【8日間】 ○実習生:帝京大学学生 1名 ○実習内容:①店舗での接客 ②食堂でのお手伝い ③環境系の業務全般 ④お客様や生産者さんとの交流
				長野大学	○実習期間:平成28年9月1日(木)～9月11日(日)【11日間】 ○実習生:長野大学学生 1名 ○実習内容:①接客業務(農産物直売所・お土産品売店)【9/1・9/3～9/4・9/11】 ②食堂での軽食提供に係る業務全般(お食事処 湯の丸)【9/7・9/9～9/10】 ③駐車場及び公衆トイレの清掃活動【9/2・9/5～9/6】 ④イベント業務手伝い(昭和の名車・旧車イベント)【9/11】 ⑤地元生産者さんとの交流【9/9】
83	石川県	田洲市	すずなり	岡山理科大学	○実習期間:平成28年8月16日(水)～8月23日(水)【8日間】 ○実習生:岡山理科大学 1名 ○実習内容:①観光窓口補助業務・配宿手続き等 ②来店客へのアンケート調査 ③物産販売所業務補助 ④業務体験を通じた業務体験の提案 ※レポート未提出の為、②「道の駅」別実習結果概要には非掲載
85	岐阜県	高山市	ななもり清見	中部学院大学	○実習期間:平成28年8月11日(木)～8月16日(火)【6日間】 ○実習生:中部学院大学学生 2名 ○実習内容:①イベント支援 ②売店 ③レストラン・厨房 ④社長へのインタビュー
105	三重県	大台町	奥伊勢おたひ	名古屋外国語大学	○実習期間:平成28年8月23日(月)～8月28日(日)【5日間】 ○実習生:名古屋外国語大学学生 1名 ○実習内容:①アンケート調査 ②生産者対応(納品・集荷) ③事務作業 ④接客(農台)
112	大阪府	河南町	かなん	和歌山大学	○実習期間:平成28年8月16日(火)～8月30日(火)【11日間】 ○実習生:和歌山大学学生 1名 ○実習内容:①農作業 ②加工・製造

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
117	和歌山県	かつらぎ町	紀の川万葉の里	大阪観光大学	○実習期間:平成28年8月8日(月)～8月14日(日)【7日間】 ○実習生:大阪観光大学学生 1名 ○実習内容:①レジ業務補助 ②商品陳列 ③柿の葉吹き ④農業体験
126	岡山県	笠岡市	笠岡ベイファーム	岡山理科大学 倉敷芸術科学大学	○実習期間:平成28年8月19日(金)～8月29日(月)【10日間】 ○実習生:岡山理科大学学生 2名、倉敷芸術科学大学学生 1名 ○実習内容:①商品開発、企画づくり ②レジの補助 ③品出し、接客 ④花の水やり、その他業務
				倉敷芸術科学大学	○実習期間:平成28年8月19日(金)～8月29日(月)【10日間】 ○実習生:倉敷芸術科学大学学生 1名 ○実習内容:①商品開発(カフトガニケーキ) ②観光ツアープラン作り(家族向け観光ツアー) ③インターシップ成果発表会(笠岡市役所にて) ④道の駅業務(レジ、水やり、品並べ、接客 etc..)
129	岡山県	真庭市	風の家	岡山理科大学	○実習期間:平成28年8月12日(金)～8月18日(木)【6日間】 ○実習生:岡山理科大学学生 1名 ○実習内容:①レジ打ち ②商品陳列 ③とうもろこし販売
132	広島県	安芸太田町	来夢とごうち	岡山理科大学	○実習期間:平成28年8月20日(土)～9月4日(日)【16日間】 ○実習生:岡山理科大学学生 1名 ○実習内容:①祇園坊垣を使用した商品開発 ②物販(クルーズ船・ディナーショー) ③柿農園の手入れ ④資料作成(実習実施・POP・アンケート)
138	山口県	山口市	願成就温泉	青森中央学院大学	○実習期間:平成28年9月10日(土)～9月19日(月)【10日間】 ○実習生:青森中央学院大学学生 3名 ○実習内容:①道の駅内におけるレストラン等における接客業務 ②週末等に「ミニ青森フェア」を実施 ・青森のリンゴジュースの販売、大学オリジナルマンゴーゼラートの販売 ③来駅者に対するアンケート調査の実施
142	徳島県	阿南市	公方の郷ながかわ	岡山理科大学	○実習期間:平成28年8月26日(金)～9月9日(金)【15日間】 ○実習生:岡山理科大学学生 1名 ○実習内容:①周辺清掃、店内商品整理などの雑務 ②レジ打ちや接客などの業務 ③ホームページ作成 ④新企画や道の駅改善の提案

No.	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
162	福岡県	大牟田市	「おおわたり」花ぶらす館	岡山理科大学 九州産業大学	○実習期間：平成28年8月29日(月)～9月9日(金)【10日間】 ○実習生：岡山理科大学学生 1名 ○実習内容：①道の駅業務全般開店準備から閉店までの業務 ②地域の農産物販売に関する業務 ③地域特産品等の販売に関する業務 ○実習期間：平成28年8月12日(金)～9月28日(日)【13日間】 ○実習生：九州産業大学学生 1名 ○実習内容：①POP作成 ②開店・閉店作業(レジ打ち) ③奥物の集荷 ④ふるさと納税返礼品準備(梱詰め、発送)
165	熊本県	大津町	大津	九州産業大学	○実習期間：平成28年8月5日(金)～8月13日(土) 平成28年9月9日(金)～9月14日(水)【14日間】 ○実習生：九州産業大学学生 1名 ○実習内容：①お話し(道の駅大津の沿革、熊本地産についてなど) ②物産館研修(レジ業務、袋詰め、館内放送など) ③工芸館研修(レジ業務、POP作成、商品包装など) ④その他(大津マルシェへの参加、練菓子当番など)
168	大分県	豊後大野市	原原の滝	日本文理大学	○実習期間：平成28年8月12日(金)～9月26日(金)【14日間】 ○実習生：日本文理大学学生 1名 ○実習内容：①現地販売実習 ②外国人向けサービス ③新顔顧客リピーター開拓の活動 ④お祭りイベントの準備支援 ⑤理地の販売改善活動
171	宮崎県	都城市	都城	長崎県立大学	○実習期間：平成28年9月21日(水)～10月5日(水)【14日間】 ○実習生：長崎県立大学学生 1名 ○実習内容：①企業の現場視察 ②市役所でのインタビュー調査 ③道の駅でのアンケート調査

## ②「道の駅」別実習結果概要

## 道の駅「さるふつ」インターンシップ結果概要①

## 実習概要

- 実習期間：平成28年7月16日(土)～7月17日(日)【2日間】
- 実習生：稚内北星学園大学学生 3名
- 実習内容：①さるふつ観光祭りイベント会場の設営・運営・撤収  
②「さるふつまるごと館」でのエゾシカ肉ジビエ料理の試食支援

## 取組状況



&lt;イベントスタッフ顔合わせ&gt;



&lt;待設厨房の設置手伝い&gt;



&lt;さるふつまるごと館顔合わせ&gt;

## 道の駅「さるふつ」インターンシップ結果概要②

## 実習成果

- 地域イベントの裏側を学ぶことが出来ました。
- ・役場・観光協会によるイベントの裏方の苦労を実際に体験した。
- ・ホタテの差し入れや、その他学生に優しくしてくれる猿払村の方々の暖かさに触れた。
- ・多くのお客様と接することが出来た。

## ・学生による情報発信



## ・ホタテをごちそうになりました！



## 実習を終えて

- ・猿払村が好きになりました。
- ・近くに住んでいるのに、大きなお祭りをやっていること知らなかったのが驚いた。
- ・インターンシップなのに親切にしてもらい、猿払村の人たちの温かさを感じた。
- ・イベントを裏方として支えたことは初めてで勉強になった。

## 道の駅「なみおか」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月6日（土）～8月12日（金）  
平成28年8月17日（水）～8月23日（火）【14日間】
- 実習生：青森大学学生 1名
- 実習内容：①道の駅「なみおか」利用者を対象としたアンケート調査  
②駐車場の利用状況の調査  
③道の駅利用者を対象に、道の駅についての意識調査

### 取組状況



<アンケート調査実施状況>



<中間報告会の実施状況>



<報告会の実施状況>

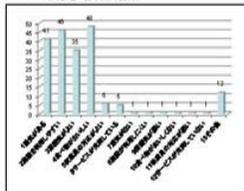
## 道の駅「なみおか」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・「道の駅」利用者への調査から、利用者の「道の駅」への印象をデータ化し、提出しました。
- ・駐車場の利用状況の調査を通して、ピークの時間帯と出入庫台数を測定しました。

・「印象」調査結果



・出入庫台数集計結果

時間	平日	休日
8時00分	12.00	12.00
8時30分	12.00	12.00
9時00分	12.00	12.00
9時30分	12.00	12.00
10時00分	12.00	12.00
10時30分	12.00	12.00
11時00分	12.00	12.00
11時30分	12.00	12.00
12時00分	12.00	12.00
12時30分	12.00	12.00
13時00分	12.00	12.00
13時30分	12.00	12.00
14時00分	12.00	12.00
14時30分	12.00	12.00
15時00分	12.00	12.00
15時30分	12.00	12.00
16時00分	12.00	12.00
16時30分	12.00	12.00
17時00分	12.00	12.00
17時30分	12.00	12.00
18時00分	12.00	12.00
18時30分	12.00	12.00
19時00分	12.00	12.00
19時30分	12.00	12.00
20時00分	12.00	12.00
20時30分	12.00	12.00
21時00分	12.00	12.00
21時30分	12.00	12.00
22時00分	12.00	12.00
22時30分	12.00	12.00
23時00分	12.00	12.00
23時30分	12.00	12.00
24時00分	12.00	12.00

### 実習を終えて

- ・「道の駅」が多くの人々に利用される仕組みについて、立ち寄りやすい雰囲気があり、食べ物おいしいなどといった利用者が満足できる条件が揃っているためであるとわかりました。
- ・利用者の声を直接聞くことが出来、印象のほか、他の道の駅のお話や以前の「道の駅」なみおかのお話といった貴重なお話を聞くことが出来ました。

## 道の駅「遠野風の丘」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月10日（水）～8月24日（水）【12日間】
- 実習生：帝京大学学生 1名
- 実習内容：①道の駅「遠野風の丘」の経営・取り組みの把握  
②販売業務を行い、地元の商品をたくさん買ってもらうための工夫を思える  
③インフォメーション業務から、観光案内方法を学び岩手県遠野市の魅力を発見する  
④自分で課題を考え、提案・計画・作成

### 取組状況



<販売業務の実施状況>



<インフォメーション・観光案内業務>



<パンフレット作成>

## 道の駅「遠野風の丘」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・岩手県遠野市が舞台になっている説話集「遠野物語」の世界をえらんで遠野市に来た利用者のために、「遠野物語」内の説話をいくつか紹介するパンフレットを作成し、その説話に登場する観光名所を地図にまどめました。



完成したパンフレットと地図は、外にある休憩コーナーの机に貼らせていただきました。



### 実習を終えて

- ・「道の駅」の現状や力を入れている取り組みを把握し、「企業は外部の学生に何を求めているのか。外部の学生という立場だからこそ貢献できる点はどこなのか。」を考え、その答え、結果を出すことができたと思う。この経験から、自分に自信を持つことができた。
- ・3日間の観光案内業務の前に実際に観光名所へ行き、その名所の魅力を感じていたため、利用者に対して具体的に魅力を伝えることができた。「紹介した名所に利用者が興味を持ってくれた瞬間」に、観光案内のやりがいを感じた。

## 道の駅「のだ」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月25日（木）～8月30日（金）【6日間】
- 実習生：岩手県立大学学生 2名
- 実習内容：①ソフトクリーム販売所補佐  
②売店での接客・商品陳列・ラベル貼り  
③フィールドワーク  
④POP作成

### 取組状況



＜売店業務＞



＜ソフトクリーム販売所での業務＞



＜フィールドワークでののだ祭見学＞

## 道の駅「のだ」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・商品のPOP作成
- ・のだ塩物語の紙芝居作成
- ・新商品・施設についての企画書



### 実習を終えて

・ただ商品を売るのではなく、お客様との対話を通して商品の魅力を伝える力を身につけることができました。道の駅を訪れてくださる方は様々で、遠方から来た人には野田村がどんな場所なのか知ってもらい、また来たいと思ってもらうことが必要だ。そのためにはまず自分たちがその場所について深く知り、どのようにPRするかが重要である。そのように自らで課題を見つけ、その解決に向けて考える力を身につけられたと思う。（学生）

・インターンシップを終えて、自分の仕事に対する考え方に新たな変化を得られたように思う。これまで様々なボランティアを経験してきたが、「仕事」をするということに、それとは違った責任ややりがいを感じさせられた。また、様々な立場の方とお話しさせていただく機会を頂いたり、のだ祭を見学させて頂いたり、非常に貴重な経験がすることができた。関わってくださったすべての方々に感謝したい。この経験を糧に自分の将来をより具体的に考えていきたい。（学生）

## 道の駅「雫石あねっこ」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月16日（火）～8月21日（日）【6日間】
- 実習生：岩手県立大学学生 1名
- 実習内容：①雫石町見学  
②道の駅オリジナル商品製造見学  
③産直野菜の農業体験  
④アンケート調査

### 取組状況



＜雫石町わさび農園見学実施状況＞



＜出荷体験の実施状況＞



＜アンケートの実施状況＞

## 道の駅「雫石あねっこ」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- アンケート
- ・3日間で107名から回答を得た。
- ・今後の理想の道の駅を模索することができた。

アンケートの様子



### 実習を終えて

・アンケートを行った結果、今後道の駅という施設全体に必要なことは、ただ野菜やお土産品を売るだけではなく、地域の声にしっかり耳を傾け経営していくことだと感じた。道の駅の中にも地域の意思より利益重視で企業独自で経営するという所もある。しかしそれでは一部の人は集まるかも知れないが、高齢者の方も気軽に立ち寄れるとは言い切れない。全ての世代が立ち寄ることができる「道の駅」を創っていくべきだと考える。

・農業体験や雫石区役所訪問などを通し、高齢化による農業や伝統工芸の「後継者不足」という問題を痛感した。高齢者の中には「農業を子供たちにやらせたくない」という人や「伝統技術を簡単に壊したくない」ために、あえて弟子を作らないという人もいるようだ。こうした現状に対し、地方自治体や周りの人々からの声掛け、協力が必要だと強く感じた。

## 道の駅「ばんだい」インターンシップ結果概要①

### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月1日（月）～8月15日（月）【15日間】
- 実習生：立教大学学生 1名
- 実習内容：①道の駅「ばんだい」利用者調査アンケート作成・実施  
②イベントで配布されるお米のラベルのデザイン作成  
③周辺観光地・周辺道の駅調査  
④道の駅就労体験（商品の袋詰め・商品陳列作業・県道清掃等）

### 取組状況



<利用者調査アンケートの実施状況>



<お米ラベル作成の実施状況>



<県道清掃の実施状況>

## 道の駅「ばんだい」インターンシップ結果概要②

### 実習成果

■道の駅が地域に果たす役割を理解することを実習目標とした。  
・アンケート調査から、主に福島県内の利用客が半数を占め、周辺住民の日常購入場所となっていることが分かった。  
・「ばんだい」でのイベント開催だけに留まらず、首都圏でのイベントにも積極的に参加していることを知った。

### 実習を終えて

・観光客のための大きなイベントを盛んに開催するのではなく、地域の方々の楽しみの一つとなるようなイベントを毎年定期的に開催している。また、周辺にはおもちゃ屋さんがいないことから、おもちゃメーカーと提携して子どものためのコーナーを設けるなど家族をターゲットにした経営をしている。小規模なイベントであっても、周辺地域に向けたものであれば十分であり、この経営方法から黒字経営・観光客入れ込み数が多いのではないかと考えることができた。  
・周辺には新しくあいつ坂下の道の駅ができたこと、猪苗代にも道の駅が新設されている状況の中で、いかにして「ばんだい」の個性を出して利用者を維持していくかが課題である。自分なりに様々な提案をさせて頂いたが、予算面や衛生面などを考慮しながら新たな魅力を企画していく難しさを実感した。



・連日混み合う店内



・積極的に県外イベントにも参加

## 道の駅「さとみ」インターンシップ結果概要①

### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月8日（月）～8月21日（日）  
平成28年8月15日（月）～8月28日（日）【14日間】
- 実習生：茨城キリスト教大学学生 3名
- 実習内容：①道の駅の販売に関する業務（準備・片づけ、店舗・レストランでの接客他）  
②一番人気のソフトクリームの販売と販売促進活動  
③新メニューの開発および新メニューの販売  
④道の駅看板の作成（「営業中」「新開発メニューの看板」）

### 取組状況



<観光案内板の書き換え>



<常陸太田市市長の来訪と新商品ぶどうパフェの試食状況>



<夏野菜カレーの調理状況>

## 道の駅「さとみ」インターンシップ結果概要②

### 実習成果

・実習生が話し合い考案したメニュー（夏野菜カレー、パフェ等）が好評でした。特に「ぶどうパフェ」は人気で、4日間で63個販売できたことは、私達の自信に繋がりました。

### 実習を終えて

・今回、泊まり込みでのインターンシップでしたので一日一日が充実していました。メンバーの得意分野を活かして協力しあい、看板作成から新開発メニューの考案・販売まで出来ました。通常の仕事に加え、新メニューの開発から販売まで行うのは大変でしたが、メニューの検討・開発、食材調達、コスト計算、販売まで体験でき内容の濃いインターンシップとなりました。今回の体験は普通の学生生活では得ることのできない貴重な体験となりました。



新商品販売所と作成した看板類



・新商品の販売状況

## 道の駅「かつら」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月8日（月）～8月12日（金）【5日間】
- 実習生：茨城県立農業大学校学生 2名
- 実習内容：①「道の駅かつら」における実習（施設内の清掃、商品の搬入や陳列、棚卸し、接客等）  
②ホームステイ先農家における農業実習（梨園の管理、直売の準備等）

### 取組状況



<商品の陳列>



<接客（レジ打ち）>



<ホームステイ先農家における梨園の管理（除草）>

## 道の駅「かつら」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- 「道の駅かつら」における実習
  - ・「道の駅」における一連の作業に携わったことで、地域における「道の駅」の役割、地域住民との関わりを理解することができた。
  - ・陳列スペースと通路について、改善提案を行った。
- ホームステイ先農家における農業実習
  - ・農家の考え方や販売方法、品質管理方法等について学ぶことができた。



ホームステイ先農家との懇談

### 実習を終えて

- ・早朝から多くの農業者の方が商品の農作物を搬入するために訪れているのを見て、「道の駅」が地域にとって、どれだけ重要な役割を担っているかということに気づかされた。
- ・ホームステイ農家では、農家の経営、作業の効率化などについて、たくさんのことを学ぶことができた。

## 道の駅「もてぎ」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年9月5日（月）～9月9日（金）【5日間】 ○実習生：跡見学園女子大学 5名
- 実習内容：
  - <主旨> 今回道の駅もてぎのインターンシップを通じて、茂木町の抱える課題解決のお手伝いをさせていただき、さらに女子大生目線、外モノ目線から茂木町の少しでもお役に立てるように茂木町の魅力の再発見、改善点の発見などを行う。
  - <目標> 五つの目標を立て、これらの視点から茂木町の活性化に対する提案を行う。
  - ①地方創生 地方都市における地方創生のあり方を茂木町の6次産業化をベースに日本の農業と観光のあり方を学ぶ。
  - ②定住促進 現在の茂木町の「定住」への受け入れ体制の取り組みについて学び、観光を通じて地元住民とコミュニケーションをとる機会の創出、茂木町に住む良さを知り、定住への入り口づくりを学ぶ。
  - ③広域観光 ツインリンクもてぎに極集中している観光客をどのように町へを行い、観光客に人気の出そうな新たな観光資源の発掘を行う。
  - ④訪日外国人観光客 継続的に訪日外国人観光客に人気な場所の先進的な事例を生かして茂木町と跡見女子大学で訪日外国人観光客に対する新たな取り組みについて研究する。
  - ⑤ビジネスモデル 全国モデルの道の駅である「道の駅もてぎ」の人気の秘訣、秘密を探る。成功の裏にはどのような背景があるのかについて調査し学ぶ。

### 取組状況

五つの視点を通じて茂木町内の現地調査を行いました！抜粋して一部をご紹介します。

<①観光資源発掘調査の実施状況> ベースとした茂木町のシナリオに関する勉強会

<②古口町長の目指す道の駅を<古口町長の目指す道の駅を>

<③ツインリンクもてぎ複集と町内のアクティビティの体験>

目標③  
広域観光

目標③  
ビジネスモデル

目標③  
広域観光

茂木町内を調査し、新たな観光資源の発掘を行いました。調査の中で見えたことになった茂木町の魅力を発見することができた。特に城山やミツタタ居住地など自然豊かな茂木町はこのエコツアーなどの自然を生かした観光客誘致が可能だと感じた。

全国レベルの道の駅と呼ばれる「道の駅もてぎ」の先進的な取り組みとして、訪れる人々のための設備、商品共に再投資を繰り返していることを学んだ。市民と働く人々の道の駅が茂木町の核となって市民の参加型のイベントの実施、町長の雇用の場をつくらせること、町長の茂木町への思いを聞くことができ非常に勉強になった。

ツインリンクもてぎに極集中している、若者の観光客を町の観光地に集めるためツインリンクもてぎのマーケティング調査とアクティビティ観光資源の調査を行いました。茂木町を流れる那珂川を活用したマリナーアクティビティを実際に体験させていただき、観光客のニーズに沿っているかを調査しました。

## 道の駅「もてぎ」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- 五つの視点からの提案 前ページの三つの現地調査から行った提案の一部をご紹介します。
- ①地方創生 茂木町の農業は先進的な6次産業化を謳っているが、観光客が直接農業を体験できる場所がない。そこで、先進的な6次産業化を生かして、観光農園を作りたい。そのための野菜をその場で地元の方々と一緒に調理するような仕組みができないか。
- ②定住促進 茂木町は手作り工房や園芸施設は多いが、雇用創出が町民の暮らしがよくなるような工夫を行っている。しかしながら、実際に暮らすことに不安を抱える方は多い。そのため、「お話し暮らし」のよう訪日外国人観光客に暮らす体験をしながら暮らすような機会を提供するのはいかがでしょうか。
- ③広域観光 茂木町内には那珂川を利川したカヌーやラフティングなどのアクティビティ施設があった。ツインリンクもてぎに極集中している観光客層は調査結果から若者やファミリー層が多いことがわかった。この二つを繋げて広域観光の実現を図れないか。
- ④訪日外国人観光客 年間を通じてツインリンクもてぎのレース目当てに訪れる訪日外国人観光客は多い。徐々に茂木町内にも訪日外国人観光客が訪れているにも関わらず、対策が整っていない。そこで、まずはハード面として外国語表記を埋めたいのはいかがでしょうか。例：道の駅もてぎ内の商品のPOPを日本人向けだけでなく外国人向けのデザイン、表記のものを含ませて作成する。
- ⑤ビジネスモデル 園芸施設や体験施設と農業体験の中で、多くの作物が規格外で店頭商品として出荷されないことがわかった。そこで、規格外の商品を生かして、その作物の持つ効用をアピールしながら新たな商品開発を行うことができないだろうか。

### 実習を終えて

今回のインターンシップを通じて道の駅は果たす地域への役割と観光の結びつきについて深く学びました。全国モデルといわれる、道の駅もてぎの取り組みとして茂木に訪れる観光客の窓口としてだけでなく、町民への雇用の場の提供や6次産業化の実現など道の駅が存在が町民の暮らしを豊かに茂木町のブランド化を促しているのだと思いました。

今後道の駅もてぎの役割として、人口減少に悩む茂木町が取り組む定住促進や町の広域観光に大きな課題であると考えています。道の駅もてぎが移住と考える観光客向けの町の情報提供の窓口へ、更には何らかの目的で茂木町を訪れた観光客向けに道の駅が核となりの情報発信を行うことで広域観光の実現、地域活性化を図るなど今後も道の駅もてぎの可能性はたくさんあります。今回のインターンを通じて学んで得たことを生かし、能力ではありますが、提案等を通じて学生目線でお手伝いできることを精一杯頑張りたいと思います。



## 道の駅「中山盆地」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月26日（金）～9月5日（月）【11日間】
- 実習生：淑徳大学学生 2名
- 実習内容：①農産物直売所、レストラン、温泉施設の運営  
②SNSによる情報発信  
③隣接するコテージの利用調査、改善策提案  
④特産品を使用したメニュー開発

### 取組状況



<直売所商品整理状況>



<メニュー開発状況>



<温泉受付にて接客状況>

## 道の駅「中山盆地」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

・特産品メニュー完成品



・観光パンフレット整頓



### 実習を終えて

- ・実習先の方、農家さん、農村の方々と直接触れ合うことで、野菜を育て、出荷するまでの苦労を学んだ。
- ・前からよく利用していた道の駅の裏側を体験、知ることができ、道の駅は遠方だけでなく地域の方々にも愛されているのだと知ることができた。
- ・都心を離れた田舎での運営の在り方、存続方法を考えさせられるとても良い機会だった。道の駅インターンシップは今回が受け入れ先も大学側も初めてということだったが、これからも続けて欲しいと思う。

## 道の駅「中山盆地」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月26日（金）～9月2日（金）【8日間】
- 実習生：帝京大学学生 1名
- 実習内容：①直売所での接客、パンフレット整理  
②農家での収穫体験  
③コテージの利用状況調査  
④調査結果を反映した報告会

### 取組状況



<①の実施状況>



<②の実施状況>



<③の実施状況>

## 道の駅「中山盆地」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

・直売所で売られている野菜のPOPを作成。

・道の駅の現状とそれに対する改善点をまとめて報告会をしました。



・POP作り



・報告会

### 実習を終えて

・中山盆地のある高山村は景色も素晴らしく、住んでいる方もあたたかくとても素敵な所でした。今回だけの関係にとどまらず、これからも出来ることがあったら、中山盆地を広めていけるような活動ができれば良いと思います。

## 道の駅「とよとみ」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月1日（月）～8月5日（金）【5日間】
- 実習生：江戸川大学学生 1名
- 実習内容：①「道の駅」職場体験（農産物直売所のレジ体験、ハム・加工体験）  
②「道の駅」農産物のポップ広告の作成  
③ 観光資源の視察・把握（市内観光施設 など）

### 取組状況



<レジ体験の実施状況>



<とうもろこし加工品の実施状況>



<ソーセージ加工見学の実施状況>

## 道の駅「とよとみ」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・農産物直売所・レストランでの地産地消の取り組み勉強する。
- ・シルクの関連施設及び商品等を学ぶ。
- ・アンケートでお客様のお声を聞く。



野菜のレシピ

お客様アンケート



### 実習を終えて

- ・地方の仕事を学び大変勉強になった。
- ・スタッフ対応でお客様の距離がとても近い施設だと感じた。
- ・とうもろこし等農産物を購入されるお客様、遠方からのお客様も多く地産地消の推進施設と感じた。

## 道の駅「こすげ」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月5日（金）～8月14日（日）【8日間】
- 実習生：帝京大学学生 1名
- 実習内容：①物産館での接客・レジ業務  
②三ヶ村祭り業務補助  
③ワークショップ業務補助  
④新製品開発会議参加

### 取組状況



<接客・レジの実施状況>



<新製品会議参加の実施状況>



<ワークショップの実施状況>

## 道の駅「こすげ」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- 地域貢献の職場を知ることができた。
- ・道の駅と小菅村が協力して行っている地域発展の為の活動を知ることができた。
- ・販売方法・価格設定を実際に教えてもらうことで物産館の仕組みをよく理解できた。
- ・職場の人との対話から多くの情報を得ることができた。

・三ヶ村祭り前夜飾り準備



・三ヶ村祭りでの舞



### 実習を終えて

- ・レジ・接客だけでなく、ワークショップやお祭り、製品開発会議への参加など多くのことを体験させていただき、とても充実した実習期間を過ごすことができました。
- ・道の駅は小菅村発展のために地域の川魚のブランド化や新商品開発など、多くのことに取り組んでおり、このような活動に自分も興味が湧きました。今後私は、地域発展に携わる仕事への就職や、ボランティア参加を考えながら学生生活を過ごしたいと思いました。

## 道の駅「上田道と川の駅」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月10日（水）～8月23日（火）【14日間】
- 実習生：鈴鹿大学学生 1名（ロシア人、男性）
- 実習内容：① 道の駅館内での接客補助  
② 道の駅主催のイベント運営補助  
③ 農家（野菜、果樹園等）、加工場の視察、意見交換  
④ 顧客を対象にしたアンケート調査、分析

### 取組状況



<道の駅館内での接客補助の様子>



<農家視察の様子>



<アンケート集計・分析作業の様子>

## 道の駅「上田道と川の駅」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

■インバウンドの増加が期待される中、外国人留学生在が地方の道の駅でインターンシップをすることにより、双方で交流が生まれ、新たなアイデアの創出や異文化理解の促進が得られた。

・イベントを通じた地域の方々との交流  
・外国人の視点からインバウンドに対する提案



### 実習を終えて

・2週間、1人で知らない土地にインターンシップをすることは、はじめは正直不安でしたが、道の駅の方々や大学の先生方のサポートによって、毎日が新しい発見の連続でした。もともと日本が好きで全国各地へ旅行はしていましたが、インターンシップでは観光施設の裏側を学習することができ、特に農家の方々との交流を通じて、ロシアとのビジネス手法の違いについて学びました。商品開発については、細かなマーケティングをしっかりと行い、短期的、長期的に戦略を立てているところは勉強になりました。将来は日本の観光施設への就職を目指して、これからも頑張っていきたいです。

## 道の駅「上田道と川の駅」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月10日（水）～8月18日（木）【9日間】
- 実習生：帝京大学学生 1名
- 実習内容：① 厨房補助、レジ、イベントでのブース展開における緑日コーナーお客様対応、部会長会議傍聴  
② アンケート調査、集計、考察  
③ 竹内農産・マルメロの駅ながと・直売所の見学  
④ 交流（BBQ、外食、会員宅への宿泊等）

### 取組状況



<アンケート集計作業の実施状況>



<物販所レジの実施状況>



<レジでの実施状況>

## 道の駅「上田道と川の駅」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

私は、今回インターンシップに参加するにあたって二つの目標を設定しました。一つ目は、積極的に行動することです。二つ目は、将来就きたい農業関係の職業への理解を深めることです。

一つ目の目標は、分からないことをしっかりと聞くことができたため、積極性が増したと思います。しかし、考えすぎてなかなか行動に移せないこともあり、全体的には達成できませんでした。

二つ目の目標は、自分がどのように農業と関わっていきたいのかが見えてきました。それは、道の駅の役割や管理運営、地域事業の考え方や、宿泊先の農家の方からもあったらいいと思うサポートの話聞いたからです。

### 実習を終えて

よりよくお客様に利用していただく改善案を見つける方法を学びました。それは、厨房で食器洗いやレジの仕事をしていてもどのようなお客様がいるのか、どのメニューが人気なのか、何を必要としているのか等から分かりました。また、アンケート調査を行いながら、アンケート結果だけでなく、お客様の視点で改善案を考えることができました。

他に、実習に来ていた他大学の留学生や長野県庁の職員の方など、普段なかなか交流することのない方々と会話することができました。なかでも、留学生との会話により外国と日本の違いを実感しました。

## 道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要①

### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月16日（火）～8月23日（火）【8日間】
- 実習生：帝京大学学生 1名
- 実習内容：①店舗での接客
  - ②食堂でのお手伝い
  - ③環境系の業務全般
  - ④お客様や生産者さんとの交流

### 取組状況



<店舗での作業の実施状況>



<厨房の手伝いの実施状況>



<環境係でのトイレ掃除の実施状況>

## 道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要②

### 実習成果

#### 道の駅「雷電くるみの里」



店舗での接客  
店舗でのレジ業務を通して、東御市の方々や観光客の方々と交流をしました。そこで、私の地元「東御市」についての意見や道の駅「雷電くるみの里」についての意見を交換しました。



### 実習を終えて

- ・私の故郷である「長野県東御市」を改めて振り返ることができました。地域の方々やそこに訪れる方々の温かみを感じることができました。（学生）
- ・農産物の生産者さん方の農家を回り、その苦労を知ることができました。ただ売っている農産物ひとつひとつに多くの苦労が詰まっていることを知りました。（学生）

## 道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要①

### 実習概要

- 実習期間：平成28年9月1日（木）～9月11日（日）【11日間】
- 実習生：長野大学学生 1名
- 実習内容：①接客業務（農産物直売所・お土産品売店）【9/1・9/3～9/4・9/11】
  - ②食堂での軽食提供に係る業務全般（お食事処 湯の丸）【9/7・9/9～9/10】
  - ③駐車場及び公衆トイレの清掃活動【9/2・9/5～9/6】
  - ④イベント業務手伝い（昭和の名車・旧車イベント）【9/11】
  - ⑤地元生産者との交流【9/8】

### 取組状況

<清掃活動の実施状況>



## 道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要②

### 実習成果

- お客さまとの会話を通じて、お客さまが道の駅に対して求めているニーズを調査することができ、旬の野菜やフルーツ、特産品などを求めていることが分かりました。道の駅の果たす役割や重要性を肌で感じることができました。
- 特産品や地場商品を生産している地元生産者の方との交流を通じて、苦労話ややりがいについて聞き取ることができました。

### 実習を終えて

・1日1日が、とても早く充実した11日間となりました。行う業務の一つ一つが、初体験のことでありましたが、スタッフの方々から色々教えていただきながら経験でき、スタッフの方々の大変さと苦労を体感できました。年間50万人以上のお客さまが訪れる「道の駅」になるためにはスタッフの方々の実験的な取り組みと努力があり、お客さまとの信頼関係が密接である点も体感できました。毎年恒例の大人気イベント「昭和の名車まつり」にも参加し、県外からのお客さまはじめ、多くの方と接することができ、接客業務の楽しさややりがいを感じました。今後も観光事業の最前線に携わっていきたく考えています。（学生）



## 道の駅「ななもり清見」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月11日（木）～8月16日（火）【6日間】
- 実習生：中部学院大学学生 2名
- 実習内容：①イベント支援  
②売店  
③レストラン・厨房  
④社長へのインタビュー

### 取組状況



<厨房での実施状況>



<イベントの実施状況>



<インタビューの実施状況>

## 道の駅「ななもり清見」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

#### ■道の駅「ななもり清見」への提案と道の駅のこれから

##### ななもり清見が発展するには

- 高齢者の方（県内の方）をターゲットに、日本の歴史などの展示ブースを設ける
- レストランとイベントでは、新メニューの開発を検討する  
例：牛肉のしゃぶしゃぶ、飛騨牛入りバーガー
- 売店には、お土産の試食コーナーを設ける

##### これからの道の駅

～道の駅の抱えている問題～

- 売上高の確保
- 高速道路の無料化の影響
- 農家の高齢化問題

●こうした課題を道の駅が地域連携をはかりながら、時には道の駅と自他協力しあい、改善をはかっていくことが重要だ。

インターンシップ報告会（学内）で作成したスライド

### 実習を終えて

- ・普段の、講義では学べない、ビジネスマナーを学べて、福祉とは違った視点から企業を学ぶことができた。
- ・適切な言葉遣いを学ぶことができた。
- ・上司との接し方を学ぶことができた。

## 道の駅「奥伊勢おおだい」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月23日（月）～8月28日（日）【5日間】
- 実習生：名古屋外国語大学学生 1名
- 実習内容：①アンケート調査  
②生産者対応（納品・集荷）  
③事務作業  
④接客（屋台）

### 取組状況



<納品作業の実施状況>



<事務作業の実施状況>



<集荷作業の実施状況>

## 道の駅「奥伊勢おおだい」インターンシップ結果概要②

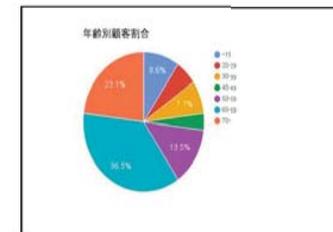


### 実習成果

#### ■アンケート調査実施を通して

- ・道の駅がどれだけ地域に根差しているかよく分かった。
- ・顧客満足度が高いのは様々な取り組み・工夫をしているからなんだと気づいた。

・アンケート調査結果（年齢）



### 実習を終えて

事前訪問を終えた段階では、就労体験として店舗内（物販・飲食）における業務補佐並びに事務所内での業務補佐をさせて頂く予定だったが、昨年度の他学生の成果報告書を見直し、アンケート調査を提案したところ、150人に聞き取りを行い満足度調査することとなった。課題とされていた納品者である生産者対応は想像していた以上に機会が多く、道の駅は「地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場」であるということを深く実感した。

## 道の駅「かなん」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月16日（火）～8月30日（火）【11日間】
- 実習生：和歌山大学学生 1名
- 実習内容：①農作業  
②加工・製造

### 取組状況



<種蒔きの実施状況>



<収穫の実施状況>



<つる撤去の実施状況>

## 道の駅「かなん」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- 農作業
  - ・種蒔きから収穫までの工程を体験、理解できた。
  - ・撤収作業は次の作物を育てることにつながるということがわかった。
- 加工・製造
  - ・商品化はできなかったが、自分で考えたレシピのパンを作った。



・クッキー作り



・パン作り

### 実習を終えて

- ・農作業では一日一日の大切さを学び、大変ではあるが日本から農業を失わせてはいけないと思った。
- ・加工場では互いに声を掛け合い、協力することの大切さを学んだ。

## 道の駅「紀の川万葉の里」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月8日（月）～8月14日（日）【7日間】
- 実習生：大阪観光大学学生 1名
- 実習内容：①レジ業務補助  
②商品陳列  
③柿の葉吹き  
④農業体験

### 取組状況



<レジ業務補助の実施状況>



<商品陳列の実施状況>



<柿の葉吹きの実施状況>



<農業体験の実施状況>  
この道の駅に出荷している  
農家の方の畑にてねぎの播  
種作業

## 道の駅「紀の川万葉の里」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- 感じた事・結果
  - ・従業員の方に店に活気がついたと言ってくれた。
  - ・高校生の時の野菜の知識を活かすことができたし、それに加えて従業員の方が新しい知識を教えてくださいました。

・従業員とお話



・万葉の里に展示されている万葉集の歌



### 実習を終えて

- ・1週間という短い間ですごく充実した時間を過ごすことができた。
- ・従業員との会話を通してグリーンツーリズムなど観光についての知識も身についた。
- ・かつらぎ町の地域の人々と会話を通して地域の人々のぬくもりを感じた。

## 道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月19日（金）～8月29日（月）【10日間】
- 実習生：岡山理科大学学生 2名、倉敷芸術科学大学学生 1名
- 実習内容：①商品開発、企画づくり
  - ②レジの補助
  - ③品出し、接客
  - ④花の水やり、その他業務

### 取組状況



<商品開発の実施状況> <品出しの実施状況> <見学の実施状況> <お土産試案の実施状況> <水やりの実施状況> <記者発表の実施状況>

## 道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- 笠岡土産の試案づくり
  - ・最終日の記者発表に向けて、笠岡土産の試作品づくりを行った。
  - ・笠岡を知るツアーを企画した。
  - ・笠岡を盛り上げるために何ができるか話し合った。
- 商品開発
  - ・カプトガニ餡餅(ケーキ)のサンプル完成
  - ・パッケージ作成
  - ・キャッチコピー作成
- ツアーの企画
  - ・ふらっとツアー

・食品サンプル



・笠岡土産の試作品



・パッケージ



・笠岡土産の試案作成

### 実習を終えて

- ・試作品を作ることの難しさを知った。自分の考えを形にすることの難しさや人に何かを伝えるためには、多くの情報や根拠となるもの、熱意が必要だということを学んだ。
- ・他の人と一緒に1つのものを作り上げることの難しさや自分の役割を考えながら行動することが大切だと思った。多くの人に話を聞くことで、経営や営業などの大変さを身をもって感じる事が出来た。
- ・商品開発にはお金と時間、労力がかかることを学んだ。
- ・地域の食品、加工品に対する見方が変わった。
- ・自分の考えを正確に伝えることの大切さを再認識した。
- ・新聞や本を活用し、自分の意見を言う・書き出す習慣づけに努めたい。

## 道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月19日（金）～8月29日（月）【10日間】
- 実習生：倉敷芸術科学大学学生 1名
- 実習内容：①商品開発（カプトガニケーキ）
  - ②観光ツアープラン作り（家族向け観光ツアー）
  - ③インターンシップ成果発表会（笠岡市役所にて）
  - ④道の駅業務（レジ、水やり、品並べ、接客 etc..）

### 取組状況



<道の駅での接客・販売>

<成果発表会>

<ツアー作成のミーティング>

## 道の駅「笠岡バイファーム」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・短期間で商品開発に力を注ぎ、アイデアを地元企業にもちこみ試作品を作ってもらった。
- ・実現可能な家族向けの観光ツアープランを提案した。
- ・最終日には市長や市役所の関係者、インターンシップ関係者を招き、成果発表会を開いた。

成果発表会の様子



商品開発で作った試作品



### 実習を終えて

- ・商品開発とツアープラン作成により頭と体の体操になった。
- ・言葉には表せないくらい世界観が自分のなかに膨らんだ。
- ・通常業務も無事こなすことができ、10日間充実したインターンシップであった。
- ・人がモノを作り、人と人がモノを扱うことの重要性を改めて知った。
- ・予想外の笠岡の風景と出逢い、観光資源としての魅力を身体で感じる事ができた。

## 道の駅「風の家」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月12日（金）～8月18日（木）【6日間】
- 実習生：岡山理科大学学生 1名
- 実習内容：①レジ打ち  
②商品陳列  
③とうもろこし販売

### 取組状況



<商品陳列の実施状況>



<レジ打ちの実施状況>



<とうもろこし販売の実施状況>

## 道の駅「風の家」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・道の駅ならではの体験もでき、実に有意義な6日間だった。

### 実習を終えて

- ・アルバイト経験もなく、それ以外にも社会の流れの1つとして特に働いたことのない私でしたが、今回の経験を就職活動、またその先の社会人としての生活に役立てたいと考えています。

## 道の駅「来夢とごうち」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月20日（土）～9月4日（日）【16日間】
- 実習生：岡山理科大学学生 1名
- 実習内容：①祇園坊垣を使用した商品開発  
②物販（クルーズ船・ディナーショー）  
③柿農園の手入れ  
④資料作成（実習実施・POP・アンケート）

### 取組状況



<商品開発>



<物販（クルーズ船）>



<柿農園の手入れ>

## 道の駅「来夢とごうち」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・柿ようかん（開発途中）



- ・物販用に作成したPOP



- ・アンケート



## 道の駅「来夢とごうち」インターンシップ結果概要③



### 実習を終えて

- 今回、道の駅「来夢とごうち」での実習内容は『商品開発・物販・農園の手入れ・資料作成』と多岐に及んだ。その多くは、普段では体験することができない大変価値のあるものだった。今回のインターンシップで一番学べたことは、視点を変えることで見えてくる新たな発見だ。まず、商品開発では、普段消費者の立場では想像もつかないほどの時間と労力が費やされていること、自分達若者と地域のご年配の方々の間にある商品に対するイメージの違いだ。次に、物販では、お客様が何を求めているのかを予測しなければならないのだが、過疎地と都会・日本人と外国人それぞれに求めているもの、人の動向が全く異なる。それによって売り場のセッティングや販売するものを変える必要があると感じた。最後に、資料作成では、自分の中では見やすい資料ができたと思っけていてもそれを読む相手からはとても見づらいと思われることも多くあるということだ。これに関しては会社に入ってから重要視されることであるため普段から心掛けていきたい。

## 道の駅「願成就温泉」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年9月10日（土）～9月19日（月）【19日間】
- 実習生：青森中央学院大学生 3名
- 実習内容：①道の駅内におけるレストラン等における接客業務  
②週末等に「ミニ青森フェア」を実施  
・青森のリンゴジュースの販売、大学オリジナルマンゴーゼラートの販売  
③来駅者に対するアンケート調査の実施

### 取組状況



<山口新聞の取材>

集計(1)

品名	件数	平均値
11. トイレの評価	82	2.69
12. 休憩施設	82	2.65
13. 駐車場		2.40
14. レストラン	74	2.55
15. 情報案内・情報発信	78	2.63
16. 清潔感	89	2.75
17. 農産物販売	81	2.72
18. 土産品販売	78	2.71
19. 温泉施設	79	2.70
20. 施設の維持	81	2.48
21. 従業員の状態	89	2.68
22. 施設内の設備	77	2.73
23. 施設内の清潔感	77	2.73
24. イベント開催等	76	2.87
25. 総合的評価	83	2.87

<施設サービスに関するアンケート>

施設	カテゴリー	件数	(全体の%)	(性別%)
1	子供の遊び場	29	31.2	36.3
2	体験施設	14	15.1	17.5
3	宿泊施設	9	9.7	11.3
4	キャンプ用具	2	2.2	2.5
5	温泉	20	21.5	25.0
6	防災備蓄	1	1.1	1.3
7	自家発電施設	0	0.0	0.0
8	バーベキュー施設	1	1.1	1.3
9	散策・遊歩道	3	3.2	3.8
10	その他	1	1.1	1.3
	不明	13	14.0	
	計	93	100.0	80

<全体に対する要望事項>

## 道の駅「願成就温泉」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

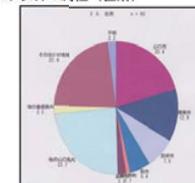
- 学生が企画した「ミニ青森フェア」を開催

- 来駅者に対するアンケートを実施(93サンプル)
  - ・属性、訪問目的、頻度
  - ・施設等に対する評価
  - ・要望事項等をまとめ分析した

・新メニューの要望

品名	カテゴリー	件数	(全体の%)	(性別%)
1	本格的なコーヒー	17	18.3	22.2
2	季節限定メニュー	18	19.4	24.0
3	スウィーツ類	1	1.1	1.3
4	たい焼き・たこ焼き	8	8.6	10.7
5	スイーツ類	17	18.3	22.2
6	飲料類	3	3.2	4.0
7	新鮮野菜サラダ	10	10.8	13.8
8	地元物産品	9	9.7	12.0
9	地元物産品を利用した料理	18	19.4	24.0
10	その他	2	2.2	2.7
	不明	18	19.4	
	計	93	100.0	75

・来駅者の属性(住所)



### 実習を終えて

- ・道の駅での就労や企画イベント等を体験して、多くの事を学ぶことができた。
- ・自分たちが企画した商品販売をしたが、天候が悪く思っていたほど売れず、「苦く」また、「ため」になる経験をした。これからはもっと余裕を持って計画を立案したいと思った。
- ・業務関連の大量のデータ入力を円滑に行えて自信になった。
- ・青森リンゴジュースやマンゴーゼラートをお客様に喜んでもらえたことが印象的だった。
- ・新聞社の取材は初めての経験で、多少緊張したが良い思い出となった。

## 道の駅「公方の郷なかがわ」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月26日（金）～9月9日（金）【15日間】
- 実習生：岡山理科大学学生 1名
- 実習内容：①周辺清掃、店内商品整理などの雑務  
②レジ打ちや接客などの業務  
③ホームページ作成  
④新企画や道の駅改善の提案

### 取組状況



<店内商品整理の実施状況>



<店内清掃の実施状況>



<レジ打ちの実施状況>

## 道の駅「公方の郷なかがわ」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ホームページ作成
  - ・活動時間の半分を利用
  - ・使い易さと見易さを重視
  - ・様々な情報を取り入れた
  - ・社員の方との協力
- アイデア、企画の提案
  - ・漁獲高日本1位の鯉の販売
  - ・「風」を売りにしたPR
  - ・すだち酒の販売
  - ・休憩スペースの整備etc..



・ホームページ作成の様子



・完成したホームページ

### 実習を終えて

- ・掃除の大変さを実感した
- 「トイレが綺麗な道の駅は本物」という言葉を社員の方に頂きました。それほどにトイレ掃除を含め道の駅が綺麗であることの大切さを学びました。
- ・ホームページがよりよい情報発信源となるように
- ホームページを作成するに伴い様々な情報を調べましたが、皆が知らないような魅力的な情報がたくさんありました。これを機に多くの人に道の駅の魅力を知ってもらいたいです。

## 道の駅「おおむた」花ぶらす館インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月29日（月）～9月9日（金）【10日間】
- 実習生：岡山理科大学学生 1名
- 実習内容：①道の駅業務全般（開店準備から閉店までの業務）  
②地域の農産物販売に関する業務  
③地域特産品等の販売に関する業務

### 取組状況



<商品陳列の実施状況>



<レジ打ちの実施状況>



<ランチパックのバック詰めの実施状況>

## 道の駅「おおむた」花ぶらす館インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・農業適正使用指導者研修会への参加
- ・生産者の方の新しい名前ラベル作成



・道の駅から離れている農家の方が道の駅で販売する果物の集荷を行った。

### 実習を終えて

- ・初めて経験することばかりで大変でしたが、あっという間で楽しく、有意義に過ごせた10日間でした。
- ・生産者の方と話したことで農業は、天候にとっても左右されるということを痛感しました。

## 道の駅「『おおむた』花ぶらす館」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月12日（金）～8月28日（日）【13日間】
- 実習生：九州産業大学学生 1名
- 実習内容：①POP作成
  - ②開店・閉店作業（レジ打ち）
  - ③果物の集荷
  - ④ふるさと納税返礼品準備（箱詰め、発送）

### 取組状況



<箱詰めの実施状況>



<品出しの実施状況>



<POP作成の実施状況>

## 道の駅「『おおむた』花ぶらす館」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- POP作成
  - ・自分の能力を試すことができた
  - ・POPで商品に目が行き、実際に購入に繋がりが自信がついた。
  - ・私の知っている知識を他の従業員の方に教えることができた。
- レジ打ち
  - ・毎日来てくださるお客様との会話がとても楽しかった。
  - ・アルバイト経験で箱のラッピングをしたことがあり、対応できた。

・実際に作ったPOP



・レジ打ち



### 実習を終えて

- ・農家さんや出品されてる方と直接お話しをすることで野菜などの知識が身につき、お客様にお勧めするときも、農家さんのお気持ちやお野菜のことを話せるのがすごく嬉しかった。
- ・自分の今できることでこんなにもお客様や花ぶらす館の方たちが喜んでくれて、今できることを全力でやるのが大切なんだと気づけた。
- ・ふるさと納税返礼品の準備する側を経験できると思ってもいなかったので良かった。
- ・営業に同行したり、集荷したりこんな経験は一生できないと思った。本当に楽しかった。

## 道の駅「大津」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月5日（金）～8月13日（土）  
平成28年9月9日（金）～9月14日（水）【14日間】
- 実習生：九州産業大学学生 1名
- 実習内容：①お話（道の駅大津の沿革、熊本地震についてなど）  
②物産館研修（レジ業務、袋詰め、館内放送など）  
③工芸館研修（レジ業務、POP作成、商品包装など）  
④その他（大津マルシェへの参加、綿菓子当番など）

### 取組状況



<②レジ業務>



<③POP>



<④大津マルシェ>

## 道の駅「大津」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- 学んだこと
  - ・道の駅が果たしている役割（地域の情報提供、休憩機能、買い物）
  - ・接客に当たっての言葉遣いや心遣い
  - ・小さな一つ一つの工夫が売り上げや経営状況に影響すること（館内放送、POP）
  - ・お客様を喜ばせる、お客様目線で仕事をする
  - ・全国道の駅の沿革、現状
  - ・観光と熊本地震と道の駅大津の関係性
  - ・自分から動くことの重要性
- 印象に残ったこと
  - ・地震後の売り上げの落ち込みを取り戻すために「今日の気付き」
  - ・地域のお祭りやマルシェなどに積極的に参加していること

### 実習を終えて

- ・仕事を覚えるのが早いことに気付いた。そのために後半ではマンネリも見られたが、それを自分で認識して、改善の意識を持って仕事に取り組めた。
- ・気になっていた地震の影響について知ることができてよかった。悪い部分だけではなく、むしろ経営を見直すきっかけになっていたことに驚いた。
- ・道の駅大津のスタッフをはじめ、お客様、役場の方、観光協会の方、ボランティアの方、他大学の学生など、たくさんの人と触れ合えて良い刺激になった。

## 道の駅「原尻の滝」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年8月12日（金）～8月26日（金）【14日間】
- 実習生：日本文理大学学生 1名
- 実習内容：①現地販売実習  
②外国人向けサービス  
③新規顧客リピーター開拓の活動  
④お祭りイベントの準備支援  
⑤現地の販売改善活動

### 取組状況



<現地販売実習状況>



<外国人向け案内作成>



<販売改善の活動実施状況>

## 道の駅「原尻の滝」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ①現地販売実習  
緒方町産の特産物を販売実習を行い、観光客にアピールした。
- ②外国人向けサービス  
韓国語のポップ作りや韓国語により案内を行った。
- ③新規顧客リピーター向け活動  
外国観光客に緒方町を案内し、町の良さを知ってもらった。
- ④お祭りイベントの準備支援  
地元の火祭りに向け地域住民と一緒に準備を行った。
- ⑤現地販売の改善活動  
韓国語の案内板を見直し、改善を行った。

インターン活動が地域GATVに放映される。



### 実習を終えて

実習を終えて、以下のような点を学び感じた。

- ・韓国観光客に地域を良さを知ってもらうことができ、国際交流に貢献できた。
- ・緒方町の文化に触れ、地域住民との絆ができ、貴重な体験になった。
- ・仕事の大変さと地域住民との交流の難しさを理解できた。
- ・原尻の滝について調査し、歴史と文化を知ることができた。

## 道の駅「都城」インターンシップ結果概要①



### 実習概要

- 実習期間：平成28年9月21日（水）～10月5日（水）【14日間】
- 実習生：長崎県立大学学生 1名
- 実習内容：①企業の現場視察  
②市役所でのインタビュー調査  
③道の駅でのアンケート調査

### 取組状況



<都城市役所のPR課の方へのインタビューの状況>



<伝統工芸である弓の制作現場の見学>



<道の駅都城でのアンケート調査の実施状況>

## 道の駅「都城」インターンシップ結果概要②



### 実習成果

- ・企業視察や市役所訪問、アンケート調査から都城市について改めて知ることができ、さらに都城市が抱える課題が見えてきた。

実習のまとめ作業の様子



成果報告会の様子



### 実習を終えて

- ・都城市は、観光資源や土地もあるため、様々な面で開拓が可能だと感じた。しかし今後まずは、都城市の認知度を上げる方法を模索し、企業や観光客を呼ぶ方法を考え、活性化の図っていく必要があると感じた。

(5) 基本協定（ひな形）、各様式等

「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定

全国「道の駅」連絡会（以下「甲」という。）と〇〇〇大学（以下「乙」という。）は、乙の所属学生（以下「学生」という。）が、「道の駅」において就労体験型実習を行うことについて、下記のとおり協定を締結する。

記

第1 目的  
「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、もって、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的として、「道の駅」就労体験型実習（以下、単に「実習」という。）を行う。

第2 就労体験型実習実施に係る基本的役割等  
甲は、全国の「道の駅」を対象として、実習の実施内容等を取りまとめ、乙に提示の上、学生を受け入れる「道の駅」の決定を行う。  
乙は、甲の提示する実習内容に基づき、派遣する学生を推薦する。また、受入が決定された学生に対し、実習中の遵守事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第3 諸条件  
実習の実施にあたって、必要な事項は学生を受け入れる「道の駅」と乙の間で別途定めるものとする。

第4 協議  
本協定に定めがない事項又は本協定に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

平成 年 月 日

甲 全国「道の駅」連絡会会長 遠野市長 本田 敏秋

乙 〇〇大学学長【学部長等でも可】 〇〇 〇〇

(別添1)

実習計画書

実習実施 「道の駅」	道の駅名	道の駅
実 習 生	所属大学等名	
	氏 名	
「道の駅」 担当者	職 名	
	氏 名	
実習計画	目 的	
	月 日	内 容

※大学担当者と「道の駅」担当者間で協議・検討し、実習内容を決定すること。  
※必要に応じて、実習計画書の体裁を変えても良い。

(別添2)

「道の駅」就労体験型実習に関する覚書

道の駅「●●●」(以下「甲」という。)と〇〇〇大学(以下「乙」という。)は、別記「道の駅」就労体験型実習生名簿に記載されている乙の所属学生(以下「学生」という。)が、甲において就労体験型実習(以下「実習」という。)を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

記

第1 実習実施に係る基本的役割等

甲は、別記のとおり学生に実習させることを目的として受け入れ、学生に対し必要な指導・助言を行う。

乙は、学生に対し、本覚書に定める事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第2 実習時間、手当等の支給及び事故への対応等(道の駅と大学で協議し内容を決定)

(1) 実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分まで(以下「定時」という。)とし、このうち午後〇時から午後〇時〇〇分までを休憩時間とする。ただし、〇〇〇にあつては、実習時間は、午前〇時〇〇分から午後〇時〇〇分までとし、このうち午後〇時〇〇分から午後〇時〇〇分までを休憩時間とする。なお、定時以外にも実習を行うことがある。

(2) 甲は、実習中、学生に対し、通勤費(自宅又は滞在先より)を原則支給しない。また、手当(日当)、食費及び旅費(滞在先までの往復旅費)は必要に応じて甲の原則負担とする。

(3) 乙は、実習中における関係他者(甲、人物、財物等)に対する法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償できるよう、学生に損害賠償保険等に参加させ、保険等の享しを甲に提出させることとする。

(4) 学生の実習期間中の災害及び通勤に際しての災害については、学生の自己責任で損害を負担するものとし、また、乙が誠意をもって問題の解決にあたるものとする。

第3 実習中における遵守事項等

(1) 学生は、実習に関する甲の指示に従い、実習期間中は実習に専念し、甲又は他の「道の駅」の信用を傷つけ、又は不名誉となるような行為を行ってはならない。

(2) 実習の欠席は、正当な事由による場合以外は認めない。やむを得ず欠席する場合は、事前に甲に申し出てその指示に従うこととする。正当な事由による場合であっても2日以上欠席した場合、甲は、実習を打ち切ることができることとする。

(3) 学生は、甲における実習活動中に知り得た情報(公開されているものを除く。)の開示については、甲の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。

(4) 学生は、実習期間終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書(様式自由)を作成し、甲に提出しなければならない。

(5) 学生は、実習の成果を論文等により発表する場合(乙の所属学生又は教職員のみに発表する場合を除く)には、事前に甲の承認を受けなければならない。

(6) 甲は、学生がこの覚書に従わない場合、その他実習を継続しがたい事由が生じた場合は実習を打ち切ることができる。甲は、実習を打ち切った場合は、速やかに乙にその旨を通知する。

第4 誓約書の提出

学生は、実習に先立ち、甲に対して誓約書(別添3)を提出する。

第5 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ1通を保管するものとする。

平成 年 月 日

(日付は、空欄。当方において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。)

甲 道の駅「●●●」責任者(首長、駅長等) ●●●●

乙 〇〇大学・・・・ 〇〇〇〇  
(総括責任者)

別記

「道の駅」就労体験型実習生名簿

受入部署名	受入開始日	受入終了日	学部・学科	氏名

(別添3)

誓約書

道の駅「●●●」責任者 殿

道の駅「●●●」において就労体験型実習を行うに当たり、「道の駅」設置者（自治体等）が定める就業体験実習に関する実施要領等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

記

1. 実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。
2. 実習期間中は「道の駅」職員が遵守すべき法令及び規則を遵守するとともに、実習生としての活動について「道の駅」担当者の指導、監督等に従うこと。
3. 実習期間中は、特定の政治政党、宗教、企業、団体の利益のための行為を行わないこと。
4. 「道の駅」における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、「道の駅」担当者の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。
5. 実習終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書（様式自由）を作成し、「道の駅」担当者に提出すること。
6. 実習の成果を論文等により発表する場合（乙の所属学生又は教職員のみ発表する場合を除く）には、事前に「道の駅」責任者（駅長等、「道の駅」設置者が設定）の承認を受けること。
7. 病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。

平成 年 月 日

大 学 等 名 学 生 氏 名 印

(別添4)

就労体験型実習受入結果報告

道の駅名	道の駅		
担当者名			
実習生名			
大学学部名等	大学	学部	学科 年
期間	月 日 ~	月 日	
出席状況	出席 日	欠席 日	
	遅刻 日	早退 日	
実習生の 実習態度	評価項目	評価	特記事項
	規律正しい態度であり、実習中支障がなかった	A・B C・D	
	業務内容の的確な理解ができていた	A・B C・D	
	業務内容に適応した行動であった	A・B C・D	
	目的意識をもって意欲的に取り組む姿勢が見られた	A・B C・D	
就労体験型実習で得られた成果 (アウトプット)			
1. 顕著な成果が得られた 2. 成果が得られた 3. あまり成果がなかった			
就労体験型実習の波及効果・良い影響 (例 職場が明るくなった、職員の IT スキル向上 等)			
今後の改善点			
その他 (感想・良かった点等自由にご記入ください。)			

評価：A (優れている) B (やや優れている) C (普通) D (劣っている) の4段階

### 3. 平成 28 年度 連携企画型実習結果

#### (1) 連携企画型実習状況

平成 28 年度においては、全国 38 箇所の「道の駅」と 37 大学との間で、連携企画型実習が実施されました。

表-5 平成 28 年度 連携企画型実習状況一覧

道の駅名	都道府県	大学名	道の駅名	都道府県	大学名
なみおか	青森県	弘前大学	砺波	富山県	富山国際大学
いまべつ	青森県	青森大学	ウェーブパークなめりかわ	富山県	富山国際大学
あ・ら・伊達な道の駅	宮城県	石巻専修大学	すずなり	石川県	金沢星稜大学
安達	福島県	福島大学	賤母	岐阜県	名古屋外国語大学
常陸大宮	茨城県	茨城大学	紀宝町ウミガメ公園	三重県	鈴鹿大学
ひたちおた	茨城県	いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム	竜王かがみの里	滋賀県	滋賀短期大学
どまんなかたぬま	栃木県	佐野短期大学	近つ飛鳥の里・太子	大阪府	京都精華大学
はが	栃木県	文星芸術大学	いずみ山愛の里	大阪府	桃山学院大学
もてぎ	栃木県	跡見学園女子大学	かなん	大阪府	大阪市立大学
甘楽	群馬県	帝京大学	但馬のまぼろば	兵庫県	甲南大学
いちごの里よしみ	埼玉県	立教大学	吉野路大塔	奈良県	帝塚山大学
めぬま	埼玉県	立正大学	ふるさとセンター大塔	和歌山県	和歌山大学
果樹公園あしがくぼ	埼玉県	淑徳大学	たからだの里さいた	香川県	香川大学
おがわまち	埼玉県	城西大学	小豆島ふるさと村	香川県	香川大学
鴨川オーシャンパーク	千葉県	城西国際大学	ビオスおおがた	高知県	高知工科大学
とよとみ	山梨県	山梨学院大学	つの	宮崎県	宮崎大学
中条	長野県	松本大学	生月大橋	長崎県	長崎県立大学
あおき	長野県	長野大学	昆虫の里たびら	長崎県	長崎県立大学
ちぢみの里おちや	新潟県	長岡技術科学大学	みえ	大分県	別府大学

※1 上記大学数は重複数を除いた合計である。

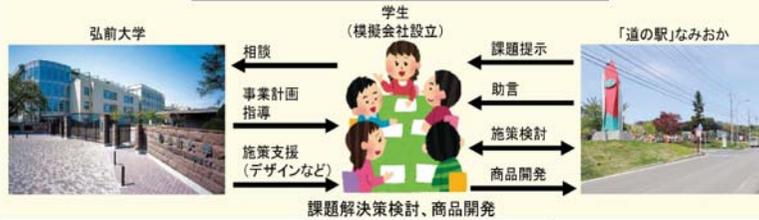
※2 いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムは4大学とするが、茨城大学は重複しているため※1に基づき合計数は1減としている。

(2) 平成28年度 連携企画型実習結果概要

道の駅「なみおか」と弘前大学との連携

「道の駅」なみおかと弘前大学(人文社会科学部)の学生が連携した、「道の駅なみおかの収益UPIに貢献できる商品」の検討・開発。

課題:道の駅収益UPIに貢献できる商品の検討・開発



**【弘前大学】**  
「教育基本法の精神にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、人類文化に貢献しうる教養豊見を備えた人格者の育成をもって目的とする。」ことを大学の基本理念としている。昨年に引き続き、人文社会科学部で開講された「ビジネスシミュレーション実習」において「道の駅なみおか」と連携した取り組みを行う。  
※ビジネスシミュレーション実習の概要  
事業の企画提案のために必要な基礎知識について事例研究や実務家の講義・指導などを受けながら学習する。また、実際に事業を企画することを想定し、企画提案書の作成方法も学習する。具体的には、青森県の企業や製品を対象とし、企業の経営戦略や、製品のマーケティング戦略について企画・検討していくものである。

**【道の駅「なみおか」】**  
「道の駅」なみおかでは大学など学校との連携をとおして、地域への貢献に繋げたいと考えている。  
弘前大学との連携は昨年から引き続き実施しているもので、今年度は「オリジナルヒット商品の検討・開発」をテーマとして連携を実施した結果、「プレミアムコーンシェイク」を発売することが出来た。

道の駅「なみおか」と弘前大学との連携

平成28年度 取組み内容:「オリジナルヒット商品」の検討・開発

**連携の感想**

**【弘前大学】(学生)**  
・実習を通して、買ってもらえる商品を企画し、販売にもっていくことの難しさを実感しました。  
・試作や、コスト面との兼ね合いなど、実際のプロセスを学ぶことができる貴重な機会でした。  
・社会人としての基礎力を鍛える良い機会にもなり、とても貴重な経験ができました。

**【道の駅「なみおか」】**  
商品開発して頂いた弘前大学の皆様に大変感謝しております。今回のシェイクに関しても、美味しいシェイクが完成しましたので、販売に向けて検討しているところです。  
限られた時間の中で試行錯誤する学生達の姿から、私達も得られるものが多かったと感じています。「道の駅なみおか」としましては、単にヒット商品を開発することだけが目的ではなく、学生達の学びの場として今後も関わっていけたらと思います。来年度も新しい企画を楽しみにしております。

道の駅「いまべつ」と青森大学との連携

国土交通省による、「道の駅」と大学の連携事業として、「道の駅」いまべつと青森大学が平成27年連携協定の覚書を交換。平成28年3月26日に開業した北海道新幹線の効果・影響の検証等を実施。

平成27年10月6日 国土交通省による、「道の駅」と大学の連携事業として、「道の駅」いまべつと青森大学が、連携協定の覚書を交換。学生の視点を生かした道の駅の活動支援事業が始まる。

連携は、学生が「道の駅」の商品開発や運営への提言を行う「連携企画型」で実施。



「道の駅」いまべつ・山田駅長へ開取(平成27年度)

- 活動計画**
- 1年目(平成27年度)
    - ・道の駅「の現状とニーズ把握
  - 2年目(平成28年度)
    - ・新幹線の効果・影響の検証
    - ・道の駅「のニーズに応じた提言・支援
  - 3年目(平成29年度)
    - ・新幹線の効果・影響の検証
    - ・学生による企画、実践の試行

**【青森大学】**  
「大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す」ことを大学の教育理念としており、地域社会との交流体験を通じて一人ひとりの個性と能力を伸ばす「実践スキルアップ」を実施している。

**【道の駅「いまべつ」】**  
平成28年3月26日に開業した、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」に隣接した「道の駅」。今後は地域の観光拠点を目指して取り組んでいくこととしている。

道の駅「いまべつ」と青森大学との連携

平成28年度 取組み内容:聞き取り調査、フィールド調査を実施

**新幹線利用の観光客が「道の駅」や今別町をどう感じるのかを実感するため、新青森駅～奥津軽いまべつ駅まで新幹線を利用しての調査を実施。**

**平成28年度 提言**

- 1. 物販について**
  - ポップを利用した販促促進
  - ターゲットの細分化
  - 日本酒「荒馬」の販売再開
  - 日本酒「荒馬」+イノシシ鍋
- 2. 交通について**
  - 「ヒッチハイク制度」の導入
- 3. 情報発信について**
  - いまべつ駅構内通路の活用
  - 「道の駅」に多機能掲示板を設置
  - SNSの公式アカウント作成
- 4. 誘客について**
  - 自然体験ツアーの確立
  - 仕事で来ている人達への取組

## 道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学との連携



石巻専修大学の学生が、「あ・ら・伊達な道の駅」(重点「道の駅」)において現地調査等を実施し、課題を抽出・整理するとともに、「あ・ら・伊達な道の駅」のポジション(ゲートウェイ型)地域の観光総合窓口機能、インバウンド観光の促進等を踏まえ、  
**○地域情報の発信拠点機能の強化 ○若者呼び込む新たな魅力の創出 ○外国人観光客への対応**  
 を重点課題として取り組み、改善策の提案や企画の立案等を行います。

- 現地調査から道の駅の課題を抽出、改善策を検討**
- 「道の駅オススメ観光マップ」等の作成、コストを意識した情報提供方法を考える。
  - 大学内で学生対象のアンケートを実施し、若者の「道の駅」利用実態とニーズを把握、新たな魅力ある企画を提案。
  - 外国人観光客に対応した情報発信、スタッフの外国語によるコミュニケーション手段の検討。



駅長から現状をヒアリング



観光名所視察調査



岩山町史勉強会



景観提案(提案)発表会

- 課題に対する具体的提案**
- 「**地域情報の発信拠点機能の強化**」について  
県や市のHP上の観光情報等をQRコードに集約し携帯端末等で読み取り情報を得る。
  - 「**若者呼び込む新たな魅力の創出**」について  
「道の駅」で販売している食材と、姉妹都市である北海道当別町のジンギスカンを食材にした「手ふるバーベキュー」の開催を提案。
  - 「**外国人観光客への対応**」について  
「指差し会話集」の活用を提案  
札幌市の「指差し接客会話シート」、茨城県観光物産協会の「外国人観光客指差し会話集」をラミネート加工し提供。  
(札幌市・茨城県観光物産協会ともに承諾済み)

【石巻専修大学】(所在地:宮城県石巻市)  
 石巻専修大学は「社会に対する積極専任」を建学の精神として1989年に開学しました。  
 本学では「実践的な教育」を教育目標に掲げ、様々な分野より専門的に学べるようコース・履修モデルを導入、さらに、実習・実習やゼミナールなど、教員との「対話」を重視し、少人数教育を行う大学ならではのきめ細かな指導を行っています。

【あ・ら・伊達な道の駅】(所在地:宮城県大崎市岩山町) **重点「道の駅」**  
 地域資源(伊達政宗の史実・文化等)を活用し、インバウンド観光を促進する拠点を構築。温泉、地域資源を活かした独自商品を開発・販売し、鴨子焼や温泉卵を「見る観光」、地域の文化・芸能を「知る観光」にそれぞれ位置づけ、一段高いレベルの観光を提供。

## 道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学との連携



平成28年度取組み内容:学生の提案を参考にして実施したサービス向上策等について、利用者や従業員から意見を聴取。  
 得られた意見を参考に改善点を抽出し、大学にフィードバックする。

**【学生の提案】**

- 地域情報発信拠点の強化について**  
⇒QRコードを活用して情報発信する改善策を提案。
- 外国人観光客への対応**  
⇒全職員が外国人観光客に対応できるように、「指差し会話集」等の活用を提案。

→QRコード大崎市観光案内

指差し会話集→

**実施状況**

- デジタルサイネージを利用した「QRコード大崎市観光案内」
- 英語表記による館内主要施設案内
- タブレット端末(10基)を各レジに設置し、多言語通訳アプリで従業員が外国人対応可能。
- 多言語通訳アプリ(音声機能付き)

「道の駅」意見:学生の提案をヒントにタブレット端末による外国人対応を検討した。音声機能付き多言語通訳アプリで従業員が外国人対応可能となったことは大きな利点であった。QRコード観光案内については、紙媒体からデジタル化することによるコスト削減に繋がった。  
 利用者意見:タブレット端末による音声付多言語通訳は大変利用し易い。また、今までの紙媒体による観光案内をデジタルサイネージでQRコードを提供することにより最新の観光情報を入手することができるので、観光客はもちろん、若者の利用率向上に繋がるとは思っていない。

更なる改善策:タブレット端末による通訳が大変好評であるが、各レジ毎にこの端末があることを周知する案内が無い、一目で端末の存在が分かるような工夫が必要。また、通訳アプリの使用頻度の高い会話を調査し従業員への外国語学習に反映させるとともに、「通訳カード」のようなものを作成し従業員が携帯することにより更なる利便性の確保に繋げることを検討する。

## 道の駅「安達」と福島大学との連携



道の駅「安達」と福島大学の学生が連携して、二本松市・市民・地元工商業者も巻き込み、地域活性化を目的とした芸術祭の企画・運営および商品開発を実施

### 【芸術祭の開催による地域活性化プロジェクト】

### 【芸術祭の概要】

- 連携の芸術祭**実行委員会立上げ  
平成28年7月5日  
テーマ、企画内容の検討  
イベント名称、開催方法および開催時期の決定  
●**市民説明会の開催**  
道の駅および二本松市内を会場とするイベント内容および開催までの準備状況説明  
第1回:平成28年8月5日  
イベントのテーマおよび企画内容について  
第2回:平成28年9月10日  
開催場所決定、持ち寄りメニューについて  
第3回:平成28年10月5日  
オープニングメニュー、今後のスケジュールについて  
●**イベント開催**  
平成28年10月8日～11月6日

- 連携とは**  
9月9日は、三日月のひとつ(重陽の節句)  
お月見で平手長舟を飾ること別名「菊の節句」  
舟を飾り、風情溢れる節句  
二本松市 日本三大菊人形・美味しい地酒・里塚伝説・智恵子抄  
⇒重陽の節句に相応しい味
- 道の駅安達および二本松市内各施設におけるイベント  
・美術品の展示(道の駅安達、市民交流センターほか)  
・ワークショップ(道の駅安達、二本松工芸館)  
(「工房」有某棟)など協働で仕事を「場」教育研修の手法で参加体験型のグループ学習  
・シンポジウム(福島県男女共生センター)  
(協会の前で、特定の課題について何人かが意見を述べ、事業者と質疑応答を行う形式の討論会)  
・ダンス公演(安達ヶ原ふるさと村)
- オリジナル商品**  
・重陽井(道の駅・安達ヶ原ふるさと村で期間限定販売)  
・二本松方言焼(道の駅・安達ヶ原ふるさと村で限定販売)  
・記念Tシャツ(道の駅・安達ヶ原ふるさと村で限定販売)

### 発展

### オリジナル商品の開発・販売

国立大学法人福島大学  
 「新たな地域社会の創成」に貢献できる「地域とともに歩む人材育成大学」をモットーに、地域貢献活動に力を入れている。地域の中核的な知の拠点として、福島県及び地域社会が抱える課題の解決に貢献する活動を積極的にを行い、社会の活性化と産業の成長に貢献することを目的としている。平成28年度は道の駅「安達」と人間発達文化学知探索院一足との連携により、「芸術祭の開催による地域活性化プロジェクト」を実施した。

道の駅「安達」智恵子の里  
 『智恵子抄』で有名な高村光太郎の妻、高村智恵子生誕の地。  
 『ほんとうの空』のにも、全国でも珍しい上下線ともある道の駅です。  
 特徴として、上り線に千年の歴史を持つ上川崎和紙を体験できる施設があり、下り線には50種類以上ある焼きたてパンを毎日販売しています。  
 広い芝生広場もあり、上下線ともに一日中楽しめる道の駅です。

## 道の駅「安達」と福島大学との連携



平成28年度 取組み内容:道の駅と二本松市内を会場にしたイベントの企画・運営  
**美術品の展示** (会場:道の駅安達、市民交流センター、菊人形会場、滝ヶ城天守台、二本松工芸館ほか)

○道の駅「安達」智恵子の里 上り線 和紙伝承館 開催期間:10月8日～11月6日

上川崎和紙を使用した  
 福島大学院生 北村はるか 作品展示



北村 美千夏



山崎 千穂



ワークショップ

○二本松工藝館 2F キャラリー 開催期間：10月11日～11月6日  
 テーマ「アリスの椅子」

10月10日 10:00～17:00 ワークショップ  
 会津大学短期大学部学生サポート



二本松工藝館



会津短期大学教授 桑村 昌秀



アリスの椅子



ワークショップの様子



重陽の芸術祭がきっかけのオリジナル商品

重陽の芸術祭オリジナル商品

・ 期間限定でのオリジナル商品販売

道の駅安達、安達ヶ原ふるさと村、菊人形祭り会場などで期間限定販売



二本松市万古焼 コップ商品



大七酒造コラボ商品  
 つべんに上川崎和紙使用



重陽丼



【取組の概要】

魅力的な地域資源を発掘し、道の駅から発信します。

- (1)魅力を感じていただけるイベント・ツーリズムの企画
- (2)特産物を使った商品開発
- (3)情報発信、PR

【検討の流れ・概要】

- ①地域住民との竹堤の整備：常陸大宮の地域資源である竹堤で、不要な竹の伐採を実施
- ②竹堤のPR：竹堤をPRするために、4コマ漫画を製作、配布。
- ③かわプラザの七夕：竹をいかしたイベントを企画。大宮の地域資源である「西ノ内和紙」を用いて、風づくりワークショップを実施。
- ④竹あかりまつり：1200個の竹あかりが道の駅を照らすイベントを企画した。イベント当日は、竹行灯づくりワークショップを実施。

【茨城大学人文地理学1ゼミナール】

茨城大学人文地理学1ゼミナールは、観光地理学を学ぶゼミナールです。学びの実践の場として県内の4市と連携活動を行っています。常陸大宮市では地理学という視点から地域資源を発掘するとともに、若い感性も取り入れ常陸大宮の魅力を発信していきます。

【道の駅常陸大宮】

茨城県内の12か所目の道の駅として、2016年3月に開業した。重点「道の駅」にも登録されており、洋野菜を使ったレストランや体験農園がある。道の駅沿いには久慈川が流れていて、川を見ながら休憩できる特徴がある。



平成28年度 取組み内容：道の駅「常陸大宮」との連携活動について

① 地域住民との竹堤整備

(2016年6月26日実施)



常陸大宮の地域資源「竹堤」の整備を地域住民とともに実施。竹林伐採で出た大量の竹材を使って何かできないか、地域住民と次の連携へのきっかけが生まれた。



平成28年度 取組み内容：道の駅「常陸大宮」との連携活動について

## ②竹堤のPR (2016年7月)



竹堤が常陸大宮の住民にとって、当たり前前の景色になっていて、その歴史的背景などを知っていない市民が多いこと知った私たちは、竹堤のPRマンガを製作した。七夕の時期に道の駅で配布し、多くの市民の人たちに竹堤の歴史を知ってもらえた。



平成28年度 取組み内容：道の駅「常陸大宮」との連携活動について

## ③かわプラザの七夕 (2016年6月9、10日実施)



竹を生かした七夕イベントを企画・実施。市内の幼稚園等へ短冊制作を依頼して、道の駅に多くの七夕飾りを展示した。  
竹と常陸大宮の地域資源である「西ノ内和紙」を使った凧作りワークショップも開催した。



平成28年度 取組み内容：道の駅「常陸大宮」との連携活動について

## ④竹あかりまつり (2016年7月30、31日)



1,200個の竹あかりが道の駅を照らすイベントを実施。  
竹行灯制作のワークショップも開催し、参加者が作った竹行灯も飾った。  
来訪者とともに点火を行い、一緒にイベントを作り上げられるよう工夫をした。

**道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携**

“学生による道の駅支援事業” 参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学

【取組の概要】

コンソーシアムによる多方面からの多様な連携事業の実施

- ・(1) SNSを利用した情報発信の強化  
道の駅を取り巻く地域の魅力の発信を強化することで、地域全体の活性化をサポート
- ・(2) 新たな魅力の提案（キャラクターデザインや新商品の開発、若い世代に向けた道の駅利用法の提案など）  
若者や女性を積極的に巻き込んでいくために、若者や女性に向けた魅力づくりをサポート
- ・(3) 地域の活性化に寄与する共同研究の実施

【検討の流れ・概要】

- ①常陸太田ツアー：常陸太田市の魅力を体験するツアー。
- ②市民ボランティアとの花壇整備：「黄門の郷応援団」の呼びかけで集まった約100人の市民ボランティアの皆さんとともに実施。
- ③道の駅オープニングイベント活動：道の駅ひたちおおたのオープニングイベントとして、常陸太田市名産米を使用したお煎餅の販売活動を実施。
- ④県北6市町冬の物産展及び饅頭販売の企画・開催：商品販売することを通して、学生の視点で商品や県北6市町のPRをすることを目的として企画・実施。

【いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム】

いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムは、地方創生に關し大学・高専に求められる役割を主体的かつ積極的に果たすこととし、茨城県に所在する大学・高専が協力を求め、茨城県及び南の地方公共団体、官庁に産業界等と連携・協働して地域の振興に寄与し、「いばらき」の発展に資するため、平成27年3月に県北・県東地域の4大学・高専で設立された団体。

その後、県全体で取り組むべき課題に対応する必要性から、平成28年8月に新たに9校が加わり、計13校での組織化が図られた。各校の特色を活かし、様々な分野における活動に取り組んでいる。

【いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム会員校】（平成29年1月現在・13校）  
 ◎茨城大学（水戸市） ◎茨城キリスト教大学（日立市） ◎茨城県立医療大学（那珂市） ◎茨城工業高等専門学校（ひたちなか市） ◎茨城女子短期大学（那珂市） ◎茨城大学（つくば市） ◎筑波学院大学（つくば市） ◎筑波技術大学（つくば市） ◎つくば国際大学（土浦市） ◎常磐大学（水戸市） ◎日本ウェルネススポーツ大学（取組町） ◎放送大学（茨城学習センター）（水戸市） ◎流通経済大学（龍ヶ崎市）

【道の駅ひたちおおた】

茨城県内の13カ所目の道の駅として、2016年7月に開業した。JA常陸が運営する農産物直売所をはじめ、旬の食材を使ったレストラン、カレーや常陸秋そばなどが楽しめるフードコート、年間を通してトマトの痛み取り体験ができる「体験ほ場 トマトハウス」が特徴。

**道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携**

“学生による道の駅支援事業” 参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学

平成28年度 取組み内容：道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

**①常陸太田ツアー**

（2016年5月31日開催）



常陸太田市の魅力を体験するツアー。  
道の駅ひたちおおた完成予定地から出発し、西山荘・旧市役所を見学。  
地域の魅力を再認識し、道の駅との連携のヒントを得た。

**道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携**

“学生による道の駅支援事業” 参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学

平成28年度 取組み内容：道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

**②市民ボランティアとの花壇整備**

（2016年7月2日実施）



「黄門の郷応援団」の呼びかけで集まった約100人の市民ボランティアの皆さんとともに実施。  
地元の方と交流する中で、今後の道の駅ひたちおおたに求められているものについての着想が得られた。

**道の駅「ひたちおおた」といばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムとの連携**

“学生による道の駅支援事業” 参加校：茨城大学、茨城女子短期大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学

平成28年度 取組み内容：道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

**③道の駅オープニングイベント活動**

（2016年7月21日、23日、24日実施）



道の駅のオープニングイベントとして、常陸太田市名産米を使用したお煎餅の販売を実施。  
商品の補充が追いつかないほどの盛況、予想を上回る販売数を達成。  
イベントへの参加、地域の皆さんと触れ合えたことで、次回イベントに向けた大きな活力となった。

平成28年度 取組み内容：道の駅「ひたちおおた」との連携活動について

### ④ 県北6市町冬の物産展 ～地元学生Presents 今 HOTなモノでホットとする 県北冬の物産展 in 常陸太田～ 及び鍋販売の企画・開催 (2017年1月14日、15日実施)



商品を販売することに加え、それを通して学生の視点で商品や県北6市町のPRをすることを目的とした物産展を企画・実施。  
 市のパンフレットや店舗のリーフレットをブースに置き、宣伝にも注力し、予想以上の来客があり、売り切れの商品も多数出た。  
 同時に、学園祭での学生アンケートの結果で一番人気だったキムチ鍋の販売を実施し、常陸太田産の野菜を使った鍋を通して、常陸太田をPRし、「HOT」をテーマに演出することで、話題づくりを行った。

道の駅「どまんなか たぬま」と佐野短期大学（総合キャリア教育学科）の学生が連携して、道の駅をフィールドに社会貢献（福祉事業）活動、イベントなどを企画・実施します。

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、佐野短期大学と道の駅「どまんなか たぬま」、宇都宮国道事務所で連携企画型の実習を平成27年度から実施している。

#### 取組み

- ①施設や設備の満足度などについて、学生が道の駅利用者へアンケート調査
- ②学生手作りのオレンジリボンなどを配布し、児童虐待防止の啓発活動を実施
- ③小学生の巻巻き作り体験教室やフラダンス&ファッションショー、クリスマスワークショップなどを企画・実施
- ④佐野短期大学の教員・学生と共に、道の駅従業員約60名が、日本一優しい道の駅を目指して、車いす体験などのハンディキャップ研修を道の駅で実施

「オレンジリボン運動」は、児童虐待防止推進運動のことです。子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。この運動を通して、子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、虐待

のない社会を築くことを目指しています。



#### 結果

- ①道の駅利用者へのアンケート結果をまとめ、改善点を提案しました。
- ②昨年度に続き、「オレンジリボン（児童虐待防止）運動」を道の駅から発信しました。
- ③イベントを通して地域の子ども達や高齢者の方々と交流し、賑わいを創出しました。
- ④車いす体験等により道の駅の施設点検を行ったり、障がい者等への接遇向上を学びました。

#### 【佐野短期大学】

佐野短期大学（平成29年度から「佐野日本大学短期大学」に校名変更）の学生たちは、文部科学省認可の「総合キャリア教育学科」において、栄養士、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士、社会福祉士、医療事務、観光、ファッション、ビジネス、健康スポーツなどの専門分野で学んでおり、卒業後の正規採用就職率も毎年95%以上と高率を誇っています。

同じ佐野市にある道の駅「どまんなか たぬま」をフィールドとして、短大で学んだ学習成果を活かしながら、子どもから高齢者まで楽しめるイベントの企画、商品開発、福祉的視点での改善提案、地域貢献活動に取り組みます。

#### 【道の駅「どまんなか たぬま」】

日本列島の東西南北の基準点を線で結び、その線が交わる中心点が栃木県佐野市（旧田沼郡）にあることから「どまんなか」の街。だから「どまんなか たぬま」です。

道の駅には、本格中華料理をはじめ、和洋食、スイーツなどがあり、美味しいものが揃っています。地元新鮮野菜の特産品、全盛各地のハラエティに選んだ逸品も取り揃えており、楽しく買い物ができます。夏には「おひげ屋敷」、冬には「おひげ屋敷」ミニマーケットなど年間を通してイベントも盛りだくさんで、家族みんなが楽しめる「エンターテイメント型」道の駅です。



平成28年度 取組み内容：道の駅をフィールドに社会貢献活動、イベント等を企画実施

○大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、佐野短期大学と道の駅「どまんなか たぬま」、佐野市及び宇都宮国道事務所で連携企画型の実習を平成27年度から実施している。

○平成28年度も道の駅をフィールドに様々な調査、社会貢献活動、イベント等を企画・実施しました。

- 学生による道の駅利用者へのアンケート調査を実施
- 道の駅で学生手作りのオレンジリボンとチラシを配布し、児童虐待防止啓発運動を展開
- 小学生による巻巻き作り体験教室に学生も参加



- フラダンス&ファッションショーによる道の駅利用者とのふれあい交流会を開催
- クリスマスイベント&ワークショップによる子ども達との交流イベントを開催
- 道の駅従業員が車いすなどの体験研修を行い、障がい者等への接遇向上を学びました



## 道の駅「はが」と文星芸術大学との連携



道の駅「はが」と文星芸術大学（美術学部デザイン専攻）の学生が連携して、道の駅で開催される花火大会の広報資料の制作を行います。

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、文星芸術大学と道の駅「はが」、芳賀町及び宇都宮国道事務所で連携企画型の実習を平成27年度から行っています。

### 取り組み

文星芸術大学と芳賀町と宇都宮国道事務所で打合せを行い、ポスターとチラシのデザインや構成などを検討しました。

### 結果

芳賀町にある「ロマンの碑」から「ロマン花火」の名称も付けられたことから、ポスターとチラシのデザインや構成を昔懐かしい大正ロマン/昭和モダンな雰囲気を持たせつつ、現代の若い人にもアピールできるようなポップな色合いとしました。

【芳賀町にある「ロマンの碑」】明治の天才画家、青木繁の名作の数々が福田たねの壺の中から生まれたことを記念するため、芳賀町東高橋の五行川のほとりに作られた碑と庭園。昭和49年に県立美術館が開館した「青木繁・福田たねのロマン展」が契機となって建設委員会が組織され、広く美術愛好家ら呼びかけて募金に成功し、益子町在住の彫刻家久奈氏の設計と制作により昭和51年に完成しました。



### 【文星芸術大学】

文星芸術大学（所在地：栃木県宇都宮市）は、伝統と最先端の両方に優れた優れた実習環境を持った人材の育成など広く文化に貢献できる人材育成を教育目標としており、7つの専門分野を設けています。このうち、デザイン専攻は、グラフィックデザインや装飾デザインなど4つの研究室に分かれており、造形教育に特化することなく、今のデザイナーに必要な「経営のための技術」という実践的な側面も学んでいます。また、地域社会との連携を深めるため、文庫・芸術文化地域連携センターを平成24年9月に学内に設置し、自治体と連携し、各種デザインの企画・開発に取り組んでいます。

### 【道の駅「はが」】

平成7年に公園温泉施設「ロマンの湯」をオープンし、平成13年に町の農産物・加工農産物などにより生産者と消費者を結ぶ交流の拠点として「道の駅はが」を開業しました。それらをあわせて「道の駅はが」は形成されています。湯元所では、町内の生産者が採集したての果物や野菜が農家から直接で安く販売され、物産館では、地元の特産品や地元産材のお惣菜、季節の果物がたっぷり入った手づくりジェラートなども好評です。人気の日帰り温泉施設「ロマンの湯」は、泉質の違う2種類の源泉が湧き、本格的な天然温泉を手軽に楽しめます。



## 道の駅「はが」と文星芸術大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：花火大会のポスターとチラシ制作

○大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、文星芸術大学と道の駅「はが」、芳賀町及び宇都宮国道事務所で、連携企画型の実習を平成27年度から実施している。  
○平成28年度は、学生1名が、花火大会のポスターとチラシ制作に取り組みました。

- デザインなどの打合せ状況
- 学生から花火大会関係者へポスターを渡している様子
- 学生が制作したポスターとチラシ



## 道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携



道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学（観光コミュニティ学部）の学生が連携して、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

町長や道の駅担当職員を講師に迎えた勉強会や茂木町の観光資源を訪れ、学生自ら地元への思いを聞き取り体験することで、女子大生目線から茂木町の魅力の再発見、改善点の発見などを行う

【町長を講師に迎えた勉強会】茂木町の現状に対し、道の駅が町の核となり、様々な取り組みを行っていることをお話しいただき、今回の取り組みに反映します。

### 反映

- ① 道の駅もてぎを拠点とした若者の観光需要を喚起する提案
- ② 道の駅もてぎを中心とした新しいインパウンドへの取り組みを提案
- ③ 新しい食を通じた茂木産ブランド化の開発で日本一の道の駅を目指すため、イベント等に学生が積極的に参加

### 結果

- ① ツインリンクもてぎと那珂川カヌーステーションをつなぐ新たな誘客の仕組みづくりを提案
- ② 道の駅もてぎと跡見学園女子大学によるオリジナルPOPの作成
- ③ 第1回道一グランプリに学生も参加し、客層を踏まえたPRを行い、茂木産の商品の魅力を十分に伝えることができたこともあり「グランプリ」を受賞

### 【跡見学園女子大学】

1875（明治8）年の「跡見学校」創立以来の140年の歴史ある伝統校で、実践的な教育を備え、自立した女性を育成するための教育・研究を実施することを教育理念としています。創立当初より社会での実践を重視する教育、「教育実践」に加えて、参加学生数と参加率で全国女子大学第1位の成績をあげています。進歩に参画している「観光コミュニティ学部」は、「観光」と「コミュニティ」の両面から地域を活性化させることのできる「デザイン能力」をもった女性の育成を目指し、平成27年度から新しく開設されました。観光マネジメント学科の学生が「大学生観光まちづくりコンテスト」でグランプリ（観光庁長官賞）を受賞するなど観光地づくりに関して多数の実績があります。

### 【道の駅「もてぎ」】

茂木町は、里山や棚田に代表される豊かな自然に恵まれながら、国際的サーキット「ツインリンクもてぎ」も擁するまち。「道の駅もてぎ」（所在地：栃木県芳賀郡茂木町）は、栃木県内第1号の道の駅として平成8年にオープンして以来、新たなチャレンジで発展し続ける道の駅群の「トッリーダー」的存在です。素材を選んだ人気の手作りアイスに茂木産の新鮮野菜、特産の「ゆず」や「えごま」を使ったオリジナル菓子の数々はチェックです。併せて「パワームーブメント」に、昨年、第1回道一グランプリでグランプリを受賞した店舗の「ゆず塩〜めん」といって話題に事欠かない駅です。



## 道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携



平成28年度 取組み内容：3つの視点で道の駅を核とした地域活性化の提案を行いました  
○道の駅をグレードアップさせ、日本一にするために女子大生目線、外モノ目線から茂木町の魅力を再発見、改善点の発見などを行い道の駅を拠点とした地域活性化を提案

### ●大学にて合同打合せ



「3つの目標」から茂木町を調査  
①若者需要の喚起  
②新しいインパウンドの仕組みづくり  
③茂木町の真のブランド化を促す

### ●カヌー・農業・園床しいたけ栽培体験



・カヌー体験では、茂木の綺麗な那珂川を身近に感じることができた。  
・農業体験では、農家の方から農業の抱える様々な課題をお聞きした。  
・園床しいたけ栽培体験では、茂木町の働くこととして成り立っていることを知る事ができました。

### ●女子大生目線でポップ調査・提案



訪日外国人観光客向けのポップ作りに取り組みでは！

### ●茂木町の魅力を発信



イベントを通じて茂木町のPR活動を行いました。夏の祭典「道一」グランプリに学生スタッフとして参加し、客層を踏まえたPRで商品の魅力を伝えることができたことでもグランプリを受賞しました。

### ●道の駅へ提案



・食を通じた茂木産ブランド化の発信  
・茂木町を訪れる若者の観光需要の喚起  
・基地型観光の「マリニアル」をつくる  
・アクティブプログラムの開発  
・築路表紙のPOP作成 など。

### ●茂木町の魅力的な施設を再発見



特定の観光施設に集中する観光客客客のように叩くだけの人気の出さず新たな観光資源を調査



## 道の駅「甘楽」をまち歩き観光のゲートウェイとした企画

### 〇経緯

甘楽町では、城下町・小幡の歴史環境資源を活かしたまちづくりに取り組んで参りました。平成26年度には「甘楽町観光まちづくりプラン」を策定し、道の駅を「まち歩き観光」のゲートウェイとして位置付け、地域回遊の促進を進めてきました。そのような中、大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、帝京大学・道の駅「甘楽」の連携企画型実習が始まり、甘楽町の観光プランを推進する企画に取り組んでいます。



甘楽町(まち歩きマップ) 城下町・小幡

### 〇企画提案

道の駅「甘楽」現地調査を基に企画提案しました。

- ①快適回遊につながるプログラムづくり ⇒ 「まち歩きビンゴ大会」実施
- ②地元特産品を活かしたフードメニュー開発 ⇒ 「かんらちゃんのお弁当販売」実施



道の駅「甘楽」現地調査

### 帝京大学 経済学部 観光経営学科

幅広い教養、豊かな国際感覚、確かな専門知識を合わせ持った人材を育成します

- ・観光産業を経済学、経営学の流れの中で学ぶ。
- ・旅行業務取扱管理者資格取得に向けて、万全のフォロー体制。
- ・実地で旅行業務が学べる「実習授業」が豊富。

### 道の駅「甘楽」

農特産品のお買物、お食事、城下町小幡の歴史散策や観光案内など、甘楽町に來たらず立ち寄りながら「甘楽町物産センター」道の駅「甘楽」です。豊かな自然と歴史風土に育まれ、四季折々の農家の自家用農産物と名物焼肉とが人気です。日本でここにはないイタリア直輸入のワインの販売もしています。



## 平成28年度 取組み内容：第2回まち歩きビンゴ大会（平成28年8月28日（日）開催）

〇目的 「第1回まち歩きビンゴ大会」を踏まえ、道の駅「甘楽」での継続的な実施に向けた検討を行いました。

〇まち歩きビンゴとは ビンゴカードに記載されているクイズの答えを観光資源を巡って探し、遊び感覚で甘楽町の歴史・風土を堪能することを目的とした企画です。

### ～第2回まち歩きビンゴ大会～ 平成28年8月28日（日）群馬県甘楽町開催

#### ～当日の様子～



### ～ビンゴカード(クイズ)～



〇第1回まち歩きビンゴ開催より夏休み開催とし、今後道の駅「甘楽」での継続的に実施・運営できるように参加費(100円)を試験的に徴収致しました。

〇当日は、悪天候が予想される中、地元の方々だけでなく他県(東京、神奈川、埼玉、茨城)からも参加者が見受けられました。

### ～イベント実施結果～ アンケート結果

〇参加してみた感想



〇道の駅「甘楽」で販売する場合はいくらであれば参加したいか



### ～道の駅「甘楽」で販売～

・道の駅観光案内窓口にて販売・運営がしやすいようバック化



## 平成28年度 取組み内容：お弁当販売企画（かんらちゃん弁当）

〇目的 お弁当の売り上げ及びかんらちゃんの認知度の向上

〇経緯 上里サービスエリアで「キャラクター弁当」が売れていたことに着目し、かんらちゃんが付加価値になるのではないかとお弁当販売を企画した。



キャラクターが書かれたお弁当



かんらちゃん

### ～かんらちゃん弁当企画内容及び検討フロー～

①イラストによりお弁当のイメージバースを作成



③お弁当について企画提案



②実際のおかずで、お弁当を作成



(提案内容)  
 〇道の駅に元々あるお弁当のおかずの組み合わせを提案  
 〇女性向けのメニュー  
 〇甘楽町の特産品が入るお弁当

### ～かんらちゃん弁当完成～



価格 540円(税込)

(内容)  
 〇キビ入りご飯と梅干  
 〇ほろもん揚げ(ちくわの揚げ物)  
 〇鶏の唐揚げ  
 〇麻付け玉子  
 〇こんにゃくどり辛煮  
 〇スパゲティ  
 (地元メーカー「バスタ」地元産「森みそ」ソース使用)  
 〇野沢菜漬  
 (野沢菜温泉村との「練入り」里帰り)

## 道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携

道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学（観光学部）の学生が連携して、「道の駅」の歳時記カレンダーや吉見の食材を活かした独自商品などを企画・立案します。

**吉見町の地域資源調査**  
町の魅力を追求するため、道の駅や町の地域資源調査を実施します。



### 【吉見町】

・**吉見いちご**  
合併後の昭和30年代から養蚕に代わって栽培が始まった吉見のいちご。荒川と市野川に挟まれた肥沃な大地はとびきりおいしいいちごの生育に最適で、今や県内一の生産量を誇る産地です。



・**吉見あぶら味噌**  
吉見町認定のB級グルメ「あぶら味噌」は、昔から農家で食べられていた郷土料理。米糞も高く疲労回復に効果的です。町内飲食店では、あぶら味噌ハーモニを展開中。



・**花便り(桜・菜の花／紅葉)**  
四季折々の花が楽しめるのも魅力です。特に、桜堤公園の桜のトンネルと菜の花のコントラスト、晩秋を彩る八丁湖の紅葉と紅葉をライトアップするヒーリングナイトは、吉見町自慢の景色です。



### 連携コンセプト



### 【立教大学】

立教大学観光学部(所在地:新座市)は、「道の駅」と連携し、学生の美観的学びとして様々なプログラムを実施しています。道の駅「いちごの里よしみ」を舞台とした「連携企画型」として、東教授のゼミナールに所属している学生が、コンセプトの提案や商品企画、イベント企画等、様々な課題に取り組んでいます。

### 【道の駅「いちごの里よしみ」】

埼玉県内第1位の生産量を誇る「吉見いちご」の直売やいちごのお土産が買える、「いちごの里よしみ」の道の駅。地元野菜が並ぶ農産物直売所、B級グルメが味わえる食堂、いちごをモチーフにした遊具もある広場など、年間を通して多くの来場者が賑わいます。



## 道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携

### 平成28年度 取組み内容：地域イベントの企画

#### 取組み前の調査

●吉見町の魅力を追求するため、地域資源調査



●道の駅と大学との打合せ



吉見町の「吉見のうまいもんフェア in いちごの里よしみ」で学生が「歳時記カレンダー」を配布しました。(平成28年4月23日)

学生が「吉見いちご」を用いて地域イベントを企画した、「よしみ手づくり夏祭り」を地元の皆さんとともに開催しました。(平成28年8月20日)

●「夏祭り」での「吉見いちごでランタンづくり」の様子



●「よしみ手づくり夏祭り」の新さんと



●「夏まつり」での水かけ祭りの様子



## 道の駅「めぬま」と立正大学との連携

道の駅「めぬま」と立正大学（地球環境科学部 地理学科）の学生が連携して、道の駅と国宝「妻聖天山」を核とした地域活性化に向け、地域観光情報の提供、地域情報パンフレットの制作、外国人（留学生）対象モニターツアーを実施します。

### 道の駅「めぬま」と国宝「妻聖天山」を核とした地域活性化

**妻聖天山(国史跡)観光案内**  
本館「聖天宮」は、昭和25年以前に、東平台町の英雄、高橋加次郎公により開かれたとされ、現在建物は、1700(宝暦10)年に完成しました。日本建築を研究する学生が、高橋加次郎公の、その精5のゆかり「龍王日守」とあわせて、施設に設置されています。(新座市ホームページ)



1. 学生による地域観光情報の発信  
・道の駅内に学生による観光案内デスクおよび地域連携コーナーを設置し、道の駅を拠点とした観光モデルルートを紹介  
・道の駅の紹介動画と新たな地域情報パンフレットを制作し、外部に向けて発信

2. 外国人(留学生)対象モニターツアーの実施  
・フィールドワークの調査結果をもとに、妻聖地区の体験プログラムツアーを企画、立案  
・インバウンドに対応するため、外国人(留学生)を対象としたモニターツアーの実施と事後アンケートの取りまとめ



地域活性化に向け、道の駅「めぬま」と妻聖天山訪及び観光の連携促進

### 立正大学

立正大学は(所在地:東京都品川区および埼玉浦和谷市)、2012年に開校140周年を迎えた歴史と伝統のある総合大学で、「人間・社会・地球(環境)」に関する8学部15学科を有しています。今回、企画する地球環境科学部地理学科では、人文・自然の両面から地域の事象を把握し、課題を探っていきます。2014年に大学が文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択されたことを機に、双方連携フィールドワークの発案など、学生がよりアクティブに学ぶ教育環境を整備し、新しい2015年度の活動で作成した観光マップ「妻聖山あるマップ」

### 道の駅「めぬま」

花と野菜をテーマにしたアグリパーク内の「めぬま」1階では、地元で生産された野菜を使った加工品やジャンボ稲藁などをお楽しみいただけます。また、2階のレストランでは、地元産のゆまといちごを使った「聖とる蒲焼」や蒲台産の地粉を使ったらららん、野菜を使ったフェイェットなどを提供しています。併設するパティオでは、約400種2,000株の鮮やかな花を楽しむことができます。



## 道の駅「めぬま」と立正大学との連携

### 平成28年度 取組み内容：学生による地域観光情報の発信

1. 学生主体の観光情報発信

・道の駅とイベント会場に観光案内デスクを設置(臨時・年2回)  
・道の駅に地域連携コーナーを開設(常設)



2. 動画による地域情報の発信

・学生自らの3分動画を複数作成することを確約  
・著作権、肖像権、プライバシー権などの権利関係の項目をチェック  
・インターネット(YouTube)上にアップ



3. 地域情報パンフレット(2種)の制作

・作成方針として、市外の観光客をターゲットとしたイメージ重視のパンフレットおよび妻聖地区の自然環境を学ぶパンフレットとすることを確約  
・パンフレットの贈呈(熊谷市、くまがや市、商工会ほか)



道の駅「めぬま」と立正大学との連携

平成28年度 取組み内容：外国人（留学生）対象モニターツアーの実施

■ PLAN

体験型ツアーコースの企画・立案  
 主催：立正大学地球環境科学部地理学科（片柳ゼミ・自然有志）  
 協力：道の駅「めぬま」、めぬま観光協会  
 実施内容：道の駅と妻沼観天山を中心とした日帰りツアー  
 妻沼地区での町歩き体験と自然観察  
 実施日時：2017年2月16日（木）10時～16時  
 募集対象：外国人（留学生）  
 事前準備：地元関係者への協力依頼  
 旅のしおりの作成



モニターツアーの企画・立案に向けて調査を行う。



地元の商店主に、まちづくりや観光名物の「まぐさ」について話を聞く。

■ CHECK・ACTION

インバウンド対応ツアーコースの検証と提案  
 検証：事後アンケートの集計と分析  
 提案：インバウンドに対応したツアーコース  
 熊谷市、くまがや市商工会等に提案（予定）

■ DO

モニターツアーの実施 参加者：外国人（留学生）18名（タイ、台湾、中国、ベトナム）



道の駅「めぬま」の設置と特産品について説明



観光名物「なり青豆」を食べてながら観光交流



妻沼地区の現川流況、水害の歴史について解説



モニターツアー募集チラシ（英）

道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携

横瀬町の道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学（経営学部観光経営学科）の学生が連携して、「もう一品買ってもらう」ための工夫の提案と、来訪者を介した情報発信に取り組みます。

■ 事前レクチャー

道の駅「果樹公園あしがくぼ」、横瀬町スタッフ 諸氏による講義。対象地の概要を学びました。



■ 現状把握と課題の整理

事前レクチャー、現地調査を踏まえて道の駅と周辺地域の観光について分析し、課題を整理しました。



■ 「もう一品買ってもらう」ための工夫

来訪者の属性ごとの特徴を分析して、道の駅での消費額増加や道の駅へのリピート率向上につながる取り組みを提案しました。

■ 現地調査

プロジェクトのキックオフも兼ねて対象地の現地調査を行いました。



■ 追加調査

メディア関係者のヒアリング、道の駅利用者のインタビューなどから、課題解決のヒントを探りました。



■ 来訪者を介した情報発信

3グループがそれぞれ異なるメディア（Instagram、facebook、blog）を活用して横瀬町の魅力を情報発信を実施しました。

【淑徳大学】  
 淑徳大学（経営学部所在地：埼玉県人間部三芳町）は、社会福祉の増進と教育による人間開発・社会貢献に貢献する人材の育成を目的とした大学で、2015年に創立50周年を迎えました。  
 経営学部は体験型・実地型学習を充実させていることが特徴です。講義での知識の獲得だけでなく、企業の協力を得て、学んだ知識や論理を確証・定着・発展させる取り組みを積極的に行っています。このような取り組みから、学生に広い視野を持ってもらうとともに、分析し、解決する力を養成しています。

【道の駅「果樹公園あしがくぼ」】  
 当道の駅は、秩父の山々の深い、横瀬川の清流、澄んだ空気と四季折々の花と果樹といった豊かな自然に囲まれています。駅内施設には、農産物直売、食堂、体験施設などがあり、屋外には四季折々の花を楽しむための広場があります。  
 施設のすぐ脇を流れる横瀬川の河原も散策でき、水に親しみ、ゆつくり体を休めるなど、ドライブ中のリフレッシュには最適です。花、緑、森、水といった自然のすばらしさを体験できる道の駅です。

道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携

平成28年度 取組み内容：来訪者の特性に応じた「もう一品買ってもらう」ための工夫



道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携

平成28年度 取組み内容：SNSやブログを活用した情報発信による観光振興と誘客促進  
観光とメディアゼミ

「観光とメディア」をテーマにした  
千葉ゼミのこれまでの取り組み



観光振興を目的とした情報発信とそのサイクル



・鉄道駅から直結の道の駅という利便性をかんがみて、周辺における新たな観光資源を発掘したり、テーマ性の高い旅の記事で提案。アクセス情報や営業時間など、すぐに知りたい情報を盛り込んだ。  
・記事化の過程で、文章による表現技法や画像等の著作権、企業等の機密保持などを学び、記事に反映させた。  
・夏と冬とで異なる観光魅力の取材を通じて、季節平準化を目的とした観光振興のあり方を学んだ。

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携

道の駅「おがわまち」と城西大学（現代政策学部庭田ゼミナール）の学生が連携して、道の駅を拠点とした新たな魅力による町の観光振興を目指し、地域資源を活用した小川町ブランド商品の開発と、映像作品を通じた地域プロモーションを企画・立案します。

①小川町の実地調査

- ・小川町の地域資源調査
- ・道の駅おがわまちの利用状況調査
- ・町民・町役場と学生のディスカッション

学生が道の駅や町民との交流を通して、小川町・道の駅の現状を把握し、町の魅力を発見します。

②小川町ブランド商品の開発

学生と町の生産者が協力し、和紙原料の副産物や有機野菜等を活用した、新たなお土産物や健康効果を内包した食品等を開発し、SNS等を活用したPRを行います。

学生と町の生産者のコラボレーション

③小川町プロモーション動画の制作

学生が町民との交流を通して発見した魅力ある人や風景を撮影し、人と風土をテーマにした映像作品を制作し、広く発信します。

学生と町民のコラボレーション

新たな魅力を創出し、小川町の観光振興を目指します。

【埼玉県 小川町】  
ユネスコ「和紙のふるさと」

1300年も昔からこの地で和紙が造られる。その内の「和紙」の手造り技術の継承が、平成28年ユネスコ無形文化遺産に登録。

豊かな自然と共存する有機農業

未来の生物多様性の共存・共生を尊重することで、化学肥料や農薬を使わない有機農業。いち早くそれを実践し、いまや世界中から持続可能な有機農業の研修に訪れる。

和紙をふんだんに使った七夕まつり。昭和24年から戦後の和紙の復興を願って始まった小川町七夕まつり。艶やかな竹筒りが駅前通りを彩る。夜には花火大会も催され、小川町の夏の風物詩になっている。



【城西大学】城西大学(所在地:埼玉県坂戸市および東京都千代田区)は、大蔵大臣や通産大臣を歴任した水田三喜男によって「学園」による人間形成を理念に1965年に建学されました。現代政策学部(所在地:坂戸市)は、改定学とキャリア教育により、問題解決能力を備えた人材の育成を目指しています。道の駅「おがわまち」での連携プロジェクトに参加する庭田ゼミナールは、「地域活は化政策～まちづくり/観光・交通の研究と実践」をテーマに、理論と実行力を兼ね備えた地域の担い手を育てるため、アクティブラーニングを用いた問題解決型授業を行っています。

【道の駅「おがわまち」】平成6年4月に埼玉県2番目として登録された道の駅。武蔵の小京都と称される小川盆地のやま割りにあり、周囲に山々を抱え、豊かな旗川の流れを汲み、手造り和紙工房が多く集まる。まさに小川町の自然歴史文化の中心に位置します。道の駅内の「埼玉伝統工芸会館」はその主要施設で、県内の伝統的手工芸品の約30品目を一堂に集めた展示施設です。特に、ユネスコに登録された技術である手造り和紙の実演場も多くのお客様が訪れます。また、地元産有機野菜等の直売所も設置され、地物を使ったうどんやそばなどが食べられるレストランもあります。

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携

平成28年度 取組み内容①：小川町ブランド商品の開発～楮の葉を利用した食品開発

**実地調査**

和紙の原料「楮（こうぞ）」に触れてみる

町内の食堂で名物料理を試食

薬学部医療栄養学科と合同授業

日本学生経済ゼミナール大会で商品案を発表

和紙の原料になる皮以外は廃棄されてしまう楮。その廃棄されてしまう葉を利用して、道の駅で販売する食品を考案しました。

商品コンセプトは、道の駅に集うサイクリストやライダーが手軽に栄養を補給でき、テイクアウト可能な地場産加工食品。

城西大学薬学部医療栄養学科の協力により、楮の葉にはカルシウムと食物繊維が豊富であることがわかりました。

そこで、粉末にした楮の葉を練りこんだ皮で小川町産有機野菜を包んだトルティーヤを提案しました。

**栄養ちゃんどトルティーヤ(楮)**

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携



平成28年度 取組み内容②：小川町ブランド商品の開発～かすがら棒を活用した商品開発

事前調査



道の駅の売店と和紙製品をチェック



和紙体験学習センターを見学



和紙製造の副産物「かすがら棒」

和紙の原料になる皮を剥いだ後の楮の芯を、埼玉県小川町地方では「かすがら棒」と呼んでいます。

この和紙の製造工程から出る廃棄物「かすがら棒」の有効活用として、バーベキュー用の薪炭への着火材を提案しました。学生たちは、点火のしやすさや燃焼の持続性等について数回にわたる実験を行い、さがさ状とチップ状に砕いた「かすがら棒」をパッケージとした商品を考案しました。紙袋に入れて販売することで、全て燃やすことのできるエコな商品を意図しています。



かすがらチップ(仮)



BBQに使えるか焼焼実験

道の駅「おがわまち」と城西大学との連携



平成28年度 取組み内容③：小川町プロモーション動画の制作

取組み前の議論



道の駅で意見交換

学生たちが町の方々と交流しながら地域資源を発掘し、小川町の魅力を発信する地域プロモーション動画「小川町 心の旅」を制作しました。動画のコンセプトは、小川町の人と風土。季節ごとにテーマを設定した映像作品を制作・公開しています。



シナリオを作って自ら出演する学生



試写会を行って意見を頂き動画を修正



取材・撮影を通して町民の皆さんと交流できました



季節ごとに動画を制作  
インターネットで公開

道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学（観光学部）の学生が連携し、道の駅でゆったりとした時間を過ごすための『空間演出』に向けたプロジェクトに取り組みます。

①休憩機能の強化

・地魚漁師料理をはじめ、地元食材を豊富に使った食事が楽しめるレストランの魅力を発信する仕掛けづくりの提案



多くのお客様が利用するレストラン

②情報発信機能の強化

・広大な敷地を持つ「鴨川オーシャンパーク」の回遊性を高め、海や花など、施設全体を楽しむことのできる情報発信の提案



水遊びが出来る「千年橋」は、夏後津れにも人気

③道の駅の付加価値を高める

・道の駅利用者の満足度を向上させるため、立地環境を活かした「海」をテーマに、新たなイベントを創出



期に合わせた立地環境を活かし、新たなイベントを創出

【城西国際大学（所在地：千葉県鴨川市）】

城西国際大学は、ウェルネスツーリズム\*を旨とした実践的な観光学を学びます。特に前身な観光、地元鴨川・南房総でのフィールド地域プロジェクトを通しての奥深い教育が特色です。

\*ウェルネスツーリズムとは、「観光者と住民との密着で生み出される人と地域にやさしい観光」のことです。

ウェルネスツーリズム



【道の駅「鴨川オーシャンパーク」】

鴨川オーシャンパークは、文字通り豊かな自然や環境な気候に育まれた鴨川の魅力である「海」と「花」を基本テーマに、訪れる人々に楽しいやすらぎのひとときをつくる観光拠点づくりを目指すとともに、地産地消や文化、芸術分野との連携を図ることで、地域の総合的な活性化と交流の場を目的とした海浜型リゾートパークです。



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携



平成28年度 取組み内容：休憩機能の強化

取組み前の調査

●レストランが居る施設内を調査し、入り口からの動線なども確認



●現状のレストランメニューの課題や改善（案）について、グループ毎に議論



ゆったりと休憩できる空間は、道の駅利用者にとって、魅力的であるという視点から、レストランの魅力を発信することとしました。

従来のレストランメニューは、小鉢などの商品全体が分かるようになっていましたが、説明的な写真ではなく、商品そのものの魅力を映し出すようなメニュー写真となるよう全て撮り直し、見やすく・選びやすいメニュー看板にリデザインしました。

●リデザインされたメニュー看板をレストラン入り口に設置



●特産品・地産品の魅力が伝わるよう、メニュー写真を全て撮り直し



●お客様に魅力が伝わるメニュー看板とし、海のイメージが喚起できる特別ボードも作成



## 道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：情報発信機能の強化

#### 取組み前の調査

- 鴨川オーシャンパークを現地調査し、施設の特徴などを把握



- 道の駅関係者との意見交換



道の駅の入り口に位置する24時間休憩所を情報館化することで、広大な敷地を持つ鴨川オーシャンパークの回遊性を高めることを目指しました。

鴨川オーシャンパークの様々な情報をポスター化し、24時間休憩所に展示することで、情報発信機能の強化を図り、道の駅利用者が施設を有効的に使い、ゆったりと休憩できるよう演出しました。

- 学生が手書きした鴨川オーシャンパークの全体図



- 鴨川オーシャンパークの様々な情報をポスター化し、展示することで、休憩施設を情報館化



- 鴨川オーシャンパーク周辺（太海地区）の観光情報なども展示



## 道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅の付加価値を高める

#### 取組み前の調査

- 観光船の発着所となる漁港にて、安全上の注意や役割分担などを把握



- 実際に船をクルーズし、所要時間や運行コース、船上でのガイドなどを確認



新たなイベントを創出することで、鴨川オーシャンパークの付加価値を高め、道の駅利用者の満足度をより向上させることが出来ないか議論を重ねてきました。

太平洋の大海原を眼前にする太夫崎漁港に隣接する道の駅ならではの特色を活かすため、観光船による「鴨川DEクルージング」を企画し、新しい船の活用方法を提案するとともに、道の駅の付加価値を高めることとしました。

- 海沿いの道の駅の特徴を活かしたクルージングイベントでしたが、運航当日は、強風と高波のため中止。来年度、再チャレンジ！



- 学生が作成した「鴨川DEクルージング」の案内ポスターと乗船券



## 道の駅「とよとみ」と山梨学院大学との連携



道の駅「とよとみ」と山梨学院大学の学生が連携し、道の駅で販売する特産物等の多言語POP広告\*の作成や、留学生の視点による外国人観光客向けの観光施設の充実など、道の駅を中央市のインバウンド観光の拠点とするための取組みを行います。

\*商品名と価格、キャッチコピーや説明文、イラストを手描きしたもの

- 「道の駅」の実地調査  
観光案内所、施設案内表示及び商品ディスプレイなどの問題点の抽出
- 中央市の観光施設の調査  
中央市の「歴史・文化」を学び、留学生の視点で観光地の魅力を発見

反映

- 外国人観光客向けに多言語型パンフレット・POP広告の作成
- 留学生の視点で発見した観光施設の魅力を外国人観光客向けにアピールする改善点の提案

発展

### 道の駅を中央市のインバウンド観光拠点に

#### 【山梨学院大学】

山梨学院大学（所在地：山梨県甲府市）は、昭和21年に創立され、日本文化への深い理解と広い国際的視野をもって社会に貢献する人間の育成を目指し、豊かな教養と創造力を兼ねた人材の形成を図ることを教育理念としています。学部横断型副専攻として観光・ホスピタリティプログラムを行っており、観光、宿泊、レジャー施設等で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。また、国際交流センターではアジア、ヨーロッパ、アメリカ圏からの留学生との国際交流を図ることで、グローバルな視野を養っています。

#### 【道の駅とよとみ】

国道140号線の中央市の玄関口として緑色の屋根が目印、地元産の土づくりにこだわった野菜・果物等の販売をしている。「平成21年度 全国直売所甲子園」にて優勝。特産品：とうもろこしワイン、とうもろこし焼酎、スイートコーン、手作りのハム・ソーセージ

#### 道の駅とよとみ 【特産品のトウモロコシを使った焼酎】



#### 中央市の観光施設 【歴史郷土資料館】



## 道の駅「とよとみ」と山梨学院大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅で販売する特産物について、留学生の視点や感覚で表現した多言語POP広告を作成・表示

#### 取組み前の調査

- 「道の駅」特産物の調査



- 試食して魅力を実感



- 道の駅「とよとみ」特産物等の多言語型POP広告

留学生ならではの視点や感覚を活かし、外国人観光客にも魅力が伝わるような多言語POP広告の作成に取り組みました。

定型な翻訳ではなく、国によって異なる「魅力の感じ方」にあわせ、表現を工夫しました。



※東京オスメのシルクソフトを出店してみませんか



・地元の特産物、誰でも気軽に試食できる魚食、真空パッケージ、収穫祭の特産品は地元の方と一緒に楽しむことができます

- 道の駅シンポジウムで中間発表



異国の味に不慣れなあなたへ、旅行客に人気のワンダーキッチン・レストランとの紹介をぜひどうぞ

## 道の駅「中条」と松本大学との連携



道の駅「中条」と松本大学の学生が連携し、山姥（やまんば）伝説や栃倉の棚田（日本の棚田100選）等のお宝を活かした観光情報発信やお祭りへの参加など、長野市中条の地域活性化に向けた取り組みを実施します。

### ① 「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条のお宝探し

アルプスを望み、虫倉山に抱かれた自然豊かな「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条の魅力を学生の目線で見出し、発信していきます。また、地域の特産物を使った商品アイデアを提案します。

### ② 中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力

地域住民が作りあげる中条地域最大「むしくらまつり」に参加し、イベント企画など情報を発信していきます。

**【松本大学】**  
松本大学総合経営学部の学生が「88（やまんば）プロジェクト」を提案し、道の駅中条を現地研究フィールド拠点として約20名で活動開始。道の駅中条から「未知」を楽しみ、創造（想像）の翼を広げています。

**【道の駅「中条」】**  
長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する道の駅です。

中条の味 餅やき  
山姥（やまんば）

西山大豆  
豆腐ドーナツ

信州百名山「虫倉山」

【道の駅中条 全景】

## 道の駅「中条」と松本大学との連携



### 平成28年度 取組み内容①：子育ての神「山姥（やまんば）」伝説の里 中条のお宝探し

#### 取組み前の調査



●8月プロジェクト、キックオフ・ミーティングを実施しました。  
地域の名産である「餅やき」のパッケージの考案、「むしくらまつり」の連携・協力を中心に活動することを話し合いました。



学生が中条地域について学び、現地調査し、発見した魅力ある資源をもとに、「味（おいしいもの）」、「観（自然豊かな広場）」、「育（子育て伝説）」のコンセプトの元、商品の企画・提案をおこないました。

- 地域の名産「餅やき」の包装デザインを提案
- 山姥（やまんば）伝説にちなんだデザインに



- 地元特産「西山大豆」の味まきや収穫も体験し、大豆を使った商品も開発したいと夢を膨らませました。



## 道の駅「中条」と松本大学との連携



### 平成28年度 取組み内容②：中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力

#### 取組み前の調査

- 道の駅「中条」でのアウトキャンパス・スタディを実施。旧中条村の久保田元夫村長より「むしくらまつり」への思いを伺いました。



- 「むしくらまつり」へ向けて、道の駅「中条」のイベント会場を見学。イメージを膨らませました。



中条地域最大のまつり「むしくらまつり」から地域を盛り上げる企画・提案をおこないました。

- 学生がデザインを提案した「餅やき」の初披露1000個が完了しました。



- 黒川湖を巡るおでんで東北復興を応援



- まつり名物「きのこ干人焼」の調理・ふるまい



- 会場の方も一緒に踊るダンスイベントも企画しました。



## 道の駅「あおき」と長野大学との連携



道の駅「あおき」と長野大学（環境ツーリズム学部）の学生が連携し、道の駅を拠点とした取り組みで、村の魅力を引き出し、観光振興による地域活性化を目指します。

### 取組① 学生による青木村の实地調査

青木村の地域資源調査  
道の駅「あおき」の利用状況調査  
村民への聞き取り調査

学生が村内の調査や村民との交流を通して、青木村・道の駅の現状を把握し、村の魅力を調査します。

### 取組② 特産品を活かした新商品の開発

青木村限定栽培の高表「タチアカネ」を活用したオリジナルメニューにより、青木村の新たな魅力を創出し、道の駅での商品化を目指します。



### 取組③ 村の魅力を活かした観光PR

村の良さである歴史的建造物や古くからある温泉などを巡る観光ルートの提案や、案内マップの作成により、道の駅から村の魅力を発信します。



**【長野大学】**  
長野大学（所在地：長野県上田市）は、知の共同体の構築を理念に1966年に開学されました。環境ツーリズム学部は、社会の幅広い分野で活躍する「教養ある職業人」の育成を目的としています。  
道の駅「あおき」との連携プロジェクトに参加する市川ゼミナールは、「地域活性化への寄与」をテーマに、地域の担い手を育成するための提案を行っています。

**【道の駅「あおき」】**  
平成17年に登録された道の駅。農産物直売所では、村の特産品である「見返り漬り」や、秋には松茸をはじめとするキノコ類などを販売しています。  
道の駅内のレストラン「炭焼こまゆみ」では、青木村限定栽培タチアカネの手打ちそばを食べることが出来ます。

## 道の駅「あおき」と長野大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：「タチアカネ」を活かしたオリジナルメニューの開発

#### 取り組み前の調査

●道の駅、青木村、大学による企画会議



●蕎麦を使った新しいメニュー開発に向け、道の駅にて蕎麦打ちを体験しました。



青木村の特産品である「タチアカネ」の新たな魅力を創出するため、オリジナルメニューを開発

■新たな客層を獲得するため、イタリアンのメニューで試作品を作りました。  
■地域活性化に繋げることを考慮し、食材は青木村産のものを使うことを基本としました。



●蕎麦パスタ  
このほか、蕎麦サラダ、蕎麦コンソメスープ、蕎麦粉のガレットを試作品として作りました。

◎今回作った試作品を基に、今後、商品化に向けた調整を進めていきます。

## 道の駅「ちぢみの里おぢや」と長岡技術科学大学との連携



長岡技術科学大学の学生が、道の駅「ちぢみの里おぢや」と周辺地域が連携したサービスについて、利用者ニーズを把握し、地域活性化方策を検討



### 【小千谷市の概要・課題】

小千谷市は、新潟県のほぼ中央部に位置し、日本一の大河・信濃川により形成され、美しい山河に恵まれている。しかし、人口減や高い高齢化率（H26高齢化率30%）といった課題を有し、中心市街地の賑わいが失われつつある。

賑わいを取り戻すため、集客力のある「道の駅」から「街中」への立ち寄りを目指して、取り組みを実施

### 【取組内容】

- ①道の駅「ちぢみの里おぢや」利用者アンケート調査
- ②アンケート調査結果の分析
- ③道の駅周辺地域の観光・店舗情報、地域特有の情報発信の方法の提案



**長岡技術科学大学**  
長岡技術科学大学は、1976(昭和51)年に設立されました。社会の変化を先取りする“技学”を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指すことを大学の理念としています。



道の駅「ちぢみの里おぢや」  
国道17号沿いに位置する「道の駅」ちぢみの里おぢやは、トイレ、道路情報施設、観光案内所だけでなく日湯温泉施設も備えており、多くの人が訪れます。  
また、道の駅がある小千谷市は、三國峠と新潟市の中間に位置し、特産の麻織物 小千谷縮と錦織で知られています。



## 道の駅「ちぢみの里おぢや」と長岡技術科学大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：地域活性化方策の検討

集客力のある「道の駅」から「街中」への人の流れを生み出す方法を考え、今後の「道の駅」、「街中」の活性化方法の提案を行う

現地調査	調査結果	提案・考察
<p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅の利用者にアンケート調査</li> <li>・周辺の飲食店などを訪れてもらうためのクーポン券の配布</li> </ul> <p>「道の駅」利用者アンケート調査</p>	<p>●男女共に40.50歳以上が半数を占めている 10～30歳代が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者は、市内・県内からが最も多い</li> <li>・利用目的は休憩・トイレが大多数、買い物・飲食が約4割、温泉施設が約1割</li> <li>・観光スポットや飲食店、土産店等の情報を知りたい人が多い</li> </ul> <p>道の駅で知りたい情報</p>	<p>○提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10～30歳代の来訪者が少ないため、若い層に向けてSNSを利用し、魅力あふれる小千谷をアピールする</li> <li>・地域の観光スポット・飲食店・土産店の情報発信を行う</li> </ul> <p>○考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の観光スポット・飲食店・土産店等の運営者を対象としたアンケート調査の実施が必要</li> <li>・道の駅と周辺地域との連携したサービスを持続的に取り組む検討が必要</li> </ul>



## 道の駅「すずなり」と金沢星稷大学との連携



道の駅「すずなり」と金沢星稷大学経済学部の学生が連携して、観光資源を活用し、道の駅を含めた珠洲市全体の地域活性化の企画提案を実施。



### 【珠洲市の概要・課題】

珠洲市は、能登半島の最先端に位置し、美しい能登の里山里海が広がる。金沢市から車で3時間、公共交通機関では4時間以上かかり、地理的不利な位置にある。また、人口減や高い高齢化率（H26高齢化率44%）といった課題を有している。

地域活性化のためには、定住人口増加はもちろんのこと、交流人口（観光客等）の増加が不可欠であることから珠洲市全体の地域活性化を取り組みを実施。

### 【取組内容】

- ①道の駅「すずなり」にて利用者アンケート調査
- ②道の駅「狼煙」にて利用者アンケート調査
- ③珠洲市（徒歩圏）観光調査
- ④珠洲市観光体験調査



### 金沢星稷大学

金沢星稷大学は、昭和42年に金沢経済大学として設立し、平成14年に金沢星稷大学に名称変更されました。建学の精神「誠実にして社会に役立つ人間の育成」の実現を目的に、北陸の産業・文化の発展に寄与するとともに、広く国家社会に貢献することを使命としています。



### 道の駅「すずなり」

廃線となったのと鉄道珠洲駅の跡地に立地。珠洲産にこだわった800種類以上の商品を取り揃え、すずなりオリジナル商品も多数取り揃えています。また、珠洲市の公共交通のハブ機能を持っており、珠洲市観光の拠点となっています。また、観光地への案内の他、各種泊施設や飲食店への軒設、体験アクティビティの窓口として機能しています。



## 道の駅「すずなり」と金沢星稷大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅「すずなり」にて利用者アンケート調査

道の駅「すずなり」利用者にアンケート調査を実施し、珠洲市への集客方法、旧珠洲駅プラットフォームの活用案を提案。

### 現地調査

#### 実施内容

- ・アンケート調査
- ・旧珠洲駅プラットフォーム現地調査



アンケート調査状況

### 調査結果

- ・来訪者は石川県内から最も多く、次いで関東、中部、近畿からの来訪者が多い
- ・目的は観光が大多数
- ・年齢層別で見ると65歳以上の方が最も多く、20%を占める
- ・プラットフォームについては、イベントや記念撮影のスポットとして活用との意見が多数



旧珠洲駅プラットフォーム

### 提案

- 集客方法
  - ・金沢、東京からの来訪者が多いため、この2箇所にアンテナショップの設置や広告で、日本酒・塩などの特産品や観光資源などを重点的にアピール
  - ・20～30歳代の来訪者が少ないため、SNSを利用し、珠洲をアピール



- プラットフォームの有効活用方法
  - ・当時の職員制服を模した衣装の貸出
  - ・拡声器などを使った実際の職員体験
  - ・当時の雰囲気を出す

## 道の駅「すずなり」と金沢星稷大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅「狼煙」にて利用者アンケート調査

同じ珠洲市内にある道の駅「狼煙」でアンケートを実施し、道の駅「狼煙」の問題点を抽出し、改善策を提案。 ※個々の「道の駅」の特性を見るため、道の駅「狼煙」も調査対象とした。

### 現地調査

#### 実施内容

- ・アンケート調査
- ・道の駅現地調査



アンケート調査状況

#### 「道の駅」狼煙

能登半島北端・猿蓑崎灯台まで徒歩10分の所にあり、狼煙町の特産品・大浜大豆と天然にがりを使った地豆腐や豆乳ソフト・おからドーナツ等を販売。他にも地元の新鮮野菜の直売所や豆腐作り体験のできる施設があります。



### 調査結果

- ・中高年代の世代が大半を占める
- ・男女比に差はなく、家族連れが多い
- ・リピーターが少ない
- ・道の駅には寄らず、猿蓑崎灯台に直接向かう人がいる
- ・「狼煙」ならではの商品があるが、案内標識の位置が猿蓑崎灯台から帰ってくる人には見づらい
- ・看板のイメージ写真自体が見にくいため購買意欲が下がってしまう



### 提案

- ・若者客向けの商品が必要
- ・集客率アップのためにTwitterやInstagramなどのSNSを利用した若者客の獲得が必須
- ・観光客が家族連れなのか、ツアーで来ているのかなどを見ながらのサービスが有効
- ・ツーリングの方々へのサービス販売
- ・話題性のあるような広告を作成し、地域ならではの景色や季節ごとの風景、物産を発信することが有効



Instagram作成例

## 道の駅「すずなり」と金沢星稷大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：珠洲市（徒歩圏）観光調査

2017年9月3日～10月22日に珠洲市全域で開催される奥能登国際芸術祭に向けて、徒歩で廻れる散歩コースを開発する



### 現地調査

#### 実施内容

- ・事前に調査し、設定した散歩コースを実際に体験調査



徒歩とレンタサイクルによる調査

### 調査結果

#### 問題点

- ・道の駅すずなり周辺の情報が少ない
- ・レンタサイクルはよかったが、台数が少ない
- ・パンフレットの地図が使いにくい。

### 提案

#### 問題点に対する解決策

- ・多種類のSNSやネットツール等との連携による情報発信
- ・レンタサイクルの自転車の台数を増やす
- ・観光したくなるような特典付きの「何か」を出す
- ・商店街と連携した通年イベントの開催等

#### ○散歩コースの開発

情報コース（所要時間30分）

A-B	約11分	B-C	約4分
C-D	約8分	D-A	約4分



道の駅「すずなり」と金沢星稜大学との連携



平成28年度 取組み内容：珠洲市観光体験調査

道の駅「すずなり」が窓口となっている、体験アクティビティの問題点を調査し、解決策を提案。

現地調査	調査結果
<p>実施内容</p> <p>・体験調査</p> <p>①巣箱づくり・設置</p> <p>②木工体験</p> <p>③座禅</p>  	<p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験者、認知度の不足</li> <li>・交通の便が悪い</li> <li>・体験に対するの関心を得ることが困難(③座禅)</li> </ul> <p>提案</p> <p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語パンフレット等によりインバウンド対応</li> <li>①巣箱づくり・設置、②木工体験</li> <li>・年齢の制限を求めない活動を企画することによって多くの人々と交流する機会を設ける(例)森の中のブランコづくり</li> <li>③座禅</li> <li>・動画の作成、発信</li> <li>・年配の方を対象にした企画(例)孫と座禅をくもう</li> </ul>

道の駅「賤母」と名古屋外国語大学との連携



名古屋外国語大学が道の駅「賤母(しずも)」と連携し、平成27年度から、地域の自然と文化、風習・観光情報の発信に取り組んでいます。外国人観光客・世界へ向けたダイレクトな発信の取り組みとして、大学と連携し多言語による地域観光情報のポータルサイトを構築しました。



道の駅「賤母」と名古屋外国語大学との連携



平成28年度 取組み内容：道の駅のインバウンド対応

①SNSを活用し、体験レポートを英語・中国語にて情報発信

■名古屋外国語大学 ごへー祭りスケジュール

- ・イベント準備 平成28年10月22日(土)
- 場所 第四町内会集会所(中津川市山口987-1)
- 参加者 ごへー名人クラブ 12名
- 名古屋外国語大学 学生6名と先生1名
- 内容 ごへーもち2,150本(6,450個)作成
- ・イベント当日 平成28年10月23日(日)
- 場所 道の駅賤母(しずも)向側広場特設テント付

写真：イベント準備(地域の皆さんのごへー餅づくり)

写真：イベント当日(ごへー餅を焼いて販売体験)

体験レポートを英語・中国語にてSNSで紹介

②地域観光資源を調査し、訪日外国人を呼び込む企画提案

■名古屋外国語大学 短期プログラム

- ①現状把握(12/28、1/14、2/11)
- ・道の駅ヒアリング、現地調査
- ②道の駅周辺調査(2/23~2/25)
- ・道の駅周辺の観光資源調査(清蔵などの商品製造元)
- ③道の駅、市へ向けた調査報告会&意見交換会

■企画提案

- ・馬籠など、周辺の主要観光拠点から、さらに足を伸ばしてもらうため、レンタカー利用者向けの情報発信
- ・地域観光資源を創り出す商工会と情報発信する道の駅とを地域イベント等を通じて連携

■今後の取り組み

- ・今回の企画提案をさらに発展させるため、平成29年度に中津川市において、大学と連携した観光施策研究プログラムの展開を検討

## 道の駅「紀宝町ウミガメ公園」と鈴鹿大学との連携



国内での訪日外国人が増加したことにより、「道の駅」紀宝町ウミガメ公園では、その対応について苦慮している中、外国人訪問者に対して「道の駅」と大学とが連携して、おもてなしを目的とした情報発信や接客等、施設の内容が簡単に把握出来るための取組を実施。



## 道の駅「紀宝町ウミガメ公園」と鈴鹿大学との連携



平成28年度 取組み内容：道の駅のインパウンド対応



## 道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携



H27より道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学が連携して、若者ならではの視点・感性及び専門分野を活かした新たな特産品の創出等、地域活性化に資する取組を進めています。



**【滋賀短期大学】**

1918（大正7）年の「松村義雄速進教授所」創立以来の約100年の歴史ある伝統校で、建学の精神である「心技一如」に基づき、品性と能力を車の両輪のようにたどえ、人格教育と実学教育を融合させることによって、一人ひとりの学生の学び力を引き出すことを基本方針としています。

**【道の駅「竜王かがみの里」について】**

町が目指す「※土産土法」のまちづくりの実践拠点として、新たな特産品の開発など、観光振興及び農業振興を図っています。

※【土産土法】土地のものを土地ならではの料理法でもてなすこと。（竜王町ではまちづくりの手法に取り入れ）

## 道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携



平成28年度 取組み内容：地元産品を生かした新メニューの開発



## 道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅を盛り上げるイベントの開催

#### 取組み状況

●陳列台の見学、構想を練る



●台番（ミーティングの様子）



※15名が参加

●製造や販売の準備



#### ①滋賀短期大学フェア ～滋賀短大から竜王町新名物に立候補～（6/18～19）

- ・「竜王町に新名物パンを」テーマに竜王産の食材を使った特製パンとスイーツを開発
- ・パン、焼き菓子、デザート、ジュースなど総勢16種開発
- ・総勢35名の学生が参加



いもたろう

クローネ

学生による販売

#### ②滋賀短Kids発表会（9/19）

- ・子供達が学んだことを他の人に伝えようとする中で滋賀の魅力をより理解してもらうことを目的に企画
- 発表
- 滋賀の伝統食や季節の食について
- 昔から受け継がれる伝統や、自然、琵琶湖の恵みについて
- ピンゴ大会 など



滋賀短Kids 滋賀の伝統食や季節の食について体験学習



子供達の発表

#### ③ひな達のおもてなし

- （2/11～12）
- 情報提供施設にて、来駅者に出し物等でおもてなし
- パレンティングーキ教室
- カミッシュ口演（紙芝居）
- 紙芝居絵本の読み語り など



パレンティングーキ教室

## 道の駅「近つ飛鳥の里・太子」と京都精華大学との連携



道の駅「近つ飛鳥の里・太子」と太子町について学び、現地調査を行い、大学で学んでいるインターネット配信、ライブ・イベント企画の方法を生かして、**多くの人達を笑顔にできるようなイベント企画、運営の提案**をテーマとして、連携企画に取り組みます。

#### 【連携活動内容】

道の駅「近つ飛鳥の里・太子」で道の駅の業務を体験する。  
（ぶどう祭りのイベントを体験する。）

太子町の観光について知るため、町内の名所・旧跡の散策を行う。  
（竹内街道、町立歴史資料館、観福寺、近つ飛鳥博物館等）



#### 【企画、運営の提案】

○道の駅「近つ飛鳥の里・太子」と太子町を学び問題点を探る。

○「道の駅」のイベント（ぶどう祭）への企画、提案行う。

○太子町の観光への企画、提案行う。

#### 【京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 音楽コース】

音楽コースでは、ロックやポップス、エレクトロニカ、テクノ、ヒップホップ、ボーカロイドなど多様なジャンルのポピュラーミュージックを学びの対象としています。作曲や編曲、録音などの楽曲制作はもちろん、音楽批評や理論についても学ぶことができます。また、インターネット配信やライブ、イベントの企画、レベリングの運営などを通じて、音楽を社会に届ける方法も習得。言わずの知識と技術、音楽の魅力が社会へ発信する力をやし、音楽業界のあらゆる現場で活躍できる人材を育てます。

#### 「道の駅」近つ飛鳥の里・太子 一方葉びとのロマン道う町一

大阪府の南東部、万葉集にも詠まれた二上山の西麓に位置する太子町は、飛鳥時代には蘇我氏の本拠地となり、わが国最初の官道である竹内街道が通っています。「道の駅」は、竹内街道の沿道にありロマン道う町歴史遺産が数多く残っています。また、地元の農家でとれた新鮮「土がついた野菜の産地はバウワッ」な産産物を思い存分に提供しています。ほかでは、簡単に手に入らない旬の現れたて果物を手にする事ができる小さな道の駅です。季節ごとに、おいしいぶどうやミカンの特産品でいっぱいです。

## 道の駅「近つ飛鳥の里・太子」と京都精華大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅「近つ飛鳥の里・太子」と太子町に提案

道の駅「近つ飛鳥の里・太子」と太子町を学び、感じたことや問題点を踏まえた打開策の提案を行いました。

○感じたこと⇒地元の方々に**とても人気のある道の駅、歴史的な名所に人が少ない。**

○問題点

1. 太子町の観光地があまり知られていない。
2. ぶどうなどの特産品が地元以外にあまり知られていない。

○打開策

1. ゆるキャラのたいしくんを**ぶどうキャラに変身**させ、特産品をアピールする作戦
2. 太子町の名所を知ってもらうための**スタンプラリー**の実施
3. 太子町の語点である移動手段をカバーするため、太子町の歴史・温泉の海と特産品（ぶどうなど）の食へ放題などの魅力ある**町内バスツアー**の企画を提案しました。

さらに、今回の連携で道の駅の代表者や太子町の担当者を交えて、意見交換を行い、太子町には、とてもおいしい**ぶどう（特産品）**と**歴史的な魅力のある観光資源**があることを知りました。道の駅だけでなく、太子町を知ってもらい**笑顔のリピーター**を増やすことが重要だと感じました。



ぶどう祭り



竹内街道



提案の発表

【太子町の担当者から】提案をいただきありがとうございます。ゆるキャラのたいしくんの変身は難しいが工夫をしたい。イベントについては、提案を踏まえて考えていきたい。

道の駅「いずみ山愛の里」と桃山学院大学との連携



道の駅「いずみ山愛の里」で地元の農産加工品を販売する「農業法人いずみの里」と桃山学院大学（経営学部）の学生が連携し、地元の特産品を活用した新たな商品提案案！

<p>➢ 秋の収穫物（特産品）のうち、みかん、さつまいもと葉を使用した新製品開発の提案と試作品作成を依頼</p> <p>➢ 製品として、みかん大福、芋羊羹、コロッケパーガー、大学いもなどを提案</p> <p>➢ 学生自身も、サツマイモクッキーの製品化を試みる</p>	<p>反映</p>	<p>➢ 提案した製品（みかん大福、大学いも、米粉ラスク）を大学内で試験的に販売</p> <p>➢ 販売にあたり、学生・教職員に向けた広報と販売方法の検討・決定</p> <p>➢ 購入者に対するアンケート調査実施</p> <p>➢ 改善点を含めた活動結果報告</p>	<p>【期待する効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■特産品の生産（開発）者の意識向上</li> <li>■地域活性化の担い手となる人材の育成と確保</li> </ul> <p>和歌山県 和歌山市のゆるキャラ「みつしゅ」</p>
---	-----------	---	---

<p>【桃山学院大学】</p> <p>昭和34年に経済学部経済学科からスタートし、現在では、5学部6学科と大学院4研究科を擁する都市型総合大学で、「キリスト教精神に基づく世界の市民の養成」を建学の精神としています。</p> <p>今回、参画する「経営学部」は、「社会に役立つことを喜びとし、みずから考え積極的に行動するビジネスパーソンを育てる」という教育理念をもとに昭和48年に設置されました。</p>	<p>【農業法人いずみの里】</p> <p>和泉市の農家女性が集まって、平成13年に設立。大阪府内初の農家女性による農業法人。</p> <p>平成20年から道の駅「いずみ山愛の里」でマーマレードや季節のジャム、米粉パンなど、ガラス越しに見学できる加工室で製造、できたての味の販売を行い、ふるさとの味、お母ちゃんの味をさまざまな形で発信しています。</p>	<p>【道の駅いずみ山愛の里】</p> <p>道路や観光案内はもちろん、和泉市の特産品・農産物・加工品の展示販売や、近隣「道の駅」の相互紹介、農産加工室での加工実演・加工品の販売や体験教室、地域食材を使用した加工食品の開発なども行っています。</p> <p>農産物は、和泉市内の農家のみなさんが大切に育んだ採り時のトマトなどの新鮮野菜、瀬川みかんなどの果物を和泉市から発信しています。</p>
---	---	--

道の駅「いずみ山愛の里」と桃山学院大学との連携



《道の駅「いずみ山愛の里」と連携し新商品を大学内で販売》

<p>道の駅スタッフとの打合せ状況</p>	<p>大学内での販売状況</p>	<p>販売した商品</p> <p>■みかん大福 ■大学いも</p> <p>■米粉ラスク</p>
-----------------------	------------------	---

<p>《道の駅「いずみ山愛の里」で販売》</p> <p>道の駅での販売状況</p>	<p>《規格外の特産品を商品化》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■規格外の「小さのみかん(2Sサイズ)」を活用した「みかん大福」</li> <li>■学内販売では、売上げ1位商品となる</li> </ul>
---	---

道の駅「かなん」と大阪市立大学との連携



道の駅「かなん」と大阪市立大学が連携して、なにわの伝統野菜の一つである『玉造黒門越瓜（タマツクリクロモンシロウリ）』の機能性（効能）をより効果的にPR！

<p>➢ 「なにわの伝統野菜」の一つである『玉造黒門越瓜』について、生活習慣病の予防効果とその作用メカニズムを研究</p> <p>➢ 研究した結果、以下の改善効果を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○抗肥満効果</li> <li>○アルコール性肝疾患の予防効果</li> </ul>	<p>反映</p>	<p>➢ 現在販売している、玉造黒門越瓜の「ぬか漬け」のパッケージに「〇〇に効果有」等を表記し、体に良いことをアピール。</p> <p>➢ 生で食べるサラダや、煮たり炒めたりして熱を入れたときの効能を調べてもらうことで、今後の商品開発に役立てる。</p>	<p>【期待する効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■なにわの伝統野菜に高付加価値を与え、生産者と消費者を結びつける手段の構築</li> <li>■地域農産物販売促進</li> <li>■生産農家の活性化</li> </ul> <p>河内市のゆるキャラ</p>
--	-----------	---	---

<p>【大阪市立大学】</p> <p>1880年（明治13年）に開校された大阪商業講習所からスタートし、現在では、8学部と大学院10研究科を要する都市型総合大学で、「優れた人材の育成と真理の探究」を大学の普遍的使命としています。</p> <p>今回、参画する「新産業創生研究センター」は、大学の普遍的使命に加え、「研究成果を社会に還元し、地域社会ひいては国際社会の発展に寄与する社会貢献活動を第三の使命」と位置づけ、1990年（平成2年）に設置されました。</p>	<p>【農事組合法人かなん】</p> <p>平成16年4月に道の駅オープンの同時期に発足。以来、道の駅にある農産物直売所施設「河内町農産物活性化センター」の管理運営を実施。</p> <p>モットーは、地域住民や、観光客、そしてドライバーに親しまれる「ふれあい」の場の提供。</p> <p>主な事業の柱は、「農産物等販売部門」「農産物加工部門」「情報発信部門」。</p>	<p>【道の駅かなん】</p> <p>パーキングエリアでは、駐車場・トイレ・休憩所・公衆電話等を備え道路案内やくつろぎ、憩いなどのサービスを提供しています。</p> <p>併設の農村活性化センターでは、地域の農産物や特産物の展示・PRをはじめ、地場産のなにわ伝統野菜・果物・生花及び地元素材を使った、もち、米粉パン、みそ、ジャムなどの加工品などを提供しています。</p>
--	--	---

道の駅「かなん」と大阪市立大学との連携



<p>《平成28年度の取組》</p> <p>大阪市立大学において、「なにわの伝統野菜」の一つである『玉造黒門越瓜』の生理作用として、生活習慣病予防効果の検討</p> <p>○抗肥満効果の検討</p> <p>玉造黒門越瓜の「漬けもん（ぬか漬け）」及び玉造黒門越瓜（生または煮）の各抽出物の抑制作用について、細胞レベルでの抗肥満効果を評価</p> <p>○アルコール性肝疾患の予防効果の検討</p> <p>アルコール性肝疾患モデルを用いて、玉造黒門越瓜の「漬けもん（ぬか漬け）」及び玉造黒門越瓜（生または煮）の各抽出物について効果検証を実施</p>	<p>《平成29年度の取組》</p> <p>道の駅「かなん」において、『玉造黒門越瓜』を活用した新商品の開発や効果検証結果をPRした商品販売の実施予定</p> <p>道の駅「かなん」での販売状況</p>
--	---

<p>「なにわの伝統野菜」の基準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①概ね100年前から大阪府内で栽培されてきた野菜</li> <li>②苗、種子等の来歴が明らかで、大阪独自の品種であり、栽培に供する苗、種子等確保が可能な野菜</li> <li>③府内で生産されている野菜</li> </ol> <p>道の駅「かなん」で販売している「なにわの伝統野菜」</p> <p>毛馬胡瓜、勝間南瓜、金時人参、天王寺蕪、田辺大根、玉造黒門越瓜、鳥刺茄子、確井豌豆、大阪しろな</p>	<p>玉造黒門越瓜とは</p> <p>大阪府の玉造門（黒門）付近が発祥地。果長約30cm、太さ約10cmの長円筒型。色は濃緑色で、8～9条の白色の鮮明な縦縞がある。</p>
---	--

## 道の駅「但馬のまほろば」と甲南大学との連携



甲南大学経営学部の学生11名が、道の駅「但馬のまほろば」で平成28年11月23日に開催された「冬のまほろば祭」に甲南大学ブースを出店し、マーケティング論におけるコミュニケーション戦略の実践をした。

### <連携内容の確認>

- ・道の駅「但馬のまほろば」からイベント協力の依頼

### <企画・提案>

- ・マーケティング論のコミュニケーション戦略実習として企画
- ・スイーツ店「レオニダス&ガトーモエア（神戸岡本店）」協力のもと、「甲南大学オリジナルスイーツ」を開発・製造

### <期待する効果>

- ・商品開発から販売まで携わり生きた経済学習
- ・戦略的な広報計画

【甲南大学 経営学部 西村順二研究室】  
甲南大学経営学部は1960年に開設された、関西の私立大学では最初の経営学部で、2010年には50周年を迎えました。  
西村順二研究室では、企業や地域の団体、さらには地方自治体に対して、製品・サービス開発やコミュニケーション戦略の提案を実施しています。身の回りにあることから、研究テーマを設定し、理論研究とフィールド調査との相互作業から、マーケティング論を学ぶことを目指します。

【道の駅但馬のまほろば】  
道の駅「但馬のまほろば」は但馬の玄関口に位置し、歴史と雄大な自然を感じることが出来る交流拠点です。産直コーナー、スローフードレストラン、但馬各地のお土産売場があり、免税専用カウンターも設置されています。また、全国でも珍しく、博物館「古代あさご館」が隣接している道の駅です。



## 道の駅「但馬のまほろば」と甲南大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：「冬のまほろば祭」に甲南大学ブースを出店

#### オリジナルメニュー開発



- 開発にあたっては10～60代の約400人に「好きなスイーツの味」などへのアンケート調査、東京のデパ地下でのトレンド調査を実施した
- 「レオニダス&ガトーモエア 神戸岡本店」の協力のもと、試作を合計6回実施し、4種類の「甲南大学オリジナルスイーツ」を考案した
- 豚蹄のように分け合って食べることが出来る「しゅあまん」や、スプーン型のクッキーで食べる「パワージュ」など、デザイン面でもユニークなアイデアを取り入れた

#### 甲南大学ブース出店



- 「ユイトロス」「しゅあまん」「ショコラーゼ」の3種類をあわせて限定100個を試験販売した。
- イベントPRのため、朝来市の特産品「岩津ねぎ」の文字パネルを撮影スポットとして提供し、写真とハッシュタグ「#ネギイベ」をSNSで拡散してもらった。
- たくさんの方々に来店いただき、無事に完売することが出来た。

## 道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携



帝塚山大学食物栄養学科の学生と連携し、平成23年9月に発生した紀伊半島大水害に伴い閉鎖していた道の駅のレストランを、季節限定で再開。毎週日曜日に営業。

道の駅 大学生  
観光振興の再出発点 地域振興を学ぶ学生の課外活動  
就業体験の場の提供 若者の視点・スキル等の活用

道の駅学生運営レストラン  
「TEZU Cafe(テゾカフェ)」

【活動報告】  
活動開始 H28.5.8  
活動人数 帝塚山大学現代生活学部 食物栄養学科4年生 21人  
活動期間 4ヶ月間(5～9月)  
活動日数 23日  
来客人数 約1700人  
売 上 約102万円  
卒業式 H28.11.19  
報告会 H28.11.29



「TEZU Cafe(テゾカフェ)」を運営している帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科と内装デザインを手掛けた居住空間デザイン学科の皆さん。

#### 【連携活動内容】

- 学生が、食材の仕入れや調理、接客にいたるまですべて運営。
- 地産産物の材料を用いて開発した「帝塚山大学オリジナルメニュー」等を利用者に提供。
- 知名度向上のため、各種イベントへの参加やテレビ番組等メディアへの出演

#### 【活動した学生の感想】

- 課題を発見し解決に向けて諦めず、最後まで考えやり遂げる力がついた
- 課題解決には様々な方法があるため、物事をあらゆる側面から捉える広い視野を持つことができた
- 目標達成にむけて昨年とは異なる新しいことを企画・実行することで創造力と行動力が身についた
- 個人がチームの一員であることを自覚し、それぞれ役割を持ってスキルを発揮することができた

#### 【帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科】

食物栄養学科では、医療や福祉、行政、学校などの幅広い分野で戦力として活躍できる臨床に強い管理栄養士を育成するために、基礎から知識を深め、多くの実習経験を通じて「実践力」を身につける実学教育を実施しています。  
地域や企業と連携したさまざまなプロジェクトに参加することで、食育指導や食品開発、給食事業分野に生かせる企画・提案力、マネジメント力、コミュニケーション能力を養います。

#### 【道の駅 吉野路大塔】

UFOのような外観が特徴の施設。五條市大塔町の様々な観光情報をはじめ、特産品を一室に集めた総合案内センターです。



## 道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅レストラン営業、オリジナルメニュー開発等

#### TEZU Cafe営業(23日間)



帝塚山大学現代生活学部居住空間デザイン学科にTEZU Cafeの内装デザインの変更を手掛けてもらい、新メニューでグランドオープン

#### イベントへの参加(出店)



知名度向上のため、各種イベントへの参加  
・道一グランプリ(2017年9月24・25日)※「交流創造賞」受賞  
・道の駅EXPO(2017年3月9日～12日)

#### オリジナルメニュー開発

地域の交流、健康を意図した食材(桑の葉)を使用した、製菓のプロの先生との共同開発によるオリジナルスイーツの開発など



オリジナルスイーツ「桑の葉入りチーズケーキ」

「だいようカレー」唐肉を調理したジビエ(特殊の食材)こだわりのオリジナルカレー

#### 活動報告会

五條市長をはじめとする関係者への「TEZU Cafe」第2期生の活動報告





道の駅を中心とした田辺市大塔地区地域活性化

平成27年度より田辺市大塔地区の地域活性化のため、和歌山大学経済学部野間ロゼミはふるさとセンター道の駅大塔において、熊野古道ウォーク、道の駅活性化のためのSWOT分析による提案、餅つかぬ里ぼうり伝説(※)の村での餅つき、新製品として、ぼうりチョコの開発などをおこなってきた。

(※) 村人が旅中の宮様に「餅はない」と嘘をついたことを悔やみ、その後村では餅をつかなくなり、餅に代わるものとして里芋を煮込んだぼうりを用いるようになった。



それに対して、平成28年度はその2年目の取り組みとして、百間山溪谷ウォーク、乙女の猿顔ビューポイントの探索をおこない、安川溪谷ウォーク、和歌山大学経済学部における「ぼうりチョコ試食会」の改良提案など、来年度の実施に向けた準備もおこなった。

【和歌山大学経済学部野間ロゼミ】  
地域活性化のお手伝いのために、ビジネスモデルのデザイン、技術による商品開発のアイデア創出をしています。

【道の駅ふるさとセンター大塔】  
田辺市大塔地域の拠点施設のひとつとして林産物、特産物をご用意し、道路利用者の皆様と、地域の交流をサポートする施設です。



平成28年度 取り組み内容：道の駅周辺の観光資源の発掘と情報発信

百間山溪谷、安川溪谷のウォーキングの結果をSNSで情報発信



ぼうりチョコ試食会、企画提案、マスコミへの情報発信(紀伊民報)



平成28年度 取り組み内容：Facebookでの情報発信



## 道の駅「たからだの里さいた」と香川大学との連携

道の駅「たからだの里さいた」と香川大学（「地域インターンシップ」全学共通科目）の学生が連携して、施設利用者の増加促進を図る企画提案を行います。

**①道の駅の課題の把握**

- 今後増加が予想される諸外国からの来訪者に対応した施設案内板となっていない。
- 日帰り温泉施設「環の湯」に、若い世代の利用者が少ない。
- 物産館では地元の多くの農産物が販売されているが、オリジナル商品がない。

**【道の駅の問題点の探求】**

物産館・温泉・宿泊施設などが充実し、一見思ったように見えない道の駅の課題を明らかにし、働いている方から現状を聞き取り、今回の取り組みに反映します。



↓ 反映 ↓

**②施設利用者の増加促進を図る企画・提案**

- 施設案内板の多言語化
- 「環の湯」の若者の利用客を増やす
- 冬に販売可能な商品の開発

**【香川大学による地域インターンシップの目的】**

香川大学では、低年次で地域に出向き、地域づくりの現場・しごとを理解し、地域課題解決への参加を通じて、①社会貢献、②課題探求・解決力の修得、③感動的学習を目標としている。



**【道の駅「たからだの里さいた」について】**

道の駅「たからだの里さいた」は、新鮮な野菜と果物が毎日出荷される産直市場を兼ね、温泉・宿泊施設も備え、四国霊場のお巡り立ち寄り場所となっている。



**【道の駅「たからだの里さいた」の拠点】**

香川大学（所在地：香川県高松市）は、6学部、9研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根ざした学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」において、平成25年度に採択され、全学的に推進主体が連携し、船高麗美や街の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組みしています。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

## 道の駅「たからだの里さいた」と香川大学との連携

平成28年度 取組み内容：施設案内板の多言語化

**施設案内板作成の流れ**

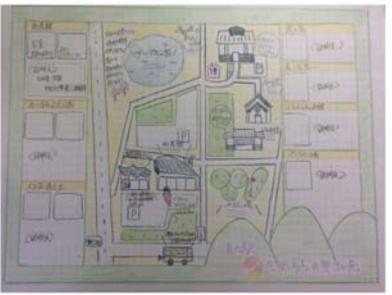
- 施設紹介文・デザインの作成（→その後、デザイナーさんの修正）
- 紹介文の多言語化（三豊市国際交流センターへ依頼）
- 看板の業者に作成依頼

※今回は、①の部分を担当




（現在ある道の駅内の案内板）（多言語化された香川県内の案内板）

**案内設計の原案**



**●作成にあたっての検討事項**

- デザイン作成にあたり、香川県の多言語表記された観光案内板を参考。
- 施設との打ち合わせで、紹介を行う道の駅内の施設の選別や、周辺の施設を案内図の中に加えるか等の検討。
- 現在設置されている「道の駅」の案内板を参考に施設の配置等を検討。

**中国語表記したアイスクリーム注文表**



増加傾向にある外国人観光客が、たからだの里さいたの施設で、気軽に訪れることができる物産館での外国語表記を行った。（中国人観光客に向けて）中でも、バス移動での休憩として道の駅を訪れた観光客も、気軽に購入できるアイスクリームについて中国語での表記を行った。

## 道の駅「たからだの里さいた」と香川大学との連携

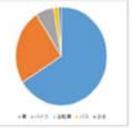
平成28年度 取組み内容：「環の湯」の若者の利用客を増やす

**取組みまでの経緯**

- 当初の課題：利用者の多くは高齢者が多いことから、「環の湯」の若者の利用客を増やす課題を受け取る。
- 様々な案を提案：若者の利用客を増やす案を、何案か施設側に提案するなどして検討を進める。
- 課題の変更：バイク、自転車の利用が多いことを知り、「バイク、自転車でのたからだの里を訪れる方に環の湯に来ていただく」に課題の変更。
- アンケートの実施：アンケート用紙を作成し、2回に分けて利用者110人から回答を得る。回答を整理・分析し、効果を期待できる提案を行う。

**アンケート結果**

道の駅までの交通手段



**交通手段別の環の湯認知度**

車

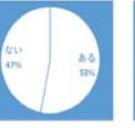


バイク



**交通手段別の環の湯利用状況**

車



バイク



**「環の湯」**

**分析**

- 道の駅に来た目的を交通手段別に見ると、バイクは68%が休養で、次いで20%が物産館、車は80%が物産館で、次いで27%が休養。
- 環の湯の認知度は、車が90%に対して、バイクは85%。
- 道の駅に来る頻度では、週1回以上が車18%に対して、バイク42%。
- 環の湯を知っていて利用する比率は、車53%に対して、バイク80%。

**対策の提案**

**バイクに対しての広報**

- バイクの目につきやすい場所への「環の湯」への広報が必要。
- 広報にあたり、駐車場と休憩所があることを伝える必要性がある。
- 今後、「環の湯」の清潔感をアピールする方法も必要。

**アンケート実施状況**

道の駅を訪れるバイカーに「環の湯」が知られていない。

バイクは、温泉に入りやすい。

## 道の駅「たからだの里さいた」と香川大学との連携

平成28年度 取組み内容：冬に販売可能な商品の開発

**試作品ができるまでの経緯**

- 物産館の入り口では、季節の野菜や果物を使ったアイスクリームが販売されている。

そこで・**冬でも売ることができる商品をつくってほしい！**

物産館を見ていると、猪肉・鹿肉と書いてあるところに興味が出てきた。

→猪肉・鹿肉を使った商品をつくろう！

**商品開発にむけて**

- ★1回目の提案
  - ・店内に物産館で売っている豚肉を使ったハローソーサー
  - ・店内に物産館で売っている豚肉、鹿肉を使ったハッシュドミート
- ★2回目の提案
  - ・トマトをコアにグラタンやオムライス
  - ・トマトをコアにオムライス
  - ・トマトソーサー
  - ・ミックスソース

「肉巻きおにぎり」の商品化は難しい。そこで、冬に売りたい商品を使った商品をつくろう！

★1回目の提案  
おにぎりをコアにグラタンやオムライス

★2回目の提案  
おにぎりをコアにオムライス

※今後、商品化に向けてさらに検討予定。

**試作**

**ライスコロッケ**

- 人参、三葉草、玉ねぎを刻んで、炊きおいたたからだの里のケチャップライスと一緒に炒める。
- ご飯をゴルフボールくらいの大きさに丸めて卵、パン粉をつけて揚げる。
- 残ったトマトとケチャップをいためトマトソースを作ったら完成！

**肉巻きおにぎり**

- 炊き込みご飯をにぎりぶしくらいの大きさに丸める。
- 猪肉を塩コショウ・みそ・塩麹の3種類に分けてやく。
- おにぎりに猪肉をまいて完成！



道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学(「地域インターンシップ」全学共通科目)の学生が連携して、立ち寄りた道の駅づくりをコンセプトに景観改善等の企画提案を行います。

**①小豆島の特性と道の駅の課題の把握**

- ・カヤックを入れているコンテナが地味で、何が入っているのかわからない状態
- ・小豆島ふるさと村にある体験施設や宿泊施設、売店等豊富な施設内容が外国人に知られていない
- ・トイレに関する改善点の把握

**【周辺の魅力探求のためのフィールドワーク】**  
小豆島の魅力、道の駅「小豆島ふるさと村」周辺の観光資源を把握するため、フィールドワークを実施し、道の駅で提供可能な企画提案に反映します。

**②景観改善等、施設の活用促進を図る企画・提案**

- ・カヤックの本格シーズンまでに、コンテナに絵を描く
- ・外国人向けの、各施設の案内カードの作成
- ・道の駅トイレについてのアンケート調査の実施と分析

**③島民との交流**

- ・小豆島ふるさと村祭り(9月10日)の手伝い

**香川大学**  
香川大学(所在地:香川県高松市)は、6学部、9研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根ざした学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」において、平成25年度に採択され、全学的に県内自治体と連携し、離島集約や街の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組んでいます。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携

平成28年度 取組み内容:カヤックの本格シーズンまでに、コンテナに絵を描く

**取組みまでの経緯**

- 小豆島の魅力、道の駅「小豆島ふるさと村」の「課題」や周辺の「観光資源」を感じ取るためにフィールドワーク及び道の駅の視察を実施
- カヤックを入れているコンテナが地味で、何が入っているのかわからない状態
- 課題を「カヤックの本格シーズンまでにシーカヤックのコンテナに絵を描く」に決定
- デザイン案を考える(島内を散策し、二十四の福をモチーフにしたカエルのオブジェを参考)
- 下準備をする(足場、材料の用意)
- 絵を描く(7月2日、3日の1泊2日で下書きから色塗りまで行い完成させた。)

**カヤックを入れているコンテナ**

描く前

描いた後(完成)

**フィールドワーク状況**

**参考にしたカエルのオブジェ**

**デザイン案**

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携

平成28年度 取組み内容:外国人向けの、各施設の案内カードの作成

**取組みまでの経緯**

- 当初の課題  
外国人観光客の近年の増加を背景として、「多言語表記された施設案内看板の作成」
- 現地でわかった問題  
小豆島ふるさと村にある体験施設や宿泊施設、売店等の豊富な施設の内容が外国人に知られていない。
- 課題の変更  
施設内容を伝えることが重要ということで、外国人向け「各施設の案内カードの作成」に変更。
- 案内カードの作成  
最初の段階のため、英語での作成。その際、小豆島の国際交流アドバイザーに協力を得る。

**多言語案内カードの作成例<シーカヤック>**

**表**  
Sea Kayaking

**裏**

**〈記載した内容〉**

**表裏**  
施設・アクティビティの概要  
一紹介文、時間、料金、開催期間等

**裏裏**  
表裏に関連する詳細  
一コース内容、宿泊施設の内容等

**〈今回カード作成した施設等〉**

- レンタサイクル
- シーカヤック
- そうめんのはし分け
- うどん打ち
- オートキャンプ場
- ファミリーラジック 計6個

**打ち合わせ状況**

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携

平成28年度 取組み内容:道の駅トイレについてのアンケート調査の実施と分析

**取組みまでの経緯**

- 当初の課題  
事前に、「道の駅トイレ施設の景観改善 壁画・アート作品等でトイレ空間を楽しんでもらう」の課題を受け取る。
- トイレを使った感想  
初回訪問で、「臭いが気になる」「外側より内側を変える方が良い」、「利用者やスタッフがどう思っているのか」を感じた。
- 課題の変更  
「道の駅トイレに関するアンケート調査の実施・分析とそれを踏まえた改善点の提案」に変更。
- アンケートの実施  
アンケート用紙を作成し、スタッフ20名、利用者40名から回答を得る。回答を整理・分析し、3つの改善点の提案を行う。

**アンケート結果**

**道の駅女子トイレ**

**アンケート用紙**

**分析**

- 男性に多かった意見  
掃除不足  
蛇口を自動水流に
- 女性に多かった意見  
臭いが気になる  
洋式トイレが少ない
- 男女共に見られた意見  
洋式トイレを増やす  
ウォシュレット

**外観よりは内部に対しての意見が圧倒的に多い**

**トイレ設備の改善は必要!**

**対策の提案**

- 設備の充実  
・洋式トイレ、ウォシュレット、自動水流、便座クリナー……
- 臭い対策  
・芳香剤・消臭剤・消臭剤塗布  
・空調(換気)  
・掃除用具をきれいに保つ
- 掃除の回数を増やす

## 道の駅「ピオスおおがた」と高知工科大学との連携



道の駅「ピオスおおがた」と高知工科大学（経済・マネジメント学群 永島研究室）の学生が連携して、「道の駅」を拠点としたイベントやホールウォッチング事務所で滞在型学生ボランティア活動実施、東京芝浦で黒潮町のPRを実施

### ①滞在型学生ボランティア活動

- ・「道の駅」を拠点に開催されるイベントやホールウォッチング事務所で学生ボランティアスタッフとして参加

反映

### ②黒潮町の観光ニーズや課題調査

- ・滞在期間中、道の駅「ピオスおおがた」、砂浜美術館、ホールウォッチングにて黒潮町の観光についてアンケート調査を実施

発展

### ③イベント参加による黒潮町のPRと商品販売『今日の食卓に高知の一品を』テーマに

- ・「道の駅」と大学との連携企画の活動経験を9月の東京芝浦で開催する「芝浦運河まつり」において黒潮町の特産品販売等、黒潮町のPRを実施

### 高知工科大学

高知工科大学（所在地：高知県高岡市）は、集中的な自習を可能にするオータ制や学生の自主性を養った全科目選択制など、先進的な教育システムをいち早く取り入れており、4学群を設けています。  
このうち、経済・マネジメント学群は、7つの専攻を設定しており、1年次から2年次前半には、学群共通の経済系・経営系の専門基礎科目を学び、2年次後半以降は「専門発展科目」を、さらに3～4年次では各専攻において「専攻領域科目」を学び、専門性を高めます。  
また、各専攻の地域活性化政策担当や地域再生事業に関わるリーダー、大学教員等の講師が、講義、パネルディスカッション、グループワーク等を通して、より実践的な教育を推進する「地域活性化システム講座」は、高知工科大学ならではの特色ある教育プログラムとして注目を集めています。

### 【高知工科大学による商品販売促進の実績】

高知工科大学では、学生自らが、自然景観文化、伝統芸能などと顧客の共感、感情といった新たなマーケティング論を研究してきた実績があり、これらのノウハウを活用していきます。

芝浦運河まつりでの高知産品販売促進



### 【道の駅「ピオスおおがた」について】

道の駅「ピオスおおがた」では、「カツオたたきバーガー」が人気商品。隣接する砂浜美術館では、自然を舞台にしたTシャツアート等を展開し、情報を発信中。



## 道の駅「ピオスおおがた」と高知工科大学との連携



### 平成28年度 取組み内容③：イベント参加による黒潮町のPRと商品販売『今日の食卓に高知の一品を』テーマに

#### ・芝浦運河祭りでの成果

毎年、イベントを行っている芝浦の町興しの一環で今年で3回目の出店となります。黒潮町でボランティアに参加し、地域の人々との交流を図ることにより黒潮町のPRをしたいと思い参加した。現地のお客様の中で、高知県黒潮町を知っている人はほとんどいなかったが、自分たちが黒潮町の干物や缶詰と半ケンピを来場されているお客様のところに直接出向き、販売する際に黒潮町の紹介をすることによって目標に立てていた『黒潮町を知ってもらう（PRする）』ことが達成できた。

●芝浦運河祭り会場の様子



●黒潮町のPR活動の様子



●商品販売活動の様子



## 道の駅「ピオスおおがた」と高知工科大学との連携



### 平成28年度 取組み内容①：滞在型学生ボランティア活動

- ・ゴールデンウィークをさむ9日間(4/30～5/8)にかけて黒潮町に滞在し、Tシャツアート展会場やホールウォッチング事務所で学生ボランティアスタッフとして活動

#### ・Tシャツアート展会場

道の駅に隣接する入野の浜で平成元年から毎年5月上旬に開催されている、黒潮町の代表的イベントの一つです。公募により募集したイラスト等をTシャツに印刷し砂浜で展開しました。

●Tシャツアート展会場の様子



●Tシャツ返送作業の様子



### 平成28年度 取組み内容②：黒潮町の観光ニーズや課題調査

- ・アンケートについては3箇所で約350名の県内外の人から協力頂きました。

●アンケート調査受付の様子



アンケート用紙



## 道の駅「つ」の宮崎大学との連携



道の駅「つ」の宮崎大学（教育文化学部）の学生が連携して、地域資源を活用し、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

### ①都農町の現状把握と分析

- ・町内の「産業」や「自然」を視察し、地域の状況を把握
- ・道の駅「つ」の利用者のアンケート調査を実施し、ニーズを把握

反映

### ②都農町の魅力を再発見し、町を元気にできるような取り組みを開始

- ・町内の若者団体に対し活動報告と交流会を行い、都農町の「人」を知る活動を実施
- ・都農町の魅力に対し、どのような町おこしができるか企画を提案

発展

### ③地域の特色を生かした、「町おこし」に関する企画等を実施

#### 【宮崎大学】

1949（昭和24）年の創立以来の歴史ある伝統校で、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念とし、教育文化学部、医学部、工学部、農学部及び大学院研究科から構成されています。  
平成28年4月には「地域資源創成学部」が新たに設置され、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を積極的に捉える視野を持った人材を養成し、地域から愛護が高い、実社会で即戦力として、日本中で活躍できる人材の輩出を目指しています。

#### 【地域の状況を把握】

「都農ワイナリー」や「都農神社」、「矢野の滝」などを視察し、体感することで状況を把握。



名勝地「矢野の滝」を背景に、道の駅「つ」の現状を把握するためのアンケート調査を実施しました。

#### 【地域の状況を把握した町おこし等の企画提案】

宮崎大学と大分大学が連携し、「都農町のプランディングの具体案について」をテーマに企画提案を実施



#### 【道の駅「つ」について】

道の駅「つ」では、地域特産のトマトをメインにオリジナル商品の開発に取り組み、さらなる地域活性化に寄与していきます。



## 道の駅「つ」の宮崎大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：宮崎大学・大分大学合同ゼミ合宿

- ・宮崎大学・大分大学のゼミ生が2日間合同合宿を実施。（H28.12.10～H28.12.11）
- ・班編成された学生が、地域資源を活用した「都農町のプランディングの具体案」をテーマに地域活性化等の企画提案を実施。

#### ■1日目

- ・現地視察  
「都農神社」「都農ワイナリー」など都農町内を視察し、どのような魅力があるのか調査。
- ・企画の検討・プレゼンテーションの準備  
都農町にある魅力に対しどのような町おこしができるか、企画を検討

#### ■2日目

- ・企画提案の発表
- ・講評



●宮崎大学・大分大学ゼミ生による企画発表

#### ■発表された主な企画提案

- ・T1グランプリ（つ）のNo.1決定戦  
毎年、都農町特産食材をテーマに設定し、優勝チームの商品を1年間道の駅にて提供する。
- ・思い出ワイン  
地元出身者が帰る機会が少ない課題を解消する為に、地元特産である都農ワインを活用した企画、「思い出ワイン」を提案。
- ・結婚式を都農町民で協力し実施する企画。町の商店街をウェディングロードとし、都農神社で式を挙げる。



●宮崎大学・大分大学合同ゼミ合宿 研究発表会

## 道の駅「生月大橋」と長崎県立大学との連携



道の駅「生月大橋」と長崎県立大学の学生が連携し、「道の駅」を拠点とした地域活性化等の企画提案を実施

### 取り組み内容等

1. 長崎県立大学 田村准教授のゼミナール学生13名が担当
2. 主な活動内容（平成28年6月～平成29年2月）
  - ①道の駅「生月大橋」の調査および生月周辺地域の調査（平成28年6月～平成29年1月）
  - ②先進地調査：集客力が高い道の駅の現地調査（平成28年7月）
  - ③ゼミ生による長崎県内外の道の駅の調査（平成28年8月～平成28年9月）
  - ④道の駅「生月大橋」利用者に対するアンケート調査（平成28年11月～平成29年1月）
3. 上記内容をもとに最終報告書を作成。学生視点からの活性化への提案は以下の通り。  
（提案1）食資源の活用：地元の豊かな食を活かした軽食（飲料、アイスクリーム等）の提供、軽食スペースの充実  
（提案2）周辺施設との役割分担：周辺の直売所と連携し、施設の強みを生かした活性化例：情報（観光関連）提供機能の強化

長崎県立大学は、佐世保市にある佐世保校（経営学部・地域創造学部）と西彼杵郡長与町にあるシーボルト校（国際社会学部・情報システム学部・看護栄養学部）の2つのキャンパスからなります。平成28年4月に5学部9学科体制へ改編。グローバル化や情報化に対応できる人材育成と共に、教育内容を実学（現場）重視の実践的な内容へ一新し、「主体的に考え、行動できる人材」の育成を進めています。

道の駅「生月大橋」は、平戸島と生月大橋を結ぶ生月大橋のたもとにある。生月島への玄関口に位置している。地元の特産品の販売のほか、生月島の観光情報の提供スペース、休憩スペースが設けられている。また、敷地内には記念撮影のスポットが設けられており、生月大橋をバックに最高のスポットから写真撮影ができる。



## 道の駅「生月大橋」と長崎県立大学との連携



### 平成28年度 取組み内容：道の駅「生月大橋」の現地・周辺調査、先進事例調査

#### 1. 現地調査

- ①回数：4回  
平成28年6月、11月…各1回  
平成29年1月…2回

#### ②調査結果からの魅力・課題

- 魅力：生月大橋と海を目の前にした、美しい景観  
課題：1）景観を楽しむための施設の整備  
2）休憩スペースと飲食スペース  
3）観光スポット・特産品の情報提供方法  
4）周辺の他の施設との連携

#### ●学生による道の駅利用者へのアンケート（上）、周辺地域調査（下）



#### 2. 先進事例調査

- ①期間：平成28年7月～9月
- ②先進事例をもとにした今後の活性化への示唆  
1）豊富な食資源を活かした活性化、もしくは食に関する情報発信  
2）農協・漁協など地域の他の組織との連携。



## 道の駅「昆虫の里たびら」と長崎県立大学との連携



道の駅「昆虫の里たびら」と長崎県立大学の学生が連携し、「道の駅」を拠点とした地域活性化等の企画提案を実施

### 取組内容等

1. 長崎県立大学 大田講師のゼミナール学生14名が担当
2. 主な活動内容（平成27年10月～平成28年7月）
  - ①道の駅周辺の地域資源の調査および現地視察（平成27年10月～12月）
  - ②学術論文等から道の駅に関する先行研究を学修（平成27年10月～平成28年1月）
  - ③先進地調査：集客力が高い道の駅に対してヒアリング調査（平成27年12月）
  - ④競合他者を含めた利用者に対するアンケート調査および集計作業（平成27年10月～平成28年7月）
3. 上記の活動内容を踏まえて、連携事業の最終報告会として、平成28年7月22日に学生が大学生の目線からの提言を「道の駅」関係者に対して行った。  
 (提言) 案1 観光適応タイプ 「学べる道の駅」：「昆虫」を充分に活用した提案  
 案2 地元密着タイプ 「くつろげる道の駅」：軽食のとれるカフェを設置する提案

長崎県立大学は、佐世保市にある佐世保校（経営学部・地域創造学部）と西彼杵郡長与町にあるシールト校（国際社会学部・情報システム学部・看護栄養学部）2つのキャンパスからなります。平成28年4月に9学部9学科体制へ改組。グローバル化や情報化に対応できる人材育成と共に、教育内容を充実（現場）重視の実践的な内容へ一新し、「主体的に考え、行動できる人材」の育成を進めています。

道の駅「昆虫の里たびら」は、国道704号線、平戸市の玄瀬口に位置し、巨大カブトムシのモニュメントが自印となっている。地産産品を中心に、農水産物や特産品等の販売をする物産館には、特設カメラで撮影した昆虫学賞が展示されており、体験スペースには、観光、季節のイベント情報など豊富に発信されている。



## 道の駅「昆虫の里たびら」と長崎県立大学との連携



### 産学連携事業 最終報告会 <道の駅「昆虫の里たびら」>活性化へ向けた提案

1. 最終報告会 日時  
平成28年7月22日（金）14：00～
2. 最終報告会 次第
  - ・開会の挨拶
  - ・流通・経営学科 大田ゼミナール3回生 大学生による最終報告  
報告：20分、質疑応答：20分
  - ・教員謝辞
  - ・閉会の挨拶

●報告を行った林田俊介さんと瀧森巨哉さん

●報告会の様子（2）



●報告会の様子（1）



●報告会の様子（3）

●報告会后、会場玄関にて



## 道の駅「みえ」と別府大学との連携



道の駅「みえ」と別府大学の学生が連携して、イベントを活用し、道の駅を拠点とした地域の人と観光客との交流、地元の特産品を活用した商品開発を企画提案します。

- ①道の駅「みえ」の魅力やイベントの概要、内容を把握
  - ・道の駅「みえ」イベント来場者層やニーズを把握
  - ・豊後大野市三重町の「特産」を学び消費者にニーズを把握
- ②イベント内容の企画・提案
  - 体験型イベント
    - ・食物栄養科学部の特性を活かし、道の駅にある食品を使った科学の実験を地域の子供達や観光客と実施
  - 参加型イベント
    - ・秋まつりでのゲンエンジャーによる食育ショーを実施、自らSNSで発信し、道の駅みえへのイベント参加を告知
- ③特産品を使用した、加工品開発

事前打合せ



### 【別府大学について】

別府大学は、建学の精神「真理はわれらに自由にする」に基づいて、学問研究の究極目的を真理の探究に置いて、すぐれた学問研究の実現をめざすとともに、学問研究に基づいて養われる強い敬業に基盤づけられた自由な人間、高い専門能力と広い敬業を兼ね、豊かな人間性を備え、進んで社会に貢献しようとする人材を養成することを目的としています。  
 また、地域にある大学としての自覚に基づいて、人材の育成を通じて地域社会に貢献すると同時に、学問研究を通じて学術・文化・社会の発展に寄与することをめざしています。

### 【道の駅「みえ」について】

道の駅「みえ」は、地元の方々と季節毎のお祭りやイベントで連携しており、地元の方々にとっても嬉しい場となっています。



## 道の駅「みえ」と別府大学との連携



### 平成28年度 取組み内容①：体験型イベントの企画・提案

- ・道の駅「みえ」の浴衣デーに合わせ、体験イベント「食品を使った科学の実験」を開催。
- ・道の駅「みえ」の秋まつりに合わせ、イベントに参加「ゲンエンジャーによる、食育ショー」と学生による「SNSでの発信」を行う。

### ●発酵食品学科の生徒による科学の実験(浴衣デー)



### ●【道の駅みえ 秋まつり】食物栄養学科の生徒によるゲンエンジャーの食育ショー

